

平成 26 年度活動実績報告

1. 「平成 26 年度事業実績報告」概要版（理事会報告 2015 05 21）
2. 平成 26 年度活動実績報告（総括的報告書 2015 06）
3. 各部門「事業実施評価表」
4. 資料
 - 4.1 各部門の FD・SD 研修会資料
 - 4.2 各部門の CA

1 学生・生徒・園児の入学及び在籍状況

(1) 入学者数（平成 26 年 5 月 1 日）

設置学校	入学定員	入学者数	充足率
山陽学園大学 大学院看護学研究科	6	5	83
看護学部看護学科	80	85	106
総合人間学部言語文化学科	60	45	75
同 生活心理学科	60	35	58
合計	200	165	83
山陽学園短期大学 食物栄養学科	80	63	79
幼児教育学科	100	111	111
合計	180	174	97
附属幼稚園	40	24	60

(2) 在籍者数（平成 26 年 5 月 1 日）

設置学校	収容定員	在籍者数	充足率
山陽学園大学 大学院看護学研究科	12	9	75
看護学部看護学科	320	352	110
総合人間学部言語文化学科	250	161	64
同 生活心理学科	250	131	52
合計	820	644	79
山陽学園短期大学 食物栄養学科	160	145	91
幼児教育学科	200	231	116
合計	360	376	104
附属幼稚園	120	80	67

2. 諸活動

(1) オープンキャンパスの状況

開催日	参加者数	保護者
6 月 2 日(土)	242	49
7 月 21 日(月)	268	65
8 月 23 日(土)	280	51

9月27日(土)	120	41
10月25日(土)	26	6
10月26日(日)	19	7
合計	955	219

3. 事業実績

【山陽学園大学大学院・山陽学園大学・山陽学園短期大学・山陽学園短期大学附属幼稚園】

平成 26 年度活動実績報告

平成 26 年度においては、建学の理念である「愛と奉仕」の精神の基に、教育 研究 社会活動・地域貢献を柱として、事業を展開した。

また、大学運営のガバナンスの確立に努め、Plan-Do-Check-Action(以下、P D C A)を基本的手法として取り入れた。

1. 教育関連事項

1) 教育方針

建学の理念：「愛と奉仕」の精神を基盤とし、人々の健康で文化的な生活や、グローバル化・共生社会の実現などに貢献できる人材の育成を旨として、専門的な知識・技能の修得に加え、一人ひとりの個性を尊重した教育に努めた。

2) 教育活動

大学院・大学 653 名、短期大学 376 名、計 1029 名の在学生（26 年 5 月 1 日時点）に対して、全学的な方針（26 年度事業計画）のもとに、各学部・各学科の特性を踏まえて、多岐にわたる教育活動を行った。

また、特に、近年、入学者充足率・在籍者充足率ともに低い総合人間学部については、受験生や在学生にとって魅力ある学部・教育とするために、教育課程の拡充に取り組んだ結果、司書課程 2 年目で申込者 9 名（2 年 5 名、3 年 4 名）・家庭科教職課程 2 年目で申込者 7 名という状況であり、新しい取り組みが徐々に軌道に乗りつつあるものの、定員割れの解消には至っていない。そこで、学部学科の再編に向けて、「将来構想プロジェクト」において検討を重ねた。また、英語集中特別プログラムの創設、教養教育の充実、課題探求型・問題解決型授業の増加、学習支援の強化等に取り組んだ。

3) キャリアサポートと就職支援

- (1) キャリアカウンセラーを適正配置し、面談等個別指導の充実を図った。
- (2) キャリアラボ（P C 20 台）等のキャリアサポートシステムの活用により支援を行った。
- (3) 就職懇談会、企業研究会等の開催により支援を行った。
- (4) 各種検査、資格検定取得の支援を行った。
- (5) 各種合同説明会、就職セミナー等の情報提供による支援を行った。
- (6) 卒業生の就職率（就職決定者数／就職希望者）が上昇した。

総合人間学部言語文化学科以外の学科の就職率は 100%を達成した。

言語文化学科も留学生を除くと 100%を達成している。

総合人間学部	：生活心理学科	100%	言語文化学科	85.7%
看護学部	：看護学科	100%		
短期大学	：食物栄養学科	100%	幼児教育学科	100%

(7) 看護師国家試験合格率

H24 年度 35 人中 31 人合格 合格率：88.57%

H25 年度 83 人中 75 人合格 合格率：90.36%

H26 年度 69 人中 62 人合格 合格率：91.30%

(8) 保健師国家試験合格率

H24 年度 35 人中 31 人合格 合格率：88.57%

H25 年度 77 人中 53 人合格 合格率：68.83%

H26 年度 64 人中 63 人合格 合格率：98.44%

4) 平成 26 年度退学・除籍者数、割合

1029 名の在学生のうち、45 名 (4.4%) が退学あるいは除籍となった。

大学では、総合人間学部言語文化学科；8 名 (5.0%)、同生活心理学科；6 名 (4.6%)、看護学部看護学科；10 名 (2.8%)、大学院看護学研究科；2 名 (22.2%) が退学あるいは除籍となった。

短期大学では、食物栄養学科；8 名 (5.5%)、幼児学科；11 名 (4.8%) が退学あるいは除籍となった。一人一人への丁寧な対応に努めたが、年次目標値 (3.5～4%) の達成には至らなかった。

退学の主な理由は、進路変更、経済的理由、学力の低さ、精神的・身体的理由などで、退学が懸念される学生については、アドバイザーやクラス顧問が根気強く指導にあたり、修学意欲の維持・向上等を図るとともに、教授会でも審議したが、特に経済的理由の場合には、退学に至る場合が多かった。

除籍の主な理由は、学納金未納と修学の意思がない、などである。留学生の場合は、学納金未納のまま除籍となるケースが後を絶たない等の課題が残っている。

5) 学生募集

平成 26 年度は各学科で策定したアクションプランを確実に実施し、その他の諸事業も鋭意継続実施した。特に TVCM 放映・新聞 (山陽新聞「岡山の大学へ行こう」企画への参加等) 等の各種メディアを活用し、幅広い年代をターゲットとした広報を行った。高校訪問についても、訪問校に重点度を設け、訪問者も限定して行った。その結果、オープンキャンパス参加者数は対前年 107%、推薦・AO 入試の志願者数は対前年 104%と増加した。

総合人間学部の学生充足率向上も至上命題とし、アクションプラン・その他の諸事業に取り組んだが、生活心理学科は留学生を除く日本人学生で 30 人 (H25) →31 人 (H26) →32 人 (H27) と 30 人を確保したものの、言語文化学科は 17 人 (H25) →30 人 (H26) →13 人 (H27) と減少する結果となった。26 年度後期から「IELP 英語特別集中プログラム」を実施し、英語資格特待生制度や 30 歳以上の社会人を学費の面で優遇する特典を設け、各 1 名の入学者があったが、入学者の大幅な増加には結びつかなかった。英検 2 級有資格者が高校 3 年生全体の 2%程度であること、どのような「学び」を経て成長に結びつくのか、という面で弱かったことが要因と考えられる。社会人・シニア世代入学へも

学費優遇制度が十分浸透しなかった。

①入学状況（平成27年5月1日現在）

設 置 学 校	入学定員	入学者数	充足率
山陽学園大学	人	人	%
看護学部看護学科	80	84	105
総合人間学部言語文化学科	60	32	53
〃 生活心理学科	60	36	63
大 学 計	200	152	76
山陽学園短期大学			
食物栄養学科	80	73	91
幼児教育学科	100	102	102
短期大学計	180	175	97
附属幼稚園	40	40	100

②在籍者数（平成27年5月1日現在）

設 置 学 校	収容定員	在籍者数	充足率
山陽学園大学			
看護学部看護学科	320	357	112
総合人間学部言語文化学科	250	152	61
生活心理学科	250	137	55
大 学 計	820	646	79
山陽学園短期大学			
食物栄養学科	160	134	84
幼児教育学科	200	208	104
短期大学計	360	342	95
附属幼稚園	120	95	79

6) 山陽学園大学大学院の教育研究活動の開始

平成26年4月、看護学研究科看護学専攻修士課程（入学定員数：6名）に、2期生5名が入学した。
 平成26年度には大学院としての完成年度を迎え、平成27年3月には1期生として入学した学生1名が
 厳格な審査を経て卒業した。当面の課題は、入学定員の確保、在籍学生の研究活動等の一層の充実、お
 よび大学院としての研究指導や修士論文作成等の教育体制の強化である。

2. 研究関連事項

平成 25 年 11 月に設置された研究機構は、平成 26 年度は地域ニーズに基づく研究活動と、競争的外部資金獲得を中心的課題として活動した。地域ニーズに基づく研究活動としては、岡山県における精神障害者の地域支援・権利擁護システムの開発に向けての基礎調査研究事業(地域支援に関する委員会)への参画を行い、平成 26 年度は当該研究事業の最終年度として研究データの分析評価と研究事業報告書の作成に参画した。競争的外部資金獲得については、平成 26 年度の「私学総合改革支援事業」への公募(平成 26 年 9 月)を行うとともに、平成 27 年度の同事業への公募に向けて学内教学体制の見直しや、学外関係団体との連携の強化に着手した。

3. 社会活動・地域貢献関連事項

1) ボランティア支援・社会サービスセンター関連

- (1) 公開講座を 4 回実施：認知症カフェ・普通救命講習 I
- (2) 学部持ち回りの市民公開講演会を実施：11 月 2 日：武富 豊講師(天満屋女子陸上部総監督)
- (3) 「Sanyo 子育て愛ネット」事業を実施：幼児教育・食物栄養・看護の 3 学科が 3 回開催
- (4) 「大学コンソーシアム岡山」の積極的活用：日曜子ども大学・エコナイト・東日本ボランティア
- (5) 地域と協働連携事業を推進：食物栄養学科が健康文化懇話室開催(6 回)。平井学区の防災キャンプ(5 月 25 日)危険箇所点検(6 月 8 日)栄町町内会消防訓練(10 月 12)日へ学生が参加
- (6) 地域の教育機関等へ講師を派遣：幼児教育・公衆衛生・看護・カウンセリング・文化的内容が主
- (7) 行政機関等へ委員を派遣：食・衛生・健康・看護・カウンセリング・社会教育・まちづくり等が主
- (8) 学内外のボランティア活動の実態を把握し、その連携と支援方策を検討した。
- (9) 平井地区から岡山市、県、全国へと社会活動・地域貢献の輪を広げるための戦略を立て実践：
表町の中之町サンデーデントワーカーに学生が仮設ブースを出展(9 月 28 日 10 月 5 日 11 月 9 日)
- (10) 学さば：オリエンテーションや前期試験前の活動で新入生の不安解消に取り組んだ。
- (11) さんぽと隊：地域のこどもたちの見守、学内の自転車通学生への安全啓発活動を実施
- (12) 教員免許状更新講：定員を超えるほどの多くの受講希望者を集めることができた。
- (13) ユネスコ ESD 岡山大会への学生の参加：食物栄養学科からボランティアとして学生が参加した。

2) 国際交流・留学生支援関連事項

- (1) グローバル化に対応した、積極的な外国人留学生受入と支援の強化のため、共生・グローバル推進センターを、2014 年度中に準備し、2015 年 4 月 1 日から正式に設置した。
- (2) 国際交流事業のさらなる活性化
 1. 短期交流受入 提携校湖西大学生との合同チームでうらじゃ祭参加、提携校中華大学生と市長表敬訪問、
一般財団法人日本国際協力センターの「JENESYS2.0」歴史文化第 9 陣フィリピン訪日団の本学受入れ
 2. 短期交流研修派遣 韓国へ従来の言語文化学科学生だけでなく、本年度は生活心理学科、短大の食物栄養学科の学生も参加
 3. インターン受入 従来の国際ホテルに加え、本年度は市役所にも派遣

- 4. 中期留学生受入 提携校中華大学・提携校湖西大学から
- 5. 中期留学生派遣 従来の韓国、ニュージーランドだけでなく、本年度は米国も
- 6. 文部科学省日本語・日本文化研修国費留学生 本学へ受入

4. 大学運営関連事項

大学の教育、研究、社会活動・地域貢献を支える基盤は大学運営にあり、一元的で柔軟な組織となるよう努めた。

1) 教授会の機能の明確化

学長のガバナンスを強化し、より迅速かつ柔軟な意思決定を行うため、教授会の機能を検討し、教育研究に関する重要な事項の審議に限定した。これは学校教育法の改正とも軌を一にするものであり、学内の関連諸規程等の改正も行った。

2) 副学長複数制の導入

同じく、従来の濱田副学長に加え、谷一尚教授を副学長に選任した。これも学校教育法の改正の趣旨に沿うものである。

3) 健康安全推進機構

学生のメンタルヘルスの充実を図るため、学生相談室の場所をわかりやすい場所に変更するとともに広報に努め、前年度に比べ相談件数が10%増加した。

学生、教職員の災害時の安全対策を推進するため災害避難マニュアルを作成するとともに、携帯電話のメールにより安否確認できるシステムを導入した。

4) 大学ポートレートの公開

大学ポートレートとは、全国の各大学の情報を共通のフォーマットでホームページ上に公表する仕組みであり、平成26年10月より稼働が開始されている。これに合わせて本学でも、公開内容について検討を行った上で、必要な情報を公表している。

平成 26 年度活動実績報告

平成 26 年度においては、建学の理念である「愛と奉仕」の精神の基に、教育 研究 社会活動・地域貢献を柱として、事業を展開した。

また、大学運営のガバナンスの確立に努め、Plan-Do-Check-Action(以下、PDCA)を基本的手法として取り入れた。

1. 教育関連事項

1) 教育方針

建学の理念：「愛と奉仕」の精神を基盤とし、人々の健康で文化的な生活や、グローバル化・共生社会の実現などに貢献できる人材の育成を旨として、専門的な知識・技能の修得に加え、一人ひとりの個性を尊重した教育に努めた。

(生活心理学科)

アドミッションポリシーについては、とりわけ A0 入試において入学志願者に対して丁寧に確認をおこなって、本人の入学の意思がそれと合致していることを確かめている。その上で、事前の複数回に及ぶ面談における評価を数値によって記述し、時系列的に見て本人の学力や意欲が高まっていることを確かめ、最終的にアドミッションポリシーとの合致を再度確認して名簿登録の段取りを踏むようにしている。

(言語文化学科)

面接等による適正な評価に努めた。A0 入試においては、第 1 回目の相談時に相談カードと調査書の提出を求め、受験者の希望と本学科が求める学生像が一致し、入学後の必要な学力が確認されるまで繰り返し面談を行った。

(看護学部看護学科)

面接時による適正評価を目標にしていたが、充分機能していない。

面接時の各グループの標準化を行った。

(食物栄養学科)

A0 入試は、栄養士を目指す意志と適正を学科教員共通の認識の下に判定した。

登録前の面談では、志望理由や食に関する関心について時間を割いて話を聞くとともに、筆記試験による基礎的な計算力の確認も行った。計算力がレベルに達しない志願者に対しては、問題の解説を行い、学習を促し、原則 1 週間後に再確認した。

(幼児教育学科)

短期大学は、学術と研究とを行うべき大学であるが、一方で社会人基礎力を十分に身につけた人材を社会に送り出すことが求められる。そのため幅広い学生を受け入れ、本人の

適性に応じて就職・進学を考えさせることを徹底した。入試においては高等学校の内申書成績との相関関係の高さを考慮し、特に特別推薦入試と A0 入試において、2 年次 GPA の差が著しいことからこれらの入試においては慎重に入学者を選抜した。また、一般推薦 I 期に「基礎学力検査」（国語の学習に関する基礎的な問題）を導入した。他方、センター試験及び一般入試においては極めて成績の良い学生が集まる傾向があることが GPA 分析によって判明したため、これらの入試結果からは昨年度よりも多めに学生を採用した。他の方法と比較して、学力的に遜色のない学生を集められることが認められた。

2) 教育活動

（生活心理学科）

山陽スタンダードの基幹科目としての「知的生き方概論」は、これまでどおり出欠を厳格に取るとともに、授業中の態度等にも複数教員を配置してしっかりと管理した。また「人間学」においては、これまでの授業実績を踏まえつつも、新たな視点でより学生の生活に即した視点で、健康と文化を考えるような展開をおこなった。

（言語文化学科）

教養教育のうち山陽スタンダード科目では、建学の理念と歴史、および健康と文化に関する価値観を高める教育を行った。2 年次には学科全員で大学祭に参加し、学園への帰属意識を高めた。1 年次の平井ラーニングや 2～3 年次の異文化理解活動を通じて社会活動を奨励し、地域貢献への価値観を高める教育を行った。

（看護学部看護学科）

5 の行動目標に従い、積極的に実施した。

（食物栄養学科）

一般教育科目では、人文科学系の開講科目が少ないので、非常勤講師による倫理学を開講した。社会科学系の現代ニュース概論では、山陽新聞社の特別講師による“新聞を通して社会の動きを知る”をテーマにした講義を計 5 回行い内容の一層の充実を図った。また、知的生き方概論では、学科特性の時間を活用し、キャリア教育に加えて社会と自己の関係を見直す内容を加えて、社会人基礎力の養成を図った。

（幼児教育学科）

「知的生き方概論」は、山陽スタンダードとして位置づけられ、新入生が本学の学生として誇り高いアイデンティティを確立することを目指し、i) 学園の歴史と建学の理念、ii) 健康で文化的な生活への関心、iii) 学科の特性に応じた初年次教育の三分野で構成され、平成 25 年度からは、全学共通科目としての認識を新たにし、内容面での充実が図られ、平成 26 年度も踏襲された。その結果、学生がこれら三分野において興味関心を高め、授

業その他において実践への心構えが出来ていることが確認された。

3) 学力向上のための、各学部・学科のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）のさらなる実質化

（生活心理学科）

シラバスの改善点として、過年度の成績分布を示したり、WRS（ライティング、リーディング、スピーキング）の重点配分を示したりといった点が課題となっているが、まだ達成できていない。

（言語文化学科）

学士力の向上を目指し、厳しい学力評価と同時に、きめ細かい履修指導と相談を行った。2年次末には、修得単位数と GPA 値を基に3年次への事実上の進級制度を厳格に適用しつつ、進級が困難な日本人学生については学生本人への履修指導と保護者も含めた四者面談を実施し、保護者の理解と協力を得ながら指導にあたった。また、1年次末、3年次末にも修得単位数の少ない学生に対して注意喚起と個人指導を行った。

専門必修科目では1年から3年にかけて体験交流を重視した教育を行い、特に3年次では異文化理解活動やボランティア活動への参加を促し、多文化共生社会を作る要員としての資質の育成に努めた。平成26年度入試より導入した英語資格特待生制度による入学者はなかったが、後期から実施された英語集中特別プログラムには8名の申込者があった。

（看護学部看護学科）

シラバスの内容の充実、成績評価を厳格にするため、平成27年度から進級要件を導入した。

（食物栄養学科）

食物栄養学科では、校外実習を実務教育上の一つの到達点としてカリキュラム上極めて重要な位置づけとしている。このため、実習期間を栄養士法施行規則に定められている単位数の2倍（2単位）とし、実習先も全員が実習生となる小学校と選択施設（福祉施設、病院、給食会社など）の2か所で実習を行っている。実習期間は各1週間ずつ、計2週間である。これまで、校外実習は2年生前期に2週連続で実施してきたが、臨床栄養、給食管理および栄養指導などの専門教育科目は講義や学内実習が完了していない時点での実習となり、学生の知識と理解度、技能など十分でない面が多々あり、実際に受け入れ施設からの指摘もあった。そこで校外実習の実をあげるためにカリキュラムの改善について検討を重ねた。その結果、実習施設の協力を得て、2年生の前期（6月）に小学校、後期（11月）には福祉施設、病院、給食会社などと分離して実施することとした。時期を分けることで、学生にとっては実習前の到達目標がより明確となり、学習や事前準備に取り組みやすくなると考えられる。

(幼児教育学科)

GPA (Grade Point Average) を導入し、各学生の総合的で厳格な成績評価を行うとともに、奨学生選考の参考資料等にも活用してきた。また GPA は講義中心の教科のみならず実践的な教科の評価も取り入れているため、GPA の高い学生は低い学生よりも一般的に短大生活への適応が良い等、この指標の信頼性が高いことが実証され、学生の適応診断の一助としても応用された。

音楽教育においては学生に対して、ピアノ練習へさらなる激励が大切と考えられる。また実践的な幼稚園・保育所などでの授業内容はますます充実しており、指導案等の書き方に関しても5領域の教員の指導が実を結びつつある。

4) 学習支援の強化

(生活心理学科)

初年次教育の充実化やアクティブラーニングのさらなる推進など、次年度(27年度)の課題として積み残したものがある。

(言語文化学科)

学習に関する支援は、教務部、学生部、留学生センター、キャリアセンターなどと連携して行った。特に休学・退学を含む履修指導や相談に関しては、アドバイザー制度が極めて重要な役割を果たしている。

初年次教育として、山陽スタンダード科目の教育に加え、専門科目「基礎演習Ⅰ、Ⅱ」において大学生活へ適応、アカデミックスキルの修得、学習およびキャリア教育の基礎作りを行った。この科目は、10～15名程度のクラスに分かれて実施しているが、共通のシラバスに基づいて学習項目を統一しながらも、学生の国籍や教員の指導方法の特性に応じた指導を行う方法をとっている。また、1年次生を対象とした基礎学力向上プログラムとして、国語(日本語)学習も行った。その他の初年次教育としては、専門必修科目「コミュニケーション概論Ⅰ、Ⅱ」でコミュニケーションの基本を学び、コミュニケーション力養成の基礎作りを行った。

(看護学部看護学科)

アドバイザー制度を活用しており、きめ細やかな学習支援を行った。

入学前学習の検討を行い、次年度には効果判定を厳格に行う。

初年次教育の効果

(食物栄養学科)

学科の取り組みとして、オフィスアワー加えて、昼休みや空き時間を利用し学生の質問

や相談に対応した。数学や化学の基礎学力の底上げを図った。また 10 月と 11 月には、二年生を対象に栄養士実力認定試験対策講座を行った。

(幼児教育学科)

図書館等の利用については学生に随時、働きかけてきたが、さらに自力での学習習慣を築きあげるよう、働き掛けを続けて行く必要がある。またオフィスアワーを活用しての学生に対する相談は次第に活発さを増しているが個人差があり、学業に関する相談に試験直前にのみ来室することがあるため、普段からの学業相談を勧めるよう、講義などの機会を見て学生に周知した。

講義の中でも効果的な学習の仕方について各教員が随時、指導している。

5) 学生の就活力、就業力の向上と就職支援を行った。

キャリアセンターでは、学生一人ひとりが自信を持って就職活動を行い、納得のいく就職を決めることが出来るよう、1 年次から卒業年次まで様々な角度から連続した支援を行った。

また、専門職への就職率向上や就業後の離職率の低下を目指した指導を行った。

(1) キャリアセンターの体制

部 長	1 名 (教員兼任)	次 長	1 名
課長補佐	1 名	主 任	1 名
職 員	1 名	臨時職員	1 名

兼任 1 名、専任 5 名の 6 名体制で、そのうちキャリアカンセラー (CDA : キャリアデベロップメントアドバイザー) の資格を持つ者が 3 名となっている。また内 1 名は、キャリアコンサルティング技能士 2 級 (国家資格) を有している。

(2) 窓口での就職支援

キャリアセンターの窓口では、専任職員 4 名 (うちキャリアカウンセラー 3 名) が大学・短大の学生一人ひとりに応じた個人相談や指導を行った。

求人票検索や企業情報の提供、履歴書作成のアドバイスなど応募書類を整えることから就職決定時まで、学生と一対一の面談を重ね、個々の学生に応じた内容で対応、指導を行った。

(3) キャリアサポートシステムによる就職支援

平成 21 年度文部科学省 GP 採択により整備された「求人票、企業情報等の検索」や「就職ポートフォリオの作成」ができるキャリアサポートシステムの利用促進を図った。

1 年次より学生全員をシステムに登録するとともに、20 台の専用 PC を配置したキャリアサポートラボを設置し、利用促進を図った。

また、本システムは、学内はもとより学外からもパソコンや携帯電話で求人票や企業情報が確認できるようになり利便性が向上した。

(4) インターンシップへの協力

就職支援の一環として、総合人間学部の科目として単位化され、岡山県中小企業団体中央会の支援を受け実施している「インターンシップ」への協力を行った。キャリアセンターは事務的な関わりにとどまらず、企画・運営についても科目担当教員に対しての協力を行った。

学生時代に、実社会を体験することは、自信をもって社会に出ることへの有用な動機づけともなり、就職活動を学生自らが積極的に進めることに役立っている。

(5) その他の就職支援

①学科の授業と連携した取り組み

看護を除く4学科で、キャリアセンターが主導して行う「社会人入門」という科目を設置し、学科別に社会人としての必要な知識を習得させた。

社会人入門では、キャリアセンターが作成した「キャリアガイドブック」を基に、一部外部講師に依頼している部分はあるものの、キャリアセンター職員も企画・運営に関わり、自ら教材を作成して就職活動の要点を説明し、年々変化する就職活動に対して必要かつタイムリーな情報提供を心がけた。

②就職支援行事

保護者や就職活動に臨む在学生を対象にした「就職懇談会」や「就職支援バス」、「実践！若者就職塾」、「卒業生による業界研究会」及び「就職セミナー」等を授業のない週末に企画、実施した。

その他、教員及びキャリアセンター次長による企業訪問を実施し、企業および本学卒業生との繋がりを大切にした。

③各種検定や資格取得支援

学生の基礎学力向上と就職活動への動機づけを目的として、漢字検定・秘書検定・日商PC検定等の資格取得を支援した。秘書検定は、検定試験直前に4回にわたる対策講座を主催することで学生の理解を深め、合格率の維持向上に努めている。

④専門職学内企業説明会

各学科別に専門職就職を対象に、学内に企業、施設等をお呼びして行う学内説明会として「保育士合同面接会」(幼教)、「栄養士等業界研究会」(食栄)、「実習病院就職説明会」(看護)を、各学科の教員と協力して実施した。

(6) キャリアセンターWG (キャリア運営委員) の開催

各学科2名の教員及びキャリアセンター役職員3名の計13名で構成されており、就職支援対策等を検討するために毎月1回開催した。

なお、平成26年10月にキャリアセンター運営委員会を廃止し、キャリアセンターW

Gに改組した。

(7) 就職率 (5月1日現在)

学 科			26年度	25年度
大学	看護学科		100.0	98.7
	総合人間	生活心理	100.0	92.9
		言語文化	95.0	100.0
短大	食物栄養		100.0	100.0
	幼児教育		100.0	100.0

(8) 今後の課題

- ①各学科の就職率水準を維持するとともに就職先の質と学生の就職満足度の向上を図る。
- ②参加者の少ない就職支援事業を検証する。
- ③新規求人先の開拓や過去に就職していたが最近求人がない企業など企業訪問先の拡大を図る。
- ④学生への就職支援の質を一層向上させるためにキャリアカウンセラーの養成を継続的に取り組む必要がある。

6) 学生支援 平成26年度退学・除籍対策者数、割合

1029名の在学生のうち、45名(4.4%)が退学あるいは除籍となった。

大学では、総合人間学部言語文化学科；8名(5.0%)、同生活心理学科；6名(4.6%)、看護学部看護学科；10名(2.8%)、大学院看護学研究科；2名(22.2%)が退学あるいは除籍となった。

短期大学では、食物栄養学科；8名(5.5%)、幼児学科；11名(4.8%)が退学あるいは除籍となった。一人一人への丁寧な対応に努めたが、年次目標値(3.5～4%)の達成には至らなかった。

退学の主な理由は、進路変更、経済的理由、学力の低さ、精神的・身体的理由などで、退学が懸念される学生については、アドバイザーやクラス顧問が根気強く指導にあたり、修学意欲の維持・向上等を図るとともに、教授会でも審議したが、特に経済的理由の場合には、退学に至る場合が多かった。

除籍の主な理由は、学納金未納と修学の意思がない、などである。留学生の場合は、学納金未納のまま除籍となるケースが後を絶たない等の課題が残っている。

7) 学生募集

平成26年度は各学科で策定したアクションプランを確実に実施し、その他の諸事業も鋭意継続実施した。特にTVCM放映・新聞(山陽新聞「岡山の大学へ行こう」企画への参加等)

等の各種メディアを活用し、幅広い年代をターゲットとした広報を行った。高校訪問についても、訪問校に重点度を設け、訪問者も限定して行った。その結果、オープンキャンパス参加者数は対前年 107%、推薦・A0 入試の志願者数は対前年 104%と増加した。

総合人間学部の学生充足率の向上は喫緊の最重要課題であり、これとともに各学科で策定したアクションプランを確実に実施し、その他の諸事業も鋭意実施した結果、平成 27 年 5 月 1 日現在の充足率順が、看護 112%、幼児教育 104%、食物栄養 84%、言語文化 61%、生活心理 55%となった。短大全体では 95%、大学全体では 79%であるので、やはり総合人間学部の動向が大学・短大全体の浮沈を握る重要な鍵となっている。

しかしながら、総合人間学部における日本人学生入学者が、生活心理は 19 人 (H24) →30 人 (H25) →31 人 (H26) →32 人 (H27) と、ここ数年 30 人以上を維持しているのに対し、言語文化は 17 人 (H24) →17 人 (H25) →30 人 (H26) →13 人 (H27) と減少、言語文化が留学生に頼る傾向は依然として変わっていないのが現状である。平成 26 年度後期から「IELP 英語特別集中プログラム」を実施し、英語資格特待生制度や 30 歳以上の社会人を学費の面で優遇する特典を設けたが、各 1 名の入学者はあったものの、入学者の大幅な増加には結びついていない。高校訪問時に要請のあった、4 月に入ってから（本年度は 4 月 11 日まで）の入学者受け入れも、利用者は 1 名という結果であった。来年度はこういった部分の強化が必須と考えられる。

入学状況（平成 26 年 5 月 1 日現在）

設置学校	入学定員	入学者数	充足率
山陽学園大学 大学院看護学研究科	6	5	83
看護学部看護学科	80	85	106
総合人間学部言語文化学科	60	45	75
同 生活心理学科	60	35	58
合計	200	165	83
山陽学園短期大学 食物栄養学科	80	63	79
幼児教育学科	100	111	111
合計	180	174	97
附属幼稚園	40	24	60

在籍者数（平成 26 年 5 月 1 日現在）

設置学校	収容定員	在籍者数	充足率
山陽学園大学 大学院看護学研究科	12	9	75
看護学部看護学科	320	352	110
総合人間学部言語文化学科	250	161	64
同 生活心理学科	250	131	52
合計	820	644	79
山陽学園短期大学 食物栄養学科	160	145	91
幼児教育学科	200	231	116
合計	360	376	104
附属幼稚園	120	80	67

学 生 数 一 覧 <平成27(2015)年5月1日現在>

山陽学園大学													
				総 合 人 間 学 部									
				言語文化学科			生活心理学科			看護学部		合 計	
				1年次入学	編入学	計	1年次入学	編入学	計				
1年	日本人	男	3		3	7		7	10	13	23		
		女	10		10	25		25	35	71	106		
		計	13		13	32		32	45	84	129		
	留学生	男	12		12	4		4	16	-	16		
		女	7		7	-		-	7	-	7		
		計	19		19	4		4	23	-	23		
	学年計	男	15		15	11		11	26	13	39		
		女	17		17	25		25	42	71	113		
		計	32		32	36		36	68	84	152		
2年	日本人	男	8		8	7		7	15	14	29		
		女	22		22	20		20	42	67	109		
		計	30		30	27		27	57	81	138		
	留学生	男	4		4	3		3	7	-	7		
		女	9		9	2		2	11	-	11		
		計	13		13	5		5	18	-	18		
	学年計	男	12		12	10		10	22	14	36		
		女	31		31	22		22	53	67	120		
		計	43		43	32		32	75	81	156		
3年	日本人	男	5	-	5	4	-	4	9	15	24		
		女	10	2	12	25	1	26	38	72	110		
		計	15	2	17	29	1	30	47	87	134		
	留学生	男	5	3	8	-	1	1	9	-	9		
		女	5	2	7	1	-	1	8	-	8		
		計	10	5	15	1	1	2	17	-	17		
	学年計	男	10	3	13	4	1	5	18	15	33		
		女	15	4	19	26	1	27	46	72	118		
		計	25	7	32	30	2	32	64	87	151		
4年	日本人	男	2	-	2	4	-	4	6	12	18		
		女	12	-	12	23	2	25	37	93	130		
		計	14	-	14	27	2	29	43	105	148		
	留学生	男	10	1	11	3	1	4	15	-	15		
		女	18	2	20	4	-	4	24	-	24		
		計	28	3	31	7	1	8	39	-	39		
	学年計	男	12	1	13	7	1	8	21	12	33		
		女	30	2	32	27	2	29	61	93	154		
		計	42	3	45	34	3	37	82	105	187		
合計	日本人	男	18	-	18	22	-	22	40	54	94		
		女	54	2	56	93	3	96	152	303	455		
		計	72	2	74	115	3	118	192	357	549		
	留学生	男	31	4	35	10	2	12	47	-	47		
		女	39	4	43	7	-	7	50	-	50		
		計	70	8	78	17	2	19	97	-	97		
	全学年	男	49	4	53	32	2	34	87	54	141		
		女	93	6	99	100	3	103	202	303	505		
		計	142	10	152	132	5	137	289	357	646		

大学院				山陽学園短期大学					
		看護学 研究科				食物栄養 学科	幼児教育 学科	計	
1年	日本人	男	-	1年	日本人	男	3	4	7
		女	3			女	70	98	168
		計	3			計	73	102	175
2年	日本人	男	-	2年	日本人	男	2	7	9
		女	6			女	59	99	158
		計	6			計	61	106	167
合 計		男	-	合 計		男	5	11	16
		女	9			女	129	197	326
		計	9			計	134	208	342

総合計

997

8) 山陽学園大学大学院看護学研究科の教育活動報告について

平成 26 年 4 月入学生は 5 名であり、定員に占める割合は 83.3%であった。平成 27 年 3 月修士（看護学）1 名を輩出した。しかし、平成 26 年度内の退学者は 2 名であり、退学理由の内訳は 1 名満期退学、1 名家庭の都合であった。

平成 27 年 4 月入学生は 3 名であり、定員に占める割合は 50.0%であった。現在、在籍数 9 名であり、定員充足率は 75.0%である。

平成 26 年度末で完成年度となり、今後、自立した大学院として発展するため、規程などの整備や文部科学省から指導のあった若返りを目指した教員の配置および入学定員の確保を課題とし、さらにディプロマポリシーにおける目標達成度の高い修了生を輩出することを目指す。

2. 研究機構

平成 25 年 11 月に設置された研究機構は、平成 26 年度は地域ニーズに基づく研究活動と、競争的外部資金獲得を中心的課題として活動した。

地域ニーズに基づく研究活動としては、岡山県における精神障害者の地域支援・権利擁護システムの開発に向けての基礎調査研究事業（地域支援に関する委員会）への参画を行い、平成 26 年度は当該研究事業の最終年度として研究データの分析評価と研究事業報告書の作成に参画した。

競争的外部資金獲得については、平成 26 年度の「私学総合改革支援事業」への公募（平成 26 年 9 月）を行うとともに、平成 27 年度の同事業への公募に向けて、教務部と連携しながら、教学事項の見直し〔短大に GPA 制度の導入、シラバスの充実（準備学習の項目の徹底、第三者による確認の導入）、オフィスアワーの拡充（非常勤講師も対象に）など〕や、学外関係団体との連携の強化に着手した。

3. 社会活動・地域貢献関連事項

1) ボランティア支援・社会サービスセンター関連

(1) 公開講座を実施した。

○11 月 15 日：第 1 回：生涯現役社会を目指して～健やかな高齢期のために、認知症カフェの開き方を学ぶ～認知症を学び、1 日認知症カフェを企画しよう。

- 11月22日：第2回：生涯現役社会を目指して～健やかな高齢期のために、認知症カフェの開き方を学ぶ～地域の人々と開店準備、1日オレンジカフェ（認知症カフェの愛称）
- 11月29日：第3回：生涯現役社会を目指して～健やかな高齢期のために、認知症カフェの開き方を学ぶ～開店します。1日オレンジカフェ
- 12月6日：特別会：尊い命を救おう。普通救命講習Ⅰ（講師：岡山市中消防署）

(2) 学部持ち回りの市民公開講演会を実施した。

- 11月2日：公開講演会：指導とは共に夢を語り合う事なり：武富 豊講師（天満屋女子陸上部総監督）

(3) 「Sanyo 子育て愛ネット」事業を実施した。

本学幼児教育・食物栄養・看護の3学科と Sanyo 子育て愛ねっと実行委員会が3回にわたり、親子交流会：おやこ交流広場を開催した。

- 7月6日：親子交流会第1回おやこ交流広場：親子で楽しく作ろう！七夕飾り
- 9月28日：親子交流会第2回おやこ交流広場：カプラの作品作りを親子で体験しよう！
- 11月15日：親子交流会第3回おやこ交流広場：健康わくわくスタンプラリー

(4) 「大学コンソーシアム岡山」の積極的活用を図った。

- 教育：単位互換・双方向ライブ型遠距離科目・VOD型遠距離科目

双方向オムニバス授業「地域貢献」「ボランティア論」本学・理科大・商大・中国学園大共同実施双方向オムニバス授業を後期開講

- 地域貢献：6月1日：日曜子ども大学、岡山県生涯学習センター、出展：生活心理学科「くらし安全安心教室」・幼児教育学科「たくさんのかみコップであそぼう」。7月6日：七夕エコナイト岡山駅前広場会場 参加：学友会・うらじゃ陽輝。7月：七夕エコナイト各大学 内容：学生寮ライトダウン、ゴーヤカーテン、省エネ活動。
- 吉備創生カレッジ：本学の教員が各専門分野に応じた内容を担当

(5) 地域と協働連携事業を推進した。

- 本学の協働連携事業の定期的なものは、Sanyo 子育て愛ねっと実行委員会と共に実施している「親子交流会：おやこ交流広場」である。
- 不定期ではあるがここ数年定着している事業としては、災害避難訓練である。今年度は平井学区防災キャンプ（東山公民館5月25日）への学生参加、平井学区危険箇所点検（6月8日）への学生参加、平井学区栄町町内会消防訓練（10月12日）への学生サークルペビウスの参加等があげられる。

(6) 地域の教育機関等へ講師を派遣した。

- 教育機関である中学校・高等学校・大学への講師派遣、スクール館セラー派遣をおこなった。講演は看護分野が最も多く、カウンセリング分野がこれに続く。

○教育機関以外を会場とする社会人講座・学校園保護者への講演・専門職研修講師や指導等を実施した。幼児教育・公衆衛生、看護・カウンセリング・文化系生涯学習が主要内容である。

(7)行政機関等へ委員を派遣した。

○自治体の審議会・委員会等への本学の教員派遣をおこなっている。食の安全・安心、食育、調理、公衆衛生、産業衛生、健康づくり、看護、カウンセリング、社会教育、まちづくり等の分野が主である。

(8)学内外のボランティア活動の実態を把握し、その連携と支援方策を検討した。

○学生サークルのボランティア活動が報告されている。上演実演・留学生との交流・運営活動研修・医療防災・災害看護・公衆衛生・幼児教育が主な内容である。

○ボランティア支援方策の試みの一つとして「ボランティア支援・社会サービスセンターニュース」のボランティア募集情報を掲載した版を作成し学内に掲示（3月）をおこなった。この試みは次年度も継続する。

(9)平井地区から岡山市、県、全国へと社会活動・地域貢献の輪を広げるための戦略を立て実践した。

○平井学区の活動を広げる試みとして、表町商店街の中之町サンデーテントワーカーに、学生がカフェ・クラフト・福祉作業所の商品販売等の1日仮設ブースを出展した（9月28日、10月5日、11月9日）。

○笠岡市内の地区と連携する計画を進めている。

2) 国際交流・留学生支援関連事項

(1) グローバル化に対応した、積極的な外国人留学生受入と支援の強化のため、共生・グローバル推進センターを、2014年度中に準備し、2015年4月1日から正式に設置

(2) 国際交流事業のさらなる活性化

1. 短期交流受入 提携校湖西大学生との合同チームでうらじゃ祭参加、提携校中華大学生とは市長表敬訪問、一般財団法人日本国際協力センターの「JENESYS2.0」歴史文化第9陣フィリピン訪日団の本学受入
2. 短期交流研修派遣 韓国へ従来の言語文化学科学生だけでなく、本年度は生活心理学科、短大の食物栄養学科の学生も参加
3. インターン受入 従来の国際ホテルに加え、本年度は市役所にも派遣
4. 中期留学生受入 提携校中華大学・提携校湖西大学から
5. 中期留学生派遣 従来の韓国、ニュージーランドだけでなく、本年度は米国も
6. 文部科学省日本語・日本文化研修国費留学生 本学へ受入

3	教員免許状更新講習					
	講習内容と日程					
	【大学】					
●	実施日	平成26年8月7日(木)				
	内 容	「青年期の自己実現の支援」(選択領域6時間)				
	時 限	時 間	講習 時間数	内 容	講 師	場 所
		8:30～ 8:40	—	受付(出席確認)		本館玄関前
		8:40～ 8:50	—	オリエンテーション		
	I 時限	9:00～10:00	60分	思春期をめぐる問題	高橋 功	本館 405教室
	II 時限	10:10～11:40	90分	さわやかな自己表現(アサーション)	石原みちる	
		11:40～12:40	—	昼休憩		
	III 時限	12:40～13:40	60分	保健室の子どもたちの姿	田村 裕子	
	IV 時限	13:50～14:50	60分	個から集団へ ～つなぐ～	海本 友子	
	V 時限	14:50～15:40	50分	ディスカッション(討論)	石原みちる 海本 友子 高橋 功 田村 裕子	本館 405教室
	VI 時限	15:50～16:30	40分	試験		
		16:30～16:40	—	事後アンケート		
	【大学】					
●	実施日	平成26年10月11日(土)				
	内 容	「岡山カルチャーゾーンの魅力～美術館・博物館を巡る～」(選択領域6時間)				
	時 限	時 間	講習 時間数	内 容	講 師	場 所
		9:00～ 9:15	—	受付(出席確認)		
		9:15～ 9:30	—	オリエンテーション		オリエント美術館
	I 時限	9:30～10:30	60分	ガイダンス・見学		
	II 時限	10:30～11:30	60分			県立美術館
		11:30～12:30	—	昼休憩(自由散策)		
	III 時限	12:30～13:30	60分		谷一 尚	夢二郷土美術館
	IV 時限	13:30～14:30	60分	ガイダンス・見学		県立博物館
	V 時限	14:30～15:30	60分			林原美術館
	VI 時限	15:30～16:30	60分	まとめと試験		オリエント美術館
		16:30～16:40	10分	事後アンケート		
	【短大】					
●	実施日	平成26年8月21日(木)				
	内 容	「発達障害－発達障害の現状と課題」(選択領域6時間)				
	時 限	時 間	講習 時間数	内 容	講 師	場 所
		8:50～ 9:00	—	受付(出席確認)		本館301教室前
		9:00～ 9:10	—	オリエンテーション		
	I 時限	9:10～10:40	90分	医学からみた発達障害	教授 鈴江 毅	本館 301教室
	II 時限	10:50～12:20	90分	発達障害の理解と援助	教授 皆川 順	
		12:20～13:20	—	昼休憩		
	III 時限	13:20～14:50	90分	発達障害児に対する教育支援	教授 大橋 康宏	本館 301教室
	IV 時限	15:00～16:30	90分	発達障害と生きる力	教授 近藤 卓	
		16:30～16:40	—	事後アンケート		

4. 大学運営関連事項

1) 企画運営上のガバナンスの確立

大学の教育、研究、社会活動・地域貢献を支える基盤は大学運営にあり、一元的で柔軟な組織となるよう努めた。

1) 教授会の機能の明確化

学長のガバナンスを強化し、より迅速かつ柔軟な意思決定を行うため、教授会の機能を検討し、教育研究に関する重要な事項の審議に限定した。これは学校教育法の改正とも軌を一にするものであり、学内の関連諸規程等の改正も行った。

2) 副学長複数制の導入

同じく、従来の濱田副学長に加え、谷一尚教授を副学長に選任した。これも学校教育法の改正の趣旨に沿うものである。

3) 委員会の統廃合

同じく、教員と職員の一体化による迅速な業務執行を目指して、各種委員会の位置づけを見直し、合わせて統廃合を行った。

4) 企画経営会議・運営協議会合同会議（略称：合同会議）

同じく、企画経営会議・運営協議会合同会議を設置し、大学と短期大学、教学部門と事務部門を通じ、最上位の調整・統合機関（会議体）とした。ここでの協議事項は、最終的には学長の決定のもとに、関係各部門において執行される。

5) FD・SD 等全教職員研修会議

教職員の資質、意識を高め、情報、問題意識を共有するため、FD・SD 等全協職員研修会議を6回開催した。

6) 健康安全推進機構

学生のメンタルヘルスの充実を図るため、学生相談室の場所をわかりやすい場所に変更するとともに広報に努め、前年度に比べ相談件数が10%増加した。

学生、教職員の災害時の安全対策を推進するため災害避難マニュアルを作成するとともに、携帯電話のメールにより安否確認できるシステムを導入した。

7) 大学ポートレートの公開

大学ポートレートとは、全国の各大学の情報を共通のフォーマットでホームページ上に公表する仕組みであり、平成26年10月より稼動が開始されている。これに合わせて本学でも、公開内容について検討を行った上で、必要な情報を公表している。

2) 自己評価委員会報告

大学運営において各担当部門の PDCA 推進力を高めるためには、その前提として PDCA を共同で推進する教職員の資質向上が組織的に求められる。

(1)平成 26 年度は、教職員の資質向上をはかるため全学的 FD・SD 研修会を計七回下記の通り実施した。

発表日時	発表部門または発表者	発表テーマ
第1回 平成26年5月7日	村田研究支援・共同研究推進機構副機構長	平成26年度地(知)の拠点整備事業(大学COC)申請概要
	澁谷ボランティア支援・社会サービスセンター長	センターと産学コーディネーターからの概要報告とお願い
第2回 平成26年6月4日	谷一入試広報部長	入試広報部の活動
第3回 平成26年7月2日	近藤生活心理学科長	事業実施評価(教育領域)
	班留学センター長	留学センターについて
	清水言語文化学科長	英語集中特別プログラムについて
第4回 平成26年8月27日	小野短大教務部長	事業実施評価(教育領域)
	村田研究支援・共同研究推進機構長	事業実施評価(研究領域)
	澁谷ボランティア支援・社会サービスセンター長	事業実施評価(社会貢献領域)
	樋本事務局長	事業実施評価(大学運営)
第5回 平成26年10月1日	實成学長	学校教育法改正および本学教授会規程等の改正に対応した今後の各種業務執行体制について
	平井学生課長	災害避難マニュアルと一斉送信メールシステムについて
第6回 平成26年12月24日	各学科、各部門(計13)	平成26年度PDCAの中間報告
第7回 平成27年3月24日	大学コンソーシアム岡山(各大学のテレビ会議システム設置教室)	双方向ライブ型オムニバス授業

(2)平成 29 年度の第三者評価の受審に向けて

平成 26 年度は、平成 29 年度の第三者評価受審に向けて、準備のため、自己評価報告書の項目にそって過去 3 年をまとめる計画を立てたが、学校教育法改正に伴う組織見直し作

業もあり、計画は半分以上未実施のままであり、平成 27 年度の課題として残されている。

(3)「学生による授業評価」「教員相互の授業参観」は FD 小委員会を中心に年 2 回実施された。

「学生による授業評価」は、従来実施後回収して教員が教務課に届けていたが、今年後期からは学生代表が直接教務課に届けることになった。平成 27 年度からは「学生による授業評価」について教務委員中心に実施される予定である。

(4)平成 26 年度の「教員個人評価」は、平成 27 年 4 月末日締切で実施された。

平成26年度・事業実施評価表(教育領域) ; 生活心理学科 最終報告2015.4.15

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	例年通り行われた	例年通り行う	
				①	AO入試で適切な学力表を行い、入学者を確保する。	AOによる入学者が不足している	—	AOを高校訪問で丁寧に説明する	10%	8.3	8.3%(5÷60名)となった	10%(6名)を目指す	AOの入学者率
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4	4	従来通り	現状を維持する	
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義する	4	5	教科書を用いて具体的に講義している	現状を維持する	
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	平井ラーニングなどを実施している	4	現状を維持する	4	5	新たに表町ラーニングをスタートした	現状を維持する	
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	学科単位の展示発表が好評だった	さらに充実させる	
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り	現状を維持する	
				7	シラバスを充実する。	履修者情報が不足している	3	履修者の成績分布表記など工夫する	4	3	改善できていない	履修者の成績分布表記など工夫する	
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者間で検討する	4	3	改善できていない	科目担当者間で検討する	
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り	現状を維持する	
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	表町ラーニングをスタートした	現状を維持する	
				11	体験交流重視教育を強化する。	不足している	1回	回数を増やす	2回/年	3回/年	表町、倉敷、平井ラーニング	現状を維持する	交流教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	浸透していない	1回	学科全体で取り組む	2回/年	1回/年	平井ラーニング	現状を維持する	社会活動等の回数/年間
				②	資格特待生制度・英語堪能入学者増計画を導入する。	告知・宣伝が不十分	0%	大学案内を活用し宣伝に努める	0%	0	入学者はいなかった	5%入学を目指して宣伝する	特待生等の入学者に占める割合
				③	家庭教育教職課程教育を実施し、履修者を増やす。	初年度で指導が不十分	1名	家庭科教職の魅力を伝える	3名	3名	5%(3名)を達成した	現状を維持する	家庭教育教職履修者数
				④	生活科学・心理学の2コース制を実施する。	2年度目で浸透し始めた	3	コース制の意味を1年生に説明する	4	5	十分浸透している	現状を維持する	
			(4)学習支援の強化。	13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	不十分である	さらに理解を深める努力をする	
				14	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	休・退学相談など活用されている	さらに理解を深める努力をする	
				15	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	2	不十分である	科目担当者間で連携を深める努力をする	
				16	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	2	不十分である	部門間の連携を深める	
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活へ向けた講座への参加動機が不足	2	講座への参加を促す	3	3	不十分である	さらに参加を促す体制を整える	
				18	社会人基礎力の強化を図る。	教科以外の機会が不足	2	学外の講座などの情報を伝える	3	3	不十分である	さらに情報を伝える努力をする	
				⑤	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	全学生に浸透しきっていない	87回	さらに学生に説明し理解を深める	100回	集計中			システム利用者数
				⑥	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	—	さらに学生に説明し理解を深める	3名	5名	十分である	来年度も履修者数を維持する	プログラム参加者数
				⑦	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	—	さらに学生に説明し理解を深める	3名	42名	十分である	来年度も履修者数を維持する	プログラム参加者数(言語文化との関
			(6)学生支援の強化	19	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	組織化がなされて試行されている	さらに機構の機能を高める	
				20	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	4	禁煙、AED、緊急連絡システム	さらに機構の機能を高める	
				21	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題個所を特定し改善する	3	2	不十分である	さらに改善をめざす	
				22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	2	留学についての情報を提供する	3	4	情報提供が全学的におこなわれている	さらに情報提供を進める	
				23	中退者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	2.30%	授業内容の魅力を高める	1.00%	4.7%	目標値を超えてしまった	授業だけではなく多面的な支援をしていく	中退者 ; 5 ÷ 105名 除籍者 ; 1名
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	大学祭の活性化がなされた	現状を維持する	
			(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	2	コース制、教職課程等の理解を深め	4	5	コース制、教職課程等の理解を深めた	現状を維持する	
				26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	—	全教員が年2回は更新する	2回/年	0回/年	更新していない	更新するようにする	教員紹介等の項の更新回数
				27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する	HP更新回数が少ない	—	ホットニュースなどを随時更新をする	2回/月	2回/月	随時更新がなされている	現状を維持する	HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	2	OC参加者と受験者の相関を明確化する	OC参加者と受験者の相関を明確化する	
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	2	不十分である	入試広報部との連携を深める	
				30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	5	十分に行われている	現状を維持する	
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	推薦入試の小論文などの再検討	4	4	再検討し、新方式で実施している	現状を維持する	
				32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない	58%	受験者を増やし定員充足率10割とす	100%	63	漸増であった	さらに受験者を増やす努力をする	定員充足率
				33	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足	0%	教員の地域活動等でPRを行う	3名	1名	不足している	さらに受験者を増やす努力をする	社会人入学者率
				⑧	総入学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	連携が不足していた	2	入試広報部との連携を深める	4	3	不足している	さらに連携を深める	
			(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	100	目標値を達成している	現状を維持する	就職率
				35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである	さらに充実させる	
				36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである	さらに充実させる	
				37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	従前どおりである	さらに適正化を図る	

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5 ; とても良い、4 ; 良い、3 ; ふつう、2 ; やや不足、1 ; 不足)

平成26年度・事業実施評価表(教育領域);言語文化学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		今年度の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。	現状を維持する。	
				①	AO入試で適切な学力表を行い、入学者を確保する。	AOIによる入学者が不足している	〇〇%	AOを高校訪問で丁寧に説明する	10%	6%	受験者数は例年とほぼ同数で目標に達していない。	AOを高校訪問等で丁寧に説明する	
				2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4	4	現状を維持している。	現状を維持する。	
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義する	4	5	「人間学」で具体的に講義している	現状を維持する。	
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	平行ラーニングなどを実施している	4	現状を維持する	4	4	平行ラーニング、異文化理解演習Ⅱ、Ⅲを通じて貢献活動を行い、理解を深めた。	平行ラーニング、異文化理解活動を継続する。	
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	2年生を中心に展示と模擬店で参加した。	学園祭などへの参加を継続する。	
			(2)教養教育の充実化	6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。	現状を維持する	
				7	シラバスを充実する。	履修者情報が不足している	3	履修者の成績分布表記など工夫する	4	3	成績分布表記については達成できていない。	第三者による記述内容の確認を行う。	
				8	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者間で検討する	4	3	検討できていない。	専門選択科目の見直しを行う。	
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。	現状を維持する	
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。	現状を維持する	
				11	体験交流重視教育を強化する。	不足している	〇〇回	回数を増やす	2回/年	2回/年	コア科目で1年次～3年次にかけて年2回以上実施している。	現状を維持する	交流教育回数/年間
			(3)学生力の向上のため、各学科・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	全教員に浸透していない	〇〇回	学科全体で取り組む	2回/年	2回/年	上配り型教育の中に地域貢献活動が含まれる。	現状を維持する	社会活動等の回数/年間
				②	資格特待生制度・英語堪能入学増進計画を導入する。	告知・宣伝が不十分	〇〇%	大学案内を活用し宣伝に努める	5%	2%	編入生が1名入学。	大学案内を活用し宣伝に努める	特待生等の入学者に占める割合
				③	月～金6コマ目に英語堪能者クラスを設け授業を実施する	本年度後期より実施	各2名	受講者の英検等上位合格を目指す	各3名	各1～5名	10月から実施した。申込者は8名。各講座1～5名。	講座の周知と受講者を増やす。	
				④	学科名称変更を実施する。	本年度から検討	文部科学省と交渉する	4	4	文部科学省に事前相談を行った。	学科のレベルアップ策を検討する。		
				13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	2	センターはなくなっているが、学習支援は継続している。	学科での学修支援を継続する。	
				14	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	4	アドバイザー制は、休学・退学・単位修得などに関する指導に有効に活用されている。	現状を維持する。	
			(4)学習支援の強化。	15	初年次教育、GNなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	2	初年次教育は基礎演習を中心に行われているが、他科目との連携はできていない。	科目間の連携を深める。	
				16	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	3	教務部、留学生センターおよびキャリアセンターと連携し、履修指導や就職支援科目を実施している。	部門間の連携を生かした支援を行う	
				17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活へ向けた講座への参加動機が不足	2	講座への参加を促す	3	2	就職模試は多くが受験したが、マナー講座への参加状況は不十分だった。	講座への参加を促す	
				18	社会人基礎力の強化を図る。	教科以外の機会が不足	2	学外の講座などの情報を伝える	3	3	「社会人入門」の授業で紹介している。	学外の講座などの参加を促す。	
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	⑤	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る	全学生に浸透しきいていない	87回	さらに学生に説明し理解を深める	100回	20回	就職ポートフォリオの登録はしているが、その後の活用が十分でない。	さらに学生に説明し理解を深める	
				⑥	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	3名	さらに学生に説明し理解を深める	3名	6名	ホテルエアライン受講者は、今年度1年目受講が6名、2年目受講が3名である。受講者からは非常に有益な講座であるとの評価。	さらに学生に説明し、参加を促す。	
				⑦	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	〇〇名	さらに学生に説明し理解を深める	3名	3～4名	公務員対策講座、TOEIC IP、漢字検定などに参加したが、参加人数は十分でない。	さらに参加を促す。	プログラム参加者数
				19	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	各部署と連携し、経済上の支援、学生相談支援、障がいのある学生への支援、留学生の生活全般の支援などを行っている。	機構の機能を高める	
				20	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	全学年で災害緊急連絡システムの登録を行ったが、未登録が残っている。	機構の機能を高める	
			(6)学生支援の強化	21	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	2	検討できていない。	問題箇所を特定し改善する	
				22	留学推進、外国人留学生支援策を検討する。	留学を推進する	2	留学についての情報を提供する	3	4	国際交流関係の部署が説明会を行い、指導や情報を提供している。	留学を促進する。	
				23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	2.30%	授業内容の魅力を高める	1.00%	5%	除籍・退学は前年より3.5%だが、目標値には達しない。	早期発見・指導に努める。	中退者・除籍者率
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。	現状を維持する。	
				25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	2	コース制、教職課程等の理解を深め	4	4	オープンキャンパスで資格説明の機会を設け、アンケートで希望調査をした。	資格取得を	
				26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	〇〇回	全教員が年2回は更新する	2回/年	0～1回/年	更新されていない部分が多い。	全教員が年2回は更新する	教員紹介等の項の更新回数
			(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	27	学科として、大学の知名度向上を図る手立てを工夫する。	HP更新回数が少ない	〇〇回	ホットニュースなどを随時更新をする	2回/月	0～1回/月	更新が十分でなかった。	ホームページの更新頻度を高める。	HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	3	OCの参加者は昨年より増えているが、受験者数は増えていない。	入試広報部との連携を深める	
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	4	入試広報部と連携し、多様な学生を受け入れるべく対応した。	入試広報部との連携を深める。	
				30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	4	プレゼンや案内などに学生が参加し、効果を上げた。	現状をさらに強化する。	
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	推薦入試の小論文などの再検討	4	4	再検討され、変更された。	変更後を維持する。	
				32	正確な入学予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない	58%	受験者を増やし定員充足率8割とす	80%	62%	2014年度の充足率は約7%。2015年度は62%。	受験者を増やし定員充足率8割とする	定員充足率
				33	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足	0%	教員の地域活動等とPRを行う	5%	2%	教員のPRIにより社会人入学があった。	教員の地域活動等とPRを行う	
				⑧	総合入学科と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	連携が不足していた	2	入試広報部との連携を深める	4	4	入試広報部と連携し、IELPやホテルエアラインの広報に努めた。	入試広報部との連携を深める	
				34	各学科とも就職率(95～100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	71%	3月時点では目標値に達していない。	100%を目指す。	就職率
35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった		3	さらに内容を充実させる	4	3	現状を維持している。	さらに内容を充実させる				
36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった		3	さらに内容を充実させる	4	4	資格を活かした専門職就職を支援した。	さらに内容を充実させる	就職就職のこと。			
37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	現状を維持している。	さらに適正に配置・整備を行う					

平成26年度・事業実施評価表(教育領域);看護学科

平成27年度4月20日修正

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	25年度の評価と評価値		26年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		27年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	4	現状を維持する	4	4	例年どおりに行われている	4	適正評価を行った	現状を維持する	
				①	特別推薦定員の削減。又は、特別推薦の評定値を上げる。	特別推薦	27%	特別推薦を25%にする	25%	20%	目標到達した	18%	目標到達した	特別推薦を18%にする	特推の入学者率減
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4	4	従来通り	4	従来通り実施した	現状を維持する	
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義を受けさせ	4	3	従来通り	3	講義を受けさせた	「知的生き方概論」「人間学」を真剣に学ばせる	
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	様々な講義が実施している	4	現状を維持する	4	4	従来通り	4	従来通りできた	現状を維持する	
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	参加を誘っている	4	参加の拡大を図った	経灯式を実施する(今回初めて)	
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り	5	充分できた	現状を維持する	
				7	シラバスを充実する。	十分に行われている	3	シラバスの内容の再検討	4	保	検討中	5	内容を検討した	シラバスの内容の検討と充実	
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	専門科目を充実する。	十分に行われている	3	現状を維持する	4	4	従来通り	4	充分に行われた	現状を維持する	
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り	4	充分できた	進級要件の導入	
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り	4	導入できた	現状を維持する	
				11	実習における体験教育を強化する	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り	4	強化できた	現状を維持する	実習教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	全教員・学生に浸透していない	2	学科全体で取り組む	3	3	不十分である	3	不十分である	学科全体で取り組む	社会活動等の回数/年間
				②	国家試験の合格率100%を目指す。	合格率90.36%	90.40%	指導の充実を図る	98%	保	努力している	91.3	充分ではなかった	1年次から指導を充実する	
			(4)学習支援の強化。	13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	2	不十分である	2	不十分である		
				14	アドバイザー制度などを活用する。	十分に行われている	3	現状を維持する	3	3	従来通り	3	従来通り	現状を維持する	
				15	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。？	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	3	従来通り	3	従来通り		
				16	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。？	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	？		？		部門間の連携を生かした支援を行う	
				③	入学前学習の充実を図る。	合格者に事前課題を求める	2	合格者に事前課題を求める	3	4	改善できている	4	改善できた	合格者に事前課題のさらなる検討を行う	
				④	国家試験対策の充実を図る。	学内の教員・アドバイザーで対応	3	4年生は業者による特別講義各学年模試の実施	4	4	取り組んでいる	4	取り組んだが充分とは言えない	業者も利用するが、全教員できめ細かく指導する	
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	知的生き方概論で学習している	2	現状を維持する	3	3	従来通り	3	従来通り	現状を維持する	
				18	社会人基礎力の強化を図る。	学内及び実習施設等で学んでいる	2	現状を維持する	3	3	従来通り	3	従来通り	現状を維持する	
				⑤	キャリア教育の充実を図る。		2	積極的なインターンシップの推奨	3	3	従来通り	3	従来通り		
			(6)学生支援の強化	19	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	？		3	？		
				20	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	？		2	充分とは言えない		
				21	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	3		3			
				22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	2	留学についての情報を提供する	3	3	情報を提供した			留学についての情報を提供する	
				23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	3.30%	現状を維持する	3.30%	0.9%	改善できている		改善できている		中退者・除籍者率
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り	5	充分できた	現状を維持する	
			学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	2	コース制、教職課程等の理解を深める	3	3	情報を提供した	2	不十分であった	積極的に情報提供する
		26			ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	〇〇回	全教員が年2回は更新する	2回/年	保	不十分である	3	不十分である	全教員が年3回は更新する	教員紹介等の項の更新回数
		27			学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する。	HP更新回数が少ない	〇〇回	ホットニュースなどを随時更新をする	1回/月	7回	更新できている	3		メディアを通じた広報をする	HPのホットニュースの更新回数
		28			OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	4	連携できている	4	連携できている	入試広報部との連携をさらに深める	
		29			柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4						
		30			学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	5	十分に行われている	5	充分に行われている	現状をさらに強化する	
		31			必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	変更した入試科目、評定値の再検討	4	？	検討中	4	検討中である	入試制度のさらなる検討	
		32			正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されている	106%	受験者を増やし定員充足率を維持	106%	保	取り組んでいる	3	取り組んだ	受験者を増やし定員充足率を維持	定員充足率
33	社会人の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足			0%	教員の地域活動等でPRを行う	5%	？		3	実施できた	引き続きPRを行う	社会人入学者率		
キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	保		98.6%	充分できた	100%を目指す	就職率		
		35	保護者懇談会・病院説明会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	4	従来通り	4	従来通りできた	内容の充実			
		36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4								
		37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4								

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(教育領域);食物栄養学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		最終の達成値と評価		来年度の課題	備考	
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価			
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	まずまず行われている	3	現状を維持する	3	3	従来と同様の評価基準を踏襲した	評価基準を見直す		
				2	AO入試で適切な学力評価を行い、良い学生を確保する。	方法論に検討が必要	3	改善する	4	4	AO入試に就く入学者が増加	入学者の15%以上をAO入試で確保	AOの入学者率	
				(2)教養教育の充実化	3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	知的生き方概論で担当する	3	学生による授業評価を検討する	4	4	肯定的な評価が増加	知的生き方概論を基盤に自発的に学ぶ	
					4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	さまざまな科目で取り組む	3	現状維持	3	3	従来通り	知的生き方概論を活用	
					5	学園への帰属意識を高める。	学園歌については授業で教えている	3	学園歌などに積極的に参加させる	3	3	2年生を中心に自発的な参加があった	学生の関与を更に拡大する	
					6	教養教育科目の開講数増を図る。	不十分	2	開講せざる科目を減らす	3	3	25年度と同様であった	歴史を開講する	
			(3)学生力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。		7	学科のミッションについて学科教員間で議論している。	充分とはいえない	2	改善する	3	5	度々学科会で議論された	現状を維持する	
					8	ファカルティの数的充実	全く不十分	2	基準値よりゆとりを持って8名とする	3	4	教員6名の体制	教員7名の体制を目指す	
				9	カリキュラムの検討・改善	栄養士法施行規則に準ずる	3	特色を出すカリキュラムを検討する	4	4	校外実習を前期と後期に分け実施	教育の質的向上		
				10	シラバスを充実する。	大学の基準に従っている	4	現状維持	4	4	従来通り	予習にも配慮したシラバスの内容		
				11	シラバスを適正活用する。	行われている	4	現状維持	4	4	シラバスに沿った授業展開	現状を維持する		
				12	専門科目について教育成果があがっているか。	実力認定試験の受験者を増やす	3	更に増やす	4	4	昨年比約3倍の受験者	受験率50%以上を目指す		
				13	成績評価を厳格にする。	充分とはいえない	3	改善する	4	4	課題・提出物の評価を厳格化	自学自習を評価する		
				15	体験交流重視教育を強化する。	幼児教育学科との連携などで実施	3	現状維持	3	3	25年度と同様の実施内容	子どもと食育・子育て支援での交流を促進		
			16	厚労省の基準に合致した教育内容になっているか。	なっている	5	現状維持	5	5	25年度と同様の実施内容	現状を維持する			
			17	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	前向きに取り組む	3	学科全体で取り組む	4	4	ボランティア学生数が増加	1年次生の参加を更に促す			
			18	学科のための入試制度を活用し、入学者増を図る。	関連分野の就学希望者を発掘する	3	新しい制度の提案	4	4	学び直して資格を目指す層を取り込む	入試広報と連携し具体化する			
			19	センター利用入試の拡大を図り、入学者増につなぐ。	充分とはいえない	3	さらに努力する	4	4	センター試験利用による入学者が増加	積極的な入試広報を行い利用を拡大			
			20	クラス顧問制度を充分に機能させる。	行っている	4	更なる充実を図る	4	3	全体として不十分である	オフィスアワーを有効活用する			
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	21	マナーの向上を図る。	校外実習や就職活動を機会とする	4	現状維持	4	4	従来通り	日常的にマナー向上に取り組む		
		22		社会人教育の強化を図る。	充分とはいえない	2	さらに充実させる	3	3	不十分である	キャリアセンターとの連携強化			
		23		「社会人入門」を充実させる。	内容を検討する	3	改善していく	4	4	キャリアセンターと連携	従来通り			
		24		就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る	社会人入門等で推進する	3	専門職支援とリンクさせる	4	3	従来通り	従来通り			
		25		PC検定(文書作成)の活用・推進	受講生を増やす	3	全員の受講を目指す	4	3	52名受験・合格者33名	受験率アップと合格者数の増加			
		26		PC検定(データ活用)の活用・推進	受講生を増やす	3	全員の受講を目指す	4	—	検定実施せず		文書作成検定の方に集中する		
		27		漢字検定の活用・推進	受講生を増やす	3	全員の受講を目指す	4	4	20名受験・合格者12名	受験率アップと合格者数の増加			
		28		その他の検定試験の活用・推進	検討中	1	新しい検定を取り入れる	3	1	新規の検定試験の導入なし	キャリアセンターと連携し就職に有用な検定試験を導入			
		(6)学生支援の強化	29	校舎の耐震性を確保し、学生に安全な学習環境を提供す	不十分	1	改善する	1	1	改善していない	学生の安全をどう確保するか検討			
			30	食中毒の起こりにくい構造に校舎を改築する。	不十分	2	改善を要求する	3	3	業者の見積もり段階(特にトイレ)	必要な施設の改善を行う			
			31	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	1	改善していない	問題箇所を特定し改善する			
			32	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	3	留学についての情報を提供する	3	3	語学留学にかする情報提供を行った	従来通り			
			33	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	4	一人も出さない心構えで取り組む	5	4	目標値を達成した	退学者、除籍者の数を26年度より減らす			
			34	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	4	現状を維持する	4	5	学友会や部活動で成果をあげた	従来通り			
		学生募集と入試広報戦略	35	ホームページを活性化する。	ニュースをたびたび更新する	2	全員がニュースを提供する	4	3	更新の頻度が低かった	更新頻度を改善する(毎週)			
			36	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある	3	入試広報部との連携を深める	4	3	不十分である	入試広報部と連携する			
			37	高校訪問など、迅速な戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	3	入試広報部との連携を深める	4	4	入試広報部と情報交換のうえ活動した	重点校を再検討するけいさん			
			38	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果を出している	4	現状維持	4	4	学生による対応は高校生や保護者に好評	従来通り			
			39	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づき見直しが必要	3	学科の特徴を活かす入試方法の検討	4	4	専門学校・大学・短大卒業生を取り込む	導入をめざして活動する			
			40	正確な入学者予測の見直しに適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない	3	受験者を増やし定員充足を目指す	4	4	結果的に入学者数が10名増	入試広報部と連携する			
			41	就職率100%を目指す。	ほぼ達成されている	4	就職の質の向上を目指す	4	5	就職率100%を達成した	維持する			
			42	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが、さらに改善	3	さらに内容を充実させる	4	4	従来通り	参加企業の業種と数の拡大を図る			
			43	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	さらに内容を充実させる	4	さらにきめ細かに行う	5	4	不十分である	学科全体で取り組む			
			44	キャリアセンターと学科と連携し、充分機能している。	さらなる連携を行う	3	具体的に検討する	4	3	不十分である	学科全体で取り組む			
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援											

平成26年度・事業実施評価表(教育領域); 幼児教育学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		今年度の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	ほぼ行われている	3	過去のデータを活用する	5	4	もう少し工夫が必要である	面接の評価方法を工夫する	AOの入学者率:22.5%
				2	AO入試で適切な学力表を行い、入学者を確保する。	データを統計解析して活用している	5	今年度もエータを収集・解析する	5	5	データ解析は良く行われている	データ解析をより一層進める	
				3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	現状を維持する	4	4	かなり良くできている	理念・歴史をよく学ばせる			
			(2)教養教育の充実化	4	健康や文化への価値観を高める。	科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義する	4	2	不十分	学科全体での取り組み	
				5	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	ボランティア活動など行われている	4	現状を維持する	4	4	ボランティアは良く行われている	前年同様、ボランティアを充実させる	
				6	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	良く参加されている	より一層、参加を促す	
				7	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	不足している面がある	3	より一層、基礎教育を充実させる	4	4	まずまず良く行われている	より一層、充実させる	
				8	シラバスを充実する。	具体的な内容が分かりにくい教科がある	4	具体的な内容例を知らせる	5	5	充実している	より一層、充実させる	
				9	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者が検討する	4	3	もう少し工夫が必要である	教員の教材研究を促進する	
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	10	成績評価を厳格にする。	もう少し努力が必要である	3	教員もより厳しく学習指導する	4	4	学習指導は良く行われている	学習指導を学科全体で行う	
				11	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	やや少ない状態である	3	教員が講義を工夫する	4	4	良く工夫されている	さらに工夫する	
				12	体験交流重視教育を強化する。	十分に行われている	4	さらに質量の向上を図る	5	4	良く行われている	より一層、実施する	
				13	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	学生の奉仕活動は行われている	4	学科全体で取り組む	5	4	良く行われている	学科全体での取り組みを促す	
		①		音楽教育のより一層の充実	やや課題が残るが練習する学生増加	3	ピアノ技能を徹底して修得させる	4	3	もう少し工夫が必要である	さらに厳しく基礎力をつけさせる		
		②		幼稚園・保育所で必要な技能の習得	かなり良く行われている	4	さらに教育を深める	5	5	大変良く行われている	現状を維持して努力する		
		③		園児指導に必要な知識の獲得	知識の獲得に学生が消極的	2	知識面での教育を厳格にする	4	2	努力が必要である	知識の大切さを分からせる		
		(4)学習支援の強化。	14	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	もう少し工夫が必要である	さらに広報活動を進める		
			15	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	もう少し工夫が必要である	さらに広報活動を進める		
			16	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	3	少し良くなってきた	科目間の連携をさらに進める		
			17	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	3	もう少し工夫が必要である	部門間の連携をさらに進める		
		(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	18	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	社会人入門などで講義している	3	よりお徹底した指導を行う	3	3	かなり良くできているがもう一歩である	より一層、徹底した指導を行う		
			19	社会人基礎力の強化を図る。	社会人入門などで講義している	3	よりお徹底した指導を行う	3	4	良く出来ているが工夫が必要である	より一層、徹底した指導を行う		
			④	学生が自主的にサポートを求めるようにする。	全学生に浸透しきっていない	2	さらに学生に説明し理解を深める	4	3	もう少し工夫が必要である	さらに広報活動を進める		
			⑤	積極的に施設でのボランティアを行う	ある程度は行っている	3	さらに学生指導する	4	4	かなり良くできている	さらに広報活動を進める		
			⑥	幼稚園・保育所で求められている事を調べる	学生が消極的	2	さらに学生指導する	3	3	学生を積極的にさせる工夫が必要である	学生にさらに自主学習を勧める		
			20	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	もう少し工夫が必要である	さらに工夫を継続する		
		(6)学生支援の強化	21	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	3	機構の機能を高める	4	3	良く行われるようになった	継続的に良く行うようにする		
			22	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	3	まずまず良く行われている	さらに点検し、改善を進める		
			⑦	生活困難学生への相談活動を行う	不十分であった	2	早期に相談活動を行う	3	3	困難だが良く行われている	より一層、良く行う		
			23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	種々の事情があり困難も多い	2	生活支援の相談活動を活発化する	3	2	もう少し工夫が必要である	教員による学生相談活動を活発にする	中退者・除籍者率4.8%	
			24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	やや不足している	3	より一層の学生指導を行う	4	4	まずまず良く行われている	より一層、良く行う		
			25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	ほぼ達成できた	3	より一層、理解を深めてもらう	4	3	まずまず良く行われている	確実な実施に向けて努力する		
			26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が不十分	3	全教員が年2回は更新する	4	2	もっと更新をする必要がある	更新を必ず行うよう、教員に働きかける	教員紹介等の項の更新回数:1	
		(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する	教員が広く学外講義を行っている	4	現状をさらに拡大する	5	4	学外講義や論文で良く行われている	論文作成などをさらに進める	HPのホットニュースの更新回数:32	
			28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	分析を進めてきた	4	入試広報部との連携を深める	5	5	良く行われている	入試広報部その他と連携を深める		
			29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	学科内で話し合っている	3	入試広報部との連携を深める	4	4	まずまず良く行われている	入試広報部その他と連携を深める		
			30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	5	大変良く行われている	より一層、学生の参加を促す		
			31	必要な入試制度的見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	効果的な面接方法の開発	4	4	良く行われている	面接方法をさらに工夫する		
			32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	過去のデータ分析が少ない	3	過去のデータ分析をより進める	5	5	大変良く行われている	データ分析を徹底的に行う	定員充足率:111%	
			⑧	幼児教育学科と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	頻繁に入試広報と連携しあった	5	現状をさらに深める	5	4	まずまず良く行われている	入試広報部との連携をさらに深める		
			33	就職率(100%)の維持を図る。	目標値は達成している	5	現状をさらに上昇させる	5	5	良く行われている	現状を維持する	就職率:100%	
			34	保護者懇談会・就職懇談会等を開催する。	開催されていて、効果を挙げている	5	内容をより充実させる	5	5	大変良く行われている	継続的に開催して効果を挙げる		
			35	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが学生が消極的だった	3	さらに学生を指導する	4	4	まずまず良く行われている	学生にキャリアの重要性を知らせる		
		キャリアサポートと就職支援	⑨	学科に直接来る就職情報を活用する	ある程度は活用されている	3	現状をさらに良くする	4	4	良く行われている	引き続き、活用を継続する		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5:とても良い、4:良い、3:ふつう、2:やや不足、1:不足)

平成26年度・事業実施評価表(研究領域) ; 研究推進機構 最終報告 2015.4.17

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		最終の達成値と評価		来年度の課題 (必要な項目のみ記入)	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
研究	地域における良質で有意な人材の育成に努め、大学・短大に求められている社会的要請(地域への貢献等)に対応し、大学・短大の社会的存在意義を高めること。	研究体制の構築	(1) 研究の意義の確認	1	研究活動が教育・社会活動・地域貢献の基盤となり、大学の社会的存在意義を高める重要な要素であることが、確認されている。	FD/SDなどを通じて十分に確認されているとまでは言えない。	2	研究への取り組みを促進する	3	4	精神障害、潜在保育士などの研究が行なわれ、地域貢献につながっている		精神障害・潜在保育士については、行政等と連携してH27年度も研究継続の方向
				2	教員の研究活動は、学科・専攻課程等の特性や方針に基づいている(又は、運動している)。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	精神医療、臨床心理、幼児教育などの専門性が、研究に活用されている		
			(2) 研究体制の整備・活用	3	教員が、研究を行う教員室、研究室等が整備され、充実している。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		
				4	研究に必要な資料(論文、文献)の取り寄せや閲覧が行なえる環境が整備され、活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれ、圖書の補充も行なわれている		
				5	教員が、研究、研修等(学会参加を含む)を行う機会が確保されている。	学科や領域によっては十分ではないところがある	2	研究活動に必要な時間の確保が出来る環境づくりを進めていく	3	2	教員体制が十分とはいえず、教員が研究活動等の時間が確保できない学科や領域がある	教員体制の充実が必要	
				6	教員が研究成果を発表する機会(学内研究紀要の発行等)が確保され、活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		
		研究能力の向上と研究の活性化	(3) 研究能力の向上	7	教員が、研究会や研修等に、定期的に(年1回以上)参加している。	学科や領域によっては十分ではないところがある	2	研究活動に必要な時間の確保が出来る環境づくりを進めていく	3	2	教員体制が十分とはいえず、教員が研究会等に参加する時間が確保できない学科や領域がある	教員体制の充実が必要	
				8	教員に、個人研究費が適切に支給され、適切に活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		H27年度から個人研究費の見直しが行われる予定
				9	教員が、研究活動の成果(著書、論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他)を、年次毎に大学・短大に報告し、個人評価されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		
			(4) 研究活動の活性化	10	教員個々人の研究活動の状況が外部に公開され、定期的に更新されている(大学の知的シーズが外部に公表され、定期的に更新されている)。	十分に公開されているとは言えない	2	基準を決めて公開を促す	3	2	教員の研究活動の外部公表が、十分に行われていない。	外部公表の内容等についての検討が必要	
				11	地域社会(行政を含む)から、委託研究等の研究へのニーズを受ける窓口や仕組みが備わっている。	十分とは言えない	2	地域社会とのつながりを構築していく	3	3	地域の課題を受け付ける取り組みが少しずつ進んできている	窓口や仕組みをHP等で地域にアピールしていくべきかどうかについて検討が必要	
				12	学内外で、分野横断型の共同研究等が行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	4	学内で、いくつかのテーマ(精神障害者、潜在保育士等)で共同研究が行なわれてきている		
				13	地域社会との間で、委託研究や共同研究等の取組みが行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	4	地域社会との間で、いくつかのテーマ(精神障害者、施冤罪保育士等)で共同研究が行なわれつつある		
				14	競争的外部資金の獲得への取組みが行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	3	科研申請や、私学助成等の獲得に向けた取組みが行なわれつつある	科研申請の前段階(準備段階)までの研究を学内で支援する取り組みの創設が必要	H27年度から学内研究公募制度を創設する予定
		研究成果の社会への還元	(5) 研究成果の地域社会への還元および発信	15	大学・短大の知的シーズが、地域の課題解決に活用されている(小中高学校等の教育支援、社会人の研修や生涯教育への支援、自治体審議会等への委員派遣、など)。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	4	認知症カフェなど、いくつかの取組みが行政と協働して行なわれてきている		
				16	各種学会の役員や学術大会の座長、学術雑誌の査読や編集員など、知的シーズをもとにした、学会活動・社会的活動が行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	3	教員の個々の取組みが行われてきている。		
				17	公開講座等が、定期的の実施されている(研究成果の発表を含む)。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	2	認知症カフェなどで公開講座が行なわれたが、定期的とまでは言えない	公開講座の充実については検討が必要	H27年度から新設される企画部に、全学的な取り組みについての検討を依頼する予定
				18	マスコミなどを通じて、研究成果が地域社会に発信されている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	2	教員の研究活動の外部公表が、十分に行われていない。	外部公表の内容等についての検討が必要	

*年度別目標値については3を基準とするが、学部学科の現状に応じて設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるので、その場合はそれを基準値とすることになる。また、具体的な数値(件数、人数、%など)で目標の設定ができる場合には、それを表示する。

平成26年度 事業実施評価表(社会貢献領域) (学部学科とセンター分担記載書式) 前期報告(2014.11.11) 後期・通年PDCA記載(2015.02.09) 年度終了後提出(2015.04.18)

区分	目的	項目	達成目標	No	学部 学科	全学	行動目標	平成25(2013)年度の評価と				平成26(2014)年度の評価と				平成26(2014)年度の評価と評価値【前期】				平成26(2014)年度の評価と評価値【後期・通年】			
								前年度の評価		評価 値	今年度の課題	目標 値	達成 値	達成値に対する評価		達成 値	達成値に対する評価		達成 値	達成値に対する評価 (エンジ文字部分是要確認)		達成 値	達成 値
社会 貢 献	「愛と奉仕」の具現化であるボランティア活動を学内外で組織的に推進する。とともに社会活動・地域貢献の活性化を図る。また地元自治体(岡山市)とCOCの協定が結ばれ次第、26年度のCOCに応募する。	活動の継続発展	(1)公開講座を実施する。	1	部・科	全	公開講座の企画を本学の特性を活かしたものにし、全学協力実施	本学の特性を活かし	4		工夫を続ける。	4		P:市との連携内容を策定 D:リーフレットを作成配	4		C:本学大半の学科からパネリストを出してもらえ、運営は全学科参加で実施できた。 A:この形式を継続する。			C:本学大半の学科からパネリストを出してもらえ、運営は全学科参加で実施できた。 A:この形式を継続する。			
				2		全	公開講座を地域社会・行政と連携して実施(ボランティア支援・社会サービスセンター中心)	連携を計ったが不十分	2		工夫・努力を続ける。	4	4	PD:岡山市と連携した。	4	4	C:岡山市へは後援以上の連携を断られた。「認知症カフェ」はサポーターと学区役員に強い支援を得た。 A:行政へは今後も本学から連携強化の要望を継続。地域団体とは企画時点での参加を依頼			C:岡山市へは後援以上の連携を断られた。「認知症カフェ」はサポーターと学区役員に強い支援を得た。 A:行政へは今後も本学から連携強化の要望を継続。地域団体とは企画時点での参加を依頼			
				3		全	公開講座の参加者数を一定数確保する。(ポ支援・社センターを中心に)	社会人参加者が少なかった。	2		工夫・努力を続ける。	3	3	PD:募集の努力を続けている。	3	3	C:ワークショップができる参加者を得ることができた。 認知症サポーター・平井学区の呼びかけが大きな効果。 A:地域団体の募集面の支援を得る状況を作っていくことが重要			C:ワークショップができる参加者を得ることができた。 認知症サポーター・平井学区の呼びかけが大きな効果。 A:地域団体の募集面の支援を得る状況を作っていくことが重要			
			生涯学習への対応	1	部・科		聴講生制度に基づく社会人学生の受入をおこなう。	受入人数が減少気味。	2		努力を続ける。	3	2	DC:受入人数が減少気味		1	C:聴講生は本学のHPで説明日を広報しているが聴講生は減っている。 A:広報を強化する方策を検討			C:聴講生は本学のHPで説明日を広報しているが聴講生は減っている。 A:広報を強化する方策を検討			
				2	部・科		高齢者の学び直しを支援する。	受入時の趣旨徹底が不十分	3		募集説明を改善する。	4	3	P:公開講座・公開講演会の場でPRしている。		2	C:高齢者の学び直しは入試広報部のリーフレット等を活用し実施。 A:次年度に向けて広報を強化する方策を検討			C:高齢者の学び直しは入試広報部のリーフレット等を活用し実施。 A:次年度に向けて広報を強化する方策を検討			
			大学等施設の開放	1		全	大学等施設の計画的開放をおこなう。(総務課、ポ支援・社センター、学内各施設)	図書館を一般公開している。	4		継続して実施する。	4	3	PD:努力を続けている。		3	C:本学図書館の学外開放は看護師の方が閲覧・コピーに来館する例を中心に増えている。 A:岡山県の横断検索が予算化できればより貢献度が高くなる。			C:本学図書館の学外開放は看護師の方が閲覧・コピーに来館する例を中心に増えている。 A:岡山県の横断検索が予算化できればより貢献度が高くなる。			
			(2)学部持ち回りの市民公開講演会を実施する。(担当学部・学科)	1	部・科		公開講演会の企画を学部・短大の特性を活かしたものにし協力実施						3	P:幼教学科が特性を活かした講師を選んだ。 D:幼教学科に合った講演会が開催された。		3	C:幼教学科に相応しい講演会が実施できた。 A:次年度、次の学科にこの状況を継承する。			C:幼教学科に相応しい講演会が実施できた。 A:次年度、次の学科にこの状況を継承する。			
				2	部・科		学部・短大:公開講演会を、地域社会・行政と連携して実施する。						4	C:学科が地域の企業と連携し講演会を実施した。		4	A:次年度、次の学科にこの状況を継承する。			A:次年度、次の学科にこの状況を継承する。			
				3	部・科		学部・短大:公開講演会の参加者数を一定数確保する。						3	C:参加者を一定数確保した。(会場内78名)		3	A:次年度、次の学科にこの状況を継承する。			A:次年度、次の学科にこの状況を継承する。			
			(3)[Sanyo子育て愛ねっと]事業を推進する。(看護・短大)	1	部・科		事業の企画を学部・短大の特性を活かしたものにし協力実施す						4	PD:3学科の特性を活かし協力実施している。		4	C:好ましい状況で事業が実施されている。 A:次年度、3学科でこの状況を継承する。			C:好ましい状況で事業が実施されている。 A:次年度、3学科でこの状況を継承する。			
				2	部・科		事業を、地域社会・行政と連携して実施する。						3	PD:事業を地域社会・行政と連携実施している。		3	同上			同上			
				3	部・科		事業の参加者数を一定数確保する。						3	PD:参加者を一定数確保した。		3	同上			同上			
				4	部・科	全	地域における教育支援又は子育て支援の実施(上記1～4も該当する)						3	PD:幼教学科と附属幼稚園が連携して子育て支援を続けている。		4	C:附属幼稚園では、未就園児体験入園、年間32回実施。、相談も受けている、園外講師による研修会を実施している。 A:次年度に向けて広報を強化する方策を検討する。			C:附属幼稚園では、未就園児体験入園、年間32回実施。、相談も受けている、園外講師による研修会を実施している。 A:次年度に向けて広報を強化する方策を検討する。			
			大学コンソーシアムの活用	1	部・科	全	コンソーシアムを本学の教育内容・教育方法の充実に活用する。	VOD講義は履修されている。	3		TV会議システムを活用授業	4	4	PD:VOD授業は履修が継続されている。TV会議システム双方向オムニバス授業を4大学で共同実施		4	C:TV会議システム双方向オムニバス授業を4大学で共同実施完了した。開講により成果を得た。課題は履修生を増やすことである。 A:履修生を増やす努力をする。			C:TV会議システム双方向オムニバス授業を4大学で共同実施完了した。開講により成果を得た。課題は履修生を増やすことである。 A:履修生を増やす努力をする。			
				2	部・科	全	コンソーシアムを本学の学生の社会貢献・ボランティア活性化に活用する。	子ども大学、エコナйт参加	3		東北ボランティア参加	4	4	PD:子ども大学、エコナйтは大学・短大共に参加し、学生の成長に役立っている。		4	C:日曜子ども大学に生活心理学科・幼教学科が出展しエコナイトに学生会・ウラジャが参加したことは教育面・本学の勝つ津成画面から成果があった。 A:次年度、履修学生を広げていく。			C:日曜子ども大学に生活心理学科・幼教学科が出展しエコナイトに学生会・ウラジャが参加したことは教育面・本学の勝つ津成画面から成果があった。 A:次年度、履修学生を広げていく。			
				3	部・科	全	コンソーシアムを本学の学生の就職活動に活用する。	インターンシップに活用	3		継続工夫して実施す	4	3	PD:C:インターンシップは本学の学生に役立ってい		3	A:次年度もインターンシップを継続する。			A:次年度もインターンシップを継続する。			
			講師・委員の派遣	(6)地域の教育機関等へ講師を派遣する。	1		全	教育機関への講師派遣結果を実態把握を大学がおこなう。(教職員の理解を)	把握をおこなった。	3		4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明し大学への報告を訴えた。		3	C:今年度の講師派遣状況については年度終了後確認する。 A:継続して講師派遣状況の確認を続ける。			C:今年度の講師派遣状況については年度終了後確認する。 A:継続して講師派遣状況の確認を続ける。			
					2		全	教育機関への講師派遣の重要性を啓発する。(FDで)	FDで啓発活動実施	3		4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明した。		3	C:SDFDでの説明に対する効果は一定の反応があった。 A:次年度の学内SDFD研修会でも重要性を啓発・依頼する。			C:SDFDでの説明に対する効果は一定の反応があった。 A:次年度の学内SDFD研修会でも重要性を啓発・依頼する。			
					3	部・科	全	教育機関からの派遣を開拓する。(入試広報部出張授業PR等)	入試広報部出張授業PR実施	3		3	1	PD:高校訪問時に出張事業リストを渡した。		2	C:SDFDでの説明したが各学科学生募集と結びついでいるので十分理解されている。 A:次年度も全教員が高校訪問時リストを持参し提案する。			C:SDFDでの説明したが各学科学生募集と結びついでいるので十分理解されている。 A:次年度も全教員が高校訪問時リストを持参し提案する。			
					4	部・科	全	教育機関への講師派遣の件数を増やす。	同上	3		3	2	PD:機会を捉えて依頼していただくようお願いして		2	C:高校訪問時に先方に伝えるのが一番効果的と考えられる。 A:次年度も全教員が高校訪問時リストを持参し提案す			C:高校訪問時に先方に伝えるのが一番効果的と考えられる。 A:次年度も全教員が高校訪問時リストを持参し提案す			
			(7)行政機関へ委員を派遣する。	1		全	行政機関から受けた委員派遣結果の実態把握を大学として実施(教職員の理解を)	把握をおこなった。	3		大学の情報収集体制整備	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明し大学への報告を訴えた。		3	C:今年度の委員派遣状況について年度終了後確認する。 A:継続して委員派遣状況の確認を続ける。			C:今年度の委員派遣状況について年度終了後確認する。 A:継続して委員派遣状況の確認を続ける。			
				2		全	行政機関への委員派遣依頼を断らないよう学内啓発する。(FDで)	FDで啓発活動実施	3		啓発活動の継続	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明し、報告を訴えた。		3	C:「本学・学生のため委員依頼があった場合断らないように」の説明は伝わった手応えがあった。 A:次年度も、派遣依頼を断らないよう学内啓発・依頼する。			C:「本学・学生のため委員依頼があった場合断らないように」の説明は伝わった手応えがあった。 A:次年度も、派遣依頼を断らないよう学内啓発・依頼する。			
				3	部・科	全	全学:行政機関との接触(コンタクト)を経常的に取る重要性を学内啓発(FDで)	FDで啓発活動実施	3		啓発活動の継続	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明した。		3	C:行政機関との接触を経常的に取ることを全教員が実施するのは困難・危険性が伴う。 A:現在行政とコンタクトが取れる教員が「同僚を紹介する」という方式ですすめる。			C:行政機関との接触を経常的に取ることを全教員が実施するのは困難・危険性が伴う。 A:現在行政とコンタクトが取れる教員が「同僚を紹介する」という方式ですすめる。			
				4	部・科	全	全学:行政機関への委員派遣の件数を増やす	努力した。	3		努力を続ける。	3	1	PD:機会を捉えて依頼していただくようお願いして		2	同上			同上			
			ボランティア支援	(8)学内外のボランティア活動の実態を把握し、その連携と支援方策を検討する。	1		全	ボランティア活動の実態把握を大学としておこなう。(教職員・学生	把握をおこなった。	3		4	3	PD:学内SDFD研修会・知的生き方で報告を依頼		3	C:今年度のボランティア活動状況について年度終了後確認する。 A:実態把握を活動促進に役立てる。			C:今年度のボランティア活動状況について年度終了後確認する。 A:実態把握を活動促進に役立てる。			
				2	部・科	全	ボランティア活動の意義、大学への報告の必要性を教職員学生に	FD・SD、授業で実施	3		継続して実施する。	3	3	PD:学内SDFD研修会・知的生き方で重要性を説		3	C:SDFD研修会・知的生き方での呼びかけは一定の効果があった。 A:次年度も啓発活動を継続する。			C:SDFD研修会・知的生き方での呼びかけは一定の効果があった。 A:次年度も啓発活動を継続する。			
				3	部・科	全	ボランティア活動の支援をする。(FD・SD、授業で)	県の事業への参加を支援	3			4	3	PD:東北震災復興に派遣支援した。		3	C:学生部・ボランティア系サークル顧問の支援を受けてサークルが活動を続けている。 A:次年度も知的生き方で啓発とボランティア募集情報の提供を続ける。			C:学生部・ボランティア系サークル顧問の支援を受けてサークルが活動を続けている。 A:次年度も知的生き方で啓発とボランティア募集情報の提供を続ける。			
			(11)本学学生による学内外の自主防犯組織「さんばと隊」等を支援する。	1	部・科	全	学生の「さんばと隊」を支援する。	支援した。	3		隊員の増強を促進	4	3	PD:学生部を中心に、「さんばと隊」を支援している		3	C:さんばと隊は学生部の支援を受けて活動している。課題は学生会・学祭以外のさんばと隊のプロパー学生の増員である。 A:次年度に向けてより効果的な支援策を実施する。			C:さんばと隊は学生部の支援を受けて活動している。課題は学生会・学祭以外のさんばと隊のプロパー学生の増員である。 A:次年度に向けてより効果的な支援策を実施する。			
				2	部・科	全	学生サークル(部・同好会)のボランティア活動を支援する。	支援した。	3		要請の学内情報共有化	4	3	PD:地域防災にサークルを派遣支援した。		3	C:学生ボランティア団体は顧問教員の助言を活かして活動している。年度終了後確認する。 A:より効果的な支援策を検討・実施する。			C:学生ボランティア団体は顧問教員の助言を活かして活動している。年度終了後確認する。 A:より効果的な支援策を検討・実施する。			
				3	部・科	全	学生(個人有志単位)・教職員のボランティア活動支援をする。(授業で、個別で)	「知的生き方」で啓発した。	3		継続して実施する。	4	3	PD:学内SDFD研修会・知的生き方で重要性を説明した。		3	C:SDFD・知的生き方での呼びかけは一定の効果があった。大学コンソーシアム岡山の東北ボランティアに学生を送った。活動結果は年度終了後確認する。 A:実態把握に努力し活動促進に役立てる。			C:SDFD・知的生き方での呼びかけは一定の効果があった。大学コンソーシアム岡山の東北ボランティアに学生を送った。活動結果は年度終了後確認する。 A:実態把握に努力し活動促進に役立てる。			
			教育・研究	地域課題解決を目的とした研究(共同研究)の実施	1	部・科	全	地域を対象とした学生主体の授業の必修化	選択科目では実施している。	2		3		P:今後学内(学部学科・教務)で協議が必要。		3	C:学内(合同会議・学部学科・教務)で協議。 A:各学部・学科での必修化の可能性を詰めていく。当面は1年次必修「知的生き方概論」1週分に対応する。【学内協議必要】			C:学内(合同会議・学部学科・教務)で協議。 A:各学部・学科での必修化の可能性を詰めていく。当面は1年次必修「知的生き方概論」1週分に対応する。【学内協議必要】			
					2	部・科	全	地域課題解決を目的とした共同研究を実施する。(研究支援・共同研究推進機構と連携)	単独研究はあるかもしれない。	2		3		P:今後学内(学部学科)で協議が必要。		3	C:岡山市と提携しCOCに応募したが採択にならなかった。COCプラス・AP申請の検討・状況整備を進めている。 A:次年度の「地域課題解決を目的とした共同研究方針」を協議していく。【学内協議必要】			C:岡山市と提携しCOCに応募したが採択にならなかった。COCプラス・AP申請の検討・状況整備を進めている。 A:次年度の「地域課題解決を目的とした共同研究方針」を協議していく。【学内協議必要】			
			地域、行政機関との連携	(9)平井地区から市、県、全国へと社会活動・地域貢献の輪を広げるための戦略を立て、実践する。	1	部・科	全	「平井地区から全国へ」の戦略を立てる。(岡山市と保健福祉・危機管理面の提携等)	COCを提出する状態に伸展	4		4		P:今後学内(学部学科)で協議が必要。		3	C:学内(合同会議・学部学科・教務)での戦略策定の調整中。 A:次年度に向けて協議を進める必要がある。			C:学内(合同会議・学部学科・教務)での戦略策定の調整中。 A:次年度に向けて協議を進める必要がある。			
				2	部・科	全	「平井地区から全国へ」の戦略を実施に移す。	市と連携(ESD)、COC調整	4		市と認知症・救命で公開講座	4		P:今後学内(学部学科)で協議が必要。		4	D:「平井ラーニング」が岡山地区環境衛生協議会から表彰。看護の白石島での活動、公開講座の「認知症カフェ」、普通救命講習、生活心理学科「表町ラーニング」等を実施。 A:次年度に向けて戦略構築の協議を進める。			D:「平井ラーニング」が岡山地区環境衛生協議会から表彰された。看護の白石島での活動、公開講座の「認知症カフェ」、普通救命講習、生活心理学科の「表町ラーニング」等を実施した。C:本学としての戦略(方策)の中での体系化・構造化が必要。 A:次年度も内容を調整して活動を継承する。			
			(5)地域との協働連携事業を推進する。	1		全	地域との協働連携事業(全学、学科、研究室、チーム)の実態把握を	把握をおこなった。	3		大学の情報収集体制整備	4		P:年度末に実態把握を行う予定。		3	D:年度終了後実態把握する。CA:次年度実態把握を活動促進に役立てる。			D:年度終了後実態把握する。CA:次年度実態把握を活動促進に役立てる。			
				2	部・科	全	地域との協働連携事業を推進する。	学部学科単位では実施	2		保健福祉・危機管理面で活動	3		PD:岡山市とのCOCは不採択。その後の連携を高年齢者福祉・救命について公開講座で関係を継続。		3	C:実施面では、「平井ラーニング」が岡山地区環境衛生協議会から表彰された。看護の白石島での活動、公開講座の「認知症カフェ」、普通救命講習、生活心理学科の「表町ラーニング」等を実施した。C:本学としての戦略(方策)の中での体系化・構造化が必要。 A:次年度も内容を調整して活動を継承する。			C:実施面では、「平井ラーニング」が岡山地区環境衛生協議会から表彰された。看護の白石島での活動、公開講座の「認知症カフェ」、普通救命講習、生活心理学科の「表町ラーニング」等を実施した。C:本学としての戦略(方策)の中での体系化・構造化が必要。 A:次年度も内容を調整して活動を継承する。			
			(10)地域(平井学区、市、県)の防災訓練について協働すると共にその人材育成に当たる。	1		全	防災訓練について地域(平井学区、市、県)と協働する。(平素の準備も含めて)	中央署・消防・学区の訓練に参画	4		町内会訓練に参画	4	3	【後期分の記載】PD:平井学区栄町防災訓練に参画し新たな試みを実施。ベビウスが実施。		3	C:平井学区栄町防災訓練に企画段階から参画し学生教員が地域に出向き、住民と一緒に避難する方法を取ったことは効果があった。 A:次年度も地域の防災訓練を地域と協働しておこなう。			C:平井学区栄町防災訓練に企画段階から参画し学生教員が地域に出向き、住民と一緒に避難する方法を取ったことは効果があった。 A:次年度も地域の防災訓練を地域と協働しておこなう。			
				2	部・科	全	防災訓練について人材育成に当たる。(学生サークル支援、FDSD、知的生き方等)	学生サークルが防災訓練参加	3		継続して促進する。	4	3	【後期分の記載】PD:ベビウス等の支援をおこなった。継続して学生ボランティア団体の支援を続け		3	D:ベビウスが学区内の災害避難訓練・消防訓練に参加。C:ベビウス以外にのサークルが防災の活動に参加する状況を作っていく必要。 A:啓発を実施			D:ベビウスが学区内の災害避難訓練・消防訓練に参加。C:ベビウス以外にのサークルが防災の活動に参加する状況を作っていく必要。 A:啓発を実施			
			(12)多目的交流プラザを開設し、COC推進プロジェクト部門と、共生・グローバル化推進プロジェクト部門を置く	1		全	多目的交流プラザを開設し、運営する。	立案段階だった。	2		年度内に実施を。	4		P:学内で継続協議が必要。		3	P:多目的交流プラザの設置は2014年度中は協議が継続していた。 D:2015年度当初プラザが実現。			P:多目的交流プラザの設置は2014年度中は協議が継続していた。 D:2015年度当初プラザが実現。			
				2		全	多目的交流プラザにCOC・共生・グローバル化推進プロジェクト部門を置く。	COC推進はおこなった。	3		年度内に実施を。	4		P:学内で継続協議が必要。		3	CA:COC部門は15年度当初総務からデスクが独立し、グローバルと同室になったため、注意深く状況を把握しPDCAをおこなう必要がある。			CA:COC部門は15年度当初総務からデスクが独立し、グローバルと同室になったため、注意深く状況を把握しPDCAをおこなう必要がある。			
				3		全	全学的な地域連携のためのセンターの設置(上記の「共生」に該当する)	立案段階だった。	2		年度内に実施を。	4		P:学内で継続協議が必要。		3	同上			同上			
			地域の課題解決に向けた継続的な協議	1		全	大学等所在地の都道府県又は市区町村等との包括連携協定の締結	市とCOCの協議はおこなった。	4		協定の締結を市と協議	4		P:学内と行政との継続協議が必要。			D:岡山市との包括協定はCOCの申請段階で一定の進展が見られたが協定締結には至らず。C:岡山市との包括連携協定は実現はなかなか困難。【新状況】県立大がCOCプラスに申請を表面、コンソを通じて連携大学になることを呼び			D:岡山市との包括協定はCOCの申請段階で一定の進展が見られた。地域の課題解決に向けては高齢者福祉課の提案を受けて本学公開講座を「認知症カフェ」の研修にした。CA:14年度の実績を15年度継続する方			
				2		全	地域の課題解決に向けた継続的な協議をおこなう。(岡山県・岡山市等と)	市とCOCの協議はおこなった。	2			3		P:学内と行政との継続協議が必要。			同上			同上			

*年度別目標値については3を基準とするが、学部学科の現状に応じて設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるので、その場合はそれを基準値とすることになる。また、具体的な数値(件数、人数、%など)で目標の設定ができる場合には、それを表示する。*全学共通の項目は、「全」の項目とする。各学科独自の項目は「部・科」の項目とする。

平成26年度・事業実施評価表(教育領域);教務部 最終報告 2015.4.17

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		最終の達成値と評価		来年度の課題 (必要な項目のみ記入)	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成	教育目標と方策	(1)教養教育の充実化	1	山陽スタンダード 単位取得率(大学)	現状を維持する	91%	取得率を向上させる	100%	89%	平成26年度の修得率は89%、現状を向上させる	取得率を向上させるための履修指導の強化が必要	
				2	知的生き方概論 単位取得率(短大)	現状を維持する	98%	現状を維持する	100%	98%	平成26年度の修得率は98%、現状を維持する		
			(2)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化	3	シラバスを充実する。(記載内容の充実)	総合人間学部の新カリキュラムへの対応	4	看護学部の新カリキュラムへの対応、全学的に準備学習の指示内容等の記載を充実する必要がある	4	4	準備学習についての記載を明確化し充実した		
				4	シラバスを充実する。(第3者のチェック体制)	—	—	第3者によるチェック体制導入が未実施	4	4	第3者によるチェック体制を導入した		
				5	シラバスを充実する。(履修系統図の作成)	—	—	履修系統図の作成が未実施	4	1	平成27年度のシラバスには間に合わなかった(特に短大)。H27年度中に作成・周知の予定	履修系統図をシラバスに掲載できるようにしていくことが必要	
				6	成績評価を厳格化(大学)	現状を維持する	4	成績評価の厳格化は十分に行われているが、GPAの活用については不十分	4	3	H27年度入学生から看護学部の2年次から3年次での進級要件を厳格化した。GPAの活用については総合人間学部で一部の規定にて実施した	看護学科でのGPAの活用について、検討が必要	
				7	成績評価を厳格化(短大)	現状を維持する	4	5段階評価およびGPAの導入が未実施	5	2	H27年度入学生から、GPAを導入した。GPA活用については今後要検討	短大でのGPAの活用について、検討が必要	
			(3)学習支援の強化	8	オフィスアワーの充実	学生への浸透が不十分	2	学生への周知方法の変更が必要であることと、非常勤講師への拡大が未実施	4	4	常勤・非常勤について、H27年度からオフィスアワーの学生周知を充実した。		
				9	学習成果到達度システムの実施	経年的に実施されており、現状を維持する	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する		
			(4)高大連携の強化	10	合同授業の実施	H24年度までは後楽館高校からの授業参加を受け入れていたが、H25年度からは高校側の都合により休止中。	1	休止中	4	1	今後、山陽女子高校などに、合同授業への参加を呼び掛ける取り組みを新たに開始	取り組みの強化が必要	
				11	高校生への課題の提示	入学前の課題の提示が適切に実施されている	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する		
				12	入学後の初年次教育(レポート作成、プレゼンの仕方など)の実施	総合人間学部では正規の授業で実施されている	2	看護学部では正規の授業として未実施	4	4	H27年度から、全学的に知的生き方概論の中で書年次教育(レポート作成等)を開始した		
	地域における高等教育の拠点としての、社会貢献の強化		(1)地域の発展を支える大学づくりの教学面での強化	13	アクティブラーニングによる授業の実施	学部・学科等の単位での実施は散見される	3	連携協定を締結した上での実施ではない	4	1	H27年度中にNPO法人と本学との連携協定を検討	NPO法人との協定を実施することが必要	
				14	地域を対象とした学生主体の授業の必修化	経年的に実施されており、現状を維持する	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する		
				15	教育課程編成の際の自治体・地元産業界等からの意見聴取	—	—	自治体・地元産業界等からの意見聴取は未実施	4	1	今年度中に、商工会議所等からの意見聴取を実施する方向で調整する(一部の学部での実施を検討)	意見聴取の方法について、検討が実用	
				16	社会人が就労しながら学修できる多様な履修形態の整備	大学院で長期履修制度を導入済み	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する		
				17	科目等履修生制度に基づく社会人学生の受入	現状を維持する	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する		
				18	雇用保険法に基づく教育訓練給付制度の対象講座の開設	—	—	当該制度による対象講座の指定は受けていない	4	4	H27年度から大学院修士課程が、教育訓練給付制度の対象講座として指定された。		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5:とても良い、4:良い、3:ふつう、2:やや不足、1:不足)

平成26年度・事業実施評価表(大学運営)学生部

最終報告2015・4・17

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		年間の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
大学	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	学生支援	学生生活支援の強化	1	学生食堂の充実	食堂利用者の低迷あり。改善が必要	3	料金改定と新メニューの導入	4	4	料金の低額化とバイキング方式の導入	3	課題は達成したが更なる改善が必要	メニューと食数の改善 朝食抜きの学生への対応	
				2	学生寮の充実	防犯システムの設置	4	現状を維持する	4	4	現状維持	4	防護柵の設置による対策	寮生満足度向上に向けたさらなる取り組み	
				3	外国人留学生生活支援	十分とはいえない	3	内容の充実	4	3	従前のとおり	3	従前通り	共生グローバル推進センターとの連携	
			課外活動支援の強化	4	学友会、部長会等の活性化支援	組織的取り組みが必要	4	内容の充実	4	4	従前のとおり	4	リーダーズトレーニングの内容改善を図った	前年度取り組みを継承	
				5	クラブ活動	組織的取り組みが必要	4	内容の充実	4	4	地域と連携した活動 新団体の発足増	3	新団体は増加したが 地域との連携が不足	地域との連携を推進	
				6	学生による自主活動	組織的取り組みが必要	3	COCへの取り組み	4	4	「学さば」と「さんばと隊」の活動増	4	前年度に比し活発に活動を行った	前年度取り組みを継承	
				7	支援ボランティア活動(東日本大震災、広島市大雨災害)	組織的取り組みが必要	3	ボランティア支援・社会サービスセンターの協力を得て、広報を強化	4	3	交通費等の一部を補助	3	従前通り	社会サービスセンターとの連携	
			健康管理と防犯・防災	8	身体の相談窓口の具体化	身体の不調から不応となる学生が 少ない	3	健康安全推進機構での取組みにより 「身体の相談」窓口の具体化	4	4	健康相談室の立ち上げ	2	十分な利用実績が得られなかった	体制も含め再検討が必要	
				9	メンタルヘルスの推進に努める	組織的取り組みが必要	3	健康安全推進機構での取組みを進める	4	4	学生相談室と健康安全推進機構による取組み強化	4	十分に実施されている	前年度取り組みを継承	
				10	学内禁煙推進の強化を図る	組織的取り組みが必要	2	全職員参加での取り組みを進める	3	4	教職員全員での取り組みを実施	4	禁煙意識の向上が見られる	健康安全推進機構との連携 吸殻ゼロを目指す	
				11	安全安心・危機管理(防犯・防災)の推進に努める	組織的取り組みが必要	2	健康安全推進機構での取組みを進める	3	4	災害避難マニュアルの作成と一斉メールシステムの導入	4	災害避難マニュアルの作成と一斉メールシステムの導入	健康安全推進機構との連携 一斉メール登録者100%を目指す	
				12	事故防止を推進する	訓練や学内での講習が不足	3	学内講習等の取り組みを進める	3	4	4月オリエンテーションにて防犯講習会の開催と「新入生へのメッセージ」本を全学生に配布	3	昨年通り実施された	健康安全推進機構との連携 講習内容の精査	

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(大学運営)

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		最終期の達成値と評価		来年度の課題	備考		
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価				
大学運営	入試・広報戦略の強化を図る。	広報・募集活動	学生募集の見直しと入試広報戦略の強化。	1	大学案内を改訂する。	入札による業者選定を実施しデザインを一新した。都会的でシャープなイメージを表現することができた。	4	着手を早め、改訂が不十分であった箇所の見直しを行う。	5	5	従来よりも早く着手できている。	4	12月～3月の入試期間における進捗が滞ってしまった。	納期の徹底と進捗管理	・スケジュール ・進捗管理表		
				2	ホームページを更新する。	タイムリーに更新ができていない。	2	全学的な更新体制を構築する必要がある。	3	2	情報の集約ができていない。	1	コンテンツの作成、チェックについてのルールがなく組織的な運用ができていない。現体制での運用に限界を感じている。	・更新頻度の向上 ・情報の集約 ・掲載内容作成担当の明確化 ・表現や掲載期間等のチェック機能構築 ・情報セキュリティ	・役割の明確化 ・ルールづくり		
				3	大学案内のダイジェスト版を作成し、各学科の内容及びサポート体制を端的に伝えられるようにする。	再開施策。	－	高校訪問、進学説明会における説明の標準化を行う。	4	5	次年度も継続して活用する。			－			
				4	スマートフォン専用サイトを新設する。	新規施策。	－	認知度を上げる。	4	2	サイトへの誘導策を検討中。	2	進捗なし	閲覧数の向上			
				5	TVCMを作成し、大学の認知度向上及びオープンキャンパスへの参加や入試への動機喚起を図る。	新規施策。	－	幅広い世代へPRする。	5	5	OC参加者数：対前年107%	3	<推薦入試他・AO(～12月)> 志願者数：対前年103.9% 入学者数：対前年108.0% <全入試> 志願者数：対前年89.4% 入学者数：対前年97.4%	次年度も継続	山陽新聞進学ガイドへの参加を再検討		
				6	山陽新聞社企画「岡山の大学へ行こう」へ参加し、本学の特徴を幅広い世代に伝える。	新規施策。	－	幅広い世代へPRする。	5	5		3					
		7		新聞広報(オープンキャンパス、入試日程等)を積極的に活用する。	高校生に向けたPRが中心であり、幅広い世代に向けたPRという点では不十分であった。	3	地元誌への掲載頻度を上げる。	4	4	3		訪問時期と訪問校数の再検討		訪問計画			
		8		高校訪問における訪問方法を変更する。	特定の高校に偏重、ルーティン化した訪問となっている感があり、高校現場の思いを反映した訪問方法を検討する必要がある。	3	訪問の偏重を解消する。	4	4	3							
		9		高校訪問専用要員(現地駐在員等)の活用。	新規施策。	－	高校訪問専用要員の雇用を検討する。	3	3	専任要員ということで新規に雇用はしていないが、本学教員の中で、県外在住者や元高等学校長の経歴保持者に主要校を訪問していただいた。	3	適材適所の人選					
		進学相談会		10	進学相談会への参加について見直しを行う。	主催業者、主催場所(特に県外)、過去の懇談者実績、参加費を検証し参加の是非を判断する必要がある。	4	会場形式の進学相談会(特に県外)を減らし、高校内形式の進学相談会に積極的に参加する。	4	4	過去の実績を基にして参加を決定できている。	2	コスト管理が甘く戦術面だけ重視の縮小傾向に陥ってしまった。	費用対効果と投資的な要素を考慮した戦略的な参加	予算・実績管理		
		見学対応オープンキャンパス		11	大学・短期大学の見学希望者に対し、本学の魅力を伝える。	高校単位の申し込みは毎年同じ高校。新規の開拓が必要。	3	高校単位の見学申し込み数を増やす。	4	2	1校(岡山外語学院)増えた。	2	進捗なし。	高校訪問時のPR			
				12	オープンキャンパスを企画し、円滑に管理、運営する。	総合人間学部の参加者が少ない。	3	総合人間学部の参加者を増やす。	4	4	対前年：141%	4	参加者の満足度を更に上げる対策を考える必要がある。	参加者の満足度を向上させる。岡山駅・本学間の送迎バスの本数を増やす。	対前年：105%		
				13	学生参加型のオープンキャンパスを実施する。	総合司会、プレゼン、キャンパスツアー等、学生の活躍が多く見られた。	4	全学科の在学生活躍レベルを上げる。	5	5	全学科の活躍レベルが向上した。						
		入試		推薦入学者の学力把握。	14	一般推薦Ⅰ期における幼児教育学科の選考方法を「基礎学力検査」に変更。	新規施策。	－	学力選考とし、受験者の質の向上を図る。	4	4	事前準備型の「自分アピール書」では測れなかった学力を測ることができた。			現状維持		
			15		一般推薦Ⅱ期の入試日程を12月初旬に変更。	新規施策。	－	入学願書の受付期間を延長し、志願者数の増加を狙う。	3	3	対前年：79%			志願者の増加	webシステム導入により対前年：110%を目指す		
			入学者の確保。	16	追加募集のしくみ構築。	告知が不十分。	2	告知方法を検討する。	3	2	検討中。	2	進捗なし	告知方法			
				17	繰り上げ合格制度を導入し、適正な入学者数の確保を図る。	入学金手続き期限毎に未納者数分の繰上合格を実施し、合格者数をコントロールできた。	5	現状維持。	5	5	1/24一般試験Ⅰ期から開始	5	合格者に対する歩留まりの悪化を最小限に抑えられた。	現状維持			
				18	社会人入試(総合人間学部、短期大学)に特典を設定し、入学者増を図る。	告知が不十分。	2	告知方法を検討する。	3	2	検討中。	2	進捗なし	告知方法			
			教職員への周知、公正な判断、適切な業務管理。	19	本学入試業務をミスなく円滑に遂行する。	大きな問題なく遂行できた。	5	現状維持。	5	5	特別推薦、一般推薦Ⅰ期終了。	5	全入試でトラブルなく実施できた。			現状維持	
				20	AO入試における登録に至るまでの学科との連携、面談(大学は相談)者との連絡を円滑に遂行する。	大きな問題なく遂行できた。	4	定量的な評価の導入と評価方法の表記を改善する。	5	4	定量的な評価を導入した。						
				21	センター試験関連協議会(4回/年)への参加。	目的意識を持って参加できた。	5	現状維持。	5	5	全てに参加した。						
				22	「センター試験監督者・室外連絡員打ち合わせ会」を開催し、業務内容、変更、注意点の理解を深める。	長時間になってしまった。	3	企画段階において要点を絞り込む。	4	4	12月実施。	4	計画通り実施し、昨年の改善点を反映した内容とすることができた。				
		23		センター試験の準備と試験当日の管理・運営をミスなく円滑に遂行する。	全教職員の協力を得て円滑に遂行できた。	5	現状維持。	5	5	1/17・18	5						
		学部等連携	学科別施策の企画、対策実施。	24	総合人間学部と連携し、入学者を増やす。	効果的な対策が打てていない。	2	OC参加者の満足度向上、IELP、ホテル・エアライン、ビジネス能力開発PRGの広報に注力する。	3	3	実際に授業見学ができる場が必要。	3	進捗なし	IELP、ホテル・エアライン、ビジネス能力開発PRGの広報			
				25	食物栄養学科と連携し、入学者を増やす。	効果的な対策が打てていない。	2	OC参加者を増やし、満足度を上げる。	3	5	OCの満足度が向上した。	5	OCの満足度が向上した。	現状維持			
			本学の特徴、学費面における優遇制度の周知。	26	女子高と連携(保護者会、進学説明会、みさお祭、OS)し、入学に繋げる。	通常の域を脱していない。	3	女子高教員と情報交換する頻度を上げる。	4	3	検討中。	3	進捗なし	女子高教員と情報交換する頻度を上げる。	打合せ回数/年		
		アンケート集計・分析	現状把握、課題抽出、対策実施。	27	アンケート(OC、入学者)を集計し、分析する。	対策の落とし込みが不十分。	3	学科毎に集計結果について打ち合わせを行い、取り組みについて検討する。	4	3	行動計画は検討中。	3	進捗なし	行動計画に基づいた実行			
				28	資料請求者について分析する。	業者選定の指標にはなっているが、学科別の対策の指標にはなっていない。	3	希望学部学科が多岐に別れるため特定の学科についての分析が困難。	3	3	通常の域を脱していない。			現状維持			
		新規発想・取り組み	情報収集、企画、作業遂行。	29	業者主催のセミナー等へ参加する。	不十分である。	1	参加頻度を増やす。	3	2	不足している。	2	進捗なし	参加頻度を増やす	参加回数/年		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(キャリアセンター)

区分	目的	対象 学科	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		今年度の達成値と評価値		27年度の課題	備考
							前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を 基盤とし、多様性を 尊重し、グローバル 化を踏まえた教育を 行い、健康で文化的 な生活や、共生・グ ローバル化社会の実 現に貢献できる人材 の育成。	看護	キャリアサ ポートと就職 支援	(5)キャリアサポー トの充実により学生 の就活力、就業力 を向上。	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未定	前年度同時期と同様に推移している	100%	目標値は達成している	この水準を維持する	就職率
					35	保護者懇談会・病院説明会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである	4	内容は充実している	さらに内容を充実させる	
		生活心理	キャリアサ ポートと就職 支援	(8)キャリアサポー トと就職支援の見 直し・強化	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未定	前年度同時期と同様に推移してい る	100%	目標は達成している	率だけでなく就職先の「質」と学生 就職満足度の向上	就職率
					35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	内容については一層の工夫が求め られる	3	従前どおりである。卒業生の招聘 に苦労。	さらに内容を充実させる	
					36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである	3	面談等個別指導は充実している。 その他の支援システムは要検討。	支援システムの見直し等さらに 内容を充実させる	
					37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	定量的な作業分析が求められる	4	適正な配置、整備が行われた。定 量調査を行った。	業務の効率化について引き続 き定量調査を行う	
		言語文化	キャリアサ ポートと就職 支援	(8)キャリアサポー トと就職支援の見 直し・強化	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未定	前年度同時期と同様に推移してい る	86%	日本人は100%、留学生は77%	率だけでなく就職先の「質」と学生 就職満足度の向上	就職率
					35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	内容については一層の工夫が求め られる	3	従前どおりである。卒業生の招聘 に苦労。	さらに内容を充実させる	
					36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである	3	面談等個別指導は充実している。 その他の支援システムは要検討。	支援システムの見直し等さらに 内容を充実させる	
					37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	定量的な作業分析が求められる	4	適正な配置、整備が行われた。定 量調査を行った。	業務の効率化について引き続 き定量調査を行う	
		食物栄養	キャリアサ ポートと就職 支援	(8)キャリアサポー トと就職支援の見 直し・強化		就職率100%を目指す。					未定	前年度同時期と同様に推移してい る	100%	目標値は達成している	この水準を維持する	
					35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	内容については一層の工夫が求め られる	3	従前どおりである	さらに内容を充実させる	
					36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである	3	従前どおりである	さらに内容を充実させる	
						キャリアセンターが充実しており、学科と連絡・機能している。					4	従前どおりである	4	従前どおりである	さらに内容を充実させる	
		幼児教育	キャリアサ ポートと就職 支援	(8)キャリアサポー トと就職支援の見 直し・強化	33	就職率(100%)の維持を図る	目標値は達成している	5	現状をさらに上昇させる	5	未定	前年度同時期と同様に推移してい る	99%	目標値をほぼ達成している	この水準を維持する	就職率
					34	保護者懇談会・就職懇談会等を開催する。	開催されていて、効果を上げている	5	さらに内容を充実させる	5	5	内容については一層の工夫が求め られる	5	効果を上げている	さらに内容を充実させる	
					35	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが、学生が消極的だっ た	3	さらに学生を指導する	4	3	従前どおりである	4	まずまずよく行われた	さらに内容を充実させる	
					⑨	学科に直接来る就職情報を活用する。	ある程度は活用されている	3	現状をさらによくなる	4	3	従前どおりである	4	まずまずよく行われた	さらに内容を充実させる	

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5:とても良い、4:良い、3:ふつう、2:やや不足、1:不足)

平成26年度・事業実施評価表(図書館)

27.4.15

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		最終報告と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育 (学 習支 援)	学生の主体的な 学習活動を支援 するために必要 な学術情報およ び学習環境を整 備し、学術情報 リテラシー教育 を充実させる。	資料の充 実	学生が満足する蔵書 構成ができている	1	カリキュラムと直結した資料を整備する	不足している領域がある	4	必要な資料を整備する	5	4	一部の領域で不十分である		
				2	学生の希望資料を購入する	蔵書としてふさわしくないもの以外は、全て購 入	5	更に学生からの希望を集める	5	5	購入可能なものは全て購入した		
				3	シラバス掲載資料を購入する	全て購入している	5	現状を維持する	5	5	全て購入し、別置している		
				4	データベース等の電子コンテンツを整備する	予算との関係があり、十分とは言えない	3	必要度に応じ、購入・中止を行う	4	4	予算内でやりくりをしている		
				5	貸出冊数、入館者等が増加している	どちらも増加している	5	より一層利用されるよう、利用を促す	5	2	幼教が大幅に減少した(原因解析済み)	前年度並みに戻す	
		リテラシー 教育の充 実	利用教育が充実して いる	6	オリエンテーションを行っている	実施している	3	内容を深める	4	3	例年通りである		
				7	文献ガイダンスを行っている	実施しているが、未参加のゼミもある	3	内容を深める	4	3	例年通りである		
				8	文献複写・相互貸借等の利用促進を図る	複写の件数は増加しているが、完全には使い こなせていない	3	きめ細かい指導を図る	4	3	例年通りである		
		利用促進	学生の興味を引く企 画を立てている	9	ブックハンティング等を計画し、学生選書を行う	実施しているが、参加者が減少気味である	3	参加を促す	4	4	声掛けを頻繁に行い、参加増となった	参加学生が減少気味である	
				10	テーマに沿った展示を行い、学生の興味を呼び起こす	回数が少なく、不十分である	3	より細かく実施する	4	4	回数を増やし、興味を引く展示を行った		
				11	読書感想文コンテスト等を実施し、学生の読書推進を図る	実施しているが、参加者が減少気味である	3	参加を促す	4	4	授業での協力を得て参加者が増えた	自主的な参加者の増加	
		環境整備	学生が満足できる環 境である	12	学生が利用しやすいよう、開館時間の延長、土曜日開館の実施を行う	実施している	4	現状を維持する	4	4	例年通りである	日曜開館は現状では無理	
				13	共同学習のためのスペース（ラーニング・commons）を設置する	未設置	1	検討したい	1	3	図書館以外に設置する方向	図書館外に設置の方向	
				14	第二書庫を学生が自由にはいれるスペースにするため、修理を行う	未修理	1	修理を行う	1	1	来年度予算×	予算の獲得	
				15	ブックディテクションシステム等の導入により、学生が入りやすい環境を作る	未設置	1	検討したい	1	1	来年度予算×	予算の獲得	
				16	空調設備の完備や飲食可能スペース等を整備し、滞在しやすい空間を生み出す	未設置、空調は一部未設置	2	検討したい	2	2	来年度予算×	予算の獲得	
研究 (研 究支 援)	必要な学術情報 を収集、整理、 保存するととも に、教員の研究 活動を支援する	資料の充 実	必要な学術情報が収 集できている	17	データベース等の電子コンテンツを整備する	予算との関係があり、十分とは言えない	3	必要な資料を整備する	3	3	例年通りである		
				18	リンク集等の維持管理を行う	不十分である	2	こまめな対応をする	3	4	順次更新を行っている		
				19	データベース講習会を開催する	未実施	1	実施する	2	1	時間が取れなかった		
				20	文献複写・相互貸借により本学に無い資料を入手する	実施している	5	現状を維持する	5	5	希望のものは入手した		
		研究活動 の発信	研究成果の発信	21	CiNiiに研究成果を登録する	実施している	5	現状を維持する	5	5	例年通りである		
				22	図書館HPから研究成果へのリンクを管理する	実施している	5	現状を維持する	5	5	例年通りである		
				23	機関リポジトリを立ち上げる	未設置	1	検討したい	1	1	未実施	研修会への参加	
社会 活動 (地 域貢 献)	開かれた大学図 書館として、地域 住民の生涯学習 を支援する	地域住民 の受け入 れ	学外者の学習を支援 する	24	HP等で学外利用者の利用について紹介する	実施して	4	現状を維持する	4	4	例年通りである		
				25	学外者に資料の貸出を行う	条件付きで行っている	3	条件付きで行う	3	3	例年通りである		
				26	岡山県横断検索に参加し、一般市民が利用しやすい環境を作る	予定は無い	1	検討したい	1	3	27年度予算を獲得	岡山県横断検索に参加	
		情報の発 信	情報を発信する	27	ホームページを整備・充実させる	不十分である	3	内容を充実させる	4	4	進行中である		
				28	本学関係資料を整理し、公表する	不十分である	2	検討したい	3	2	例年通りである		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(大学運営)

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間の達成値と評価		最終報告		備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価	
大学 運営	大学・短期大学 運営のガバナンス向上とPDCA サイクルの定着を図る	学長室	学長室の設置により迅速かつ有機的なガバナンスの確立	1	事務局ラインと教学ラインの統括を進める	合同会議での連絡調整を図っている	4	更に推進する	5	4	更に推進している	4	更に推進している	
				2	委員会情報の収集・的確な把握に努める	全教職員への浸透が不十分	2	全教職員の意識形成に努める	3	2	新体制への移行を検討中	3	新体制へ移行した。	
				3	各種企画・計画・プロジェクトの推進・統括を図る	合同会議での連絡調整を図っている	4	更に推進する	5	4	更に推進している	4	更に推進している	
				4	各学部・学科のPDCAサイクルの確立を図る	取り組みを進めている	2	更に推進する	3	2	更に推進している	3	更に推進している	
				5	事務局各部門のPDCAサイクルの確立を図る	取り組みを進めている	2	更に推進する	3	2	更に推進している	3	更に推進している	
				6	学長室と各部門との連携	合同会議での連絡調整を図っている	3	組織形成に努める	4	3	組織形成に努めている	4	経営会議を設置した	
				7	競争的外部資金獲得を進める	不十分である	1	更に推進する	2	1	更に推進している	1	更に推進している	
		情報発信	プロジェクトによる情報発信の強化	8	企画・広報プロジェクトの設置を図る	組織的取り組みにかけている	2	組織形成に努める	3	2	組織形成に努めている	3	広報・山陽スバル推進室の定着を図る	
				9	大学・短大の特色・実績・知名度向上等の情報発信を強化する	必要な情報発信に努めている	3	HPを通じ必要な情報を積極的に発信	4	3	大学ホームページを準備中	4	大学ホームページの充実を図る	
		適切な業務管理	公正な判断のもとに適切な業務管理を行う	10	施設整備・補充等の適正な推進に努める	計画策定が不十分	2	計画策定を進める	3	2	計画策定を進める	2	計画策定を進める	
				11	省エネ対策を推進し経費の節減に努める	学内全体への周知は不足している	2	目標値を検討する	3	2	目標値を検討する	2	目標値を検討する	
				12	教職員のスケジュール管理を推進する	不十分である	2	システム整備に努める	3	2	システム整備に努める	3	専任秘書を設置し、推進する	
				13	各種議事録の作成に努める	全教職員への浸透が不十分	2	全教職員への浸透を図る	3	2	全教職員への浸透を図る	2	全教職員への浸透を図る	
				14	HPを通じ必要な情報発信に努める	更新回数の増の検討が必要	3	更新回数の増加について検討する	4	3	大学ホームページを準備中	4	大学ホームページを公開した	
				15	事務職員の人材育成計画の作成を進める	いまだ計画策定に至っていない	2	計画策定を急ぐ	3	2	計画策定を急ぐ	2	計画策定を急ぐ	
				16	事務職員のマナー向上に努める	具体的な取り組みが不足している	2	マナー向上の取り組みを進める	3	2	マナー向上の取り組みを進める	2	マナー向上の取り組みを進める	
				17	FD/SDを充実し教職員の資質向上に努める	FD/SDの実施に努めた	3	FD/SDのテーマを検討し資質向上に努める	4	3	FD/SDのテーマを検討し資質向上に努める	3	FD/SDのテーマを検討し資質向上に努める	
				18	各種職員研修会への参加とFD/SD・全教職員合同会議への報告を促進する	研修会等への参加を進め発表の場を設けている	3	更に推進する	4	3	更に推進する	3	更に推進する	
				19	FD/SD・全教職員合同会議の定期的開催し、教職員の力量形成・能力の向上を図る	毎月定例開催を進めている	3	定期的開催を継続する	4	4	定期的開催を継続している	4	定期的開催を継続している	
				20	適切な機器の整備、情報システムの安全管理に努める	全教職員の協力のもとでの推進が必要	3	全教職員の協力を得て更に推進する	4	3	全教職員の協力を得て更に推進する	3	全教職員の協力を得て更に推進する	
		人事システム	新たな人事システムを構築する	21	人事委員会規程を基に全学的・一元的な人事システムの構築を進める	整備中である	2	システムの構築をすすめる	3	2	システムの構築をすすめる	3	規程を整備した。	
		健康管理	心身ともに健康な教職員	22	健康管理・健康増進・防犯・防災・安全確保の推進	組織的取り組みが必要	3	健康安全推進機構での取り組みを進める	4	3	健康安全推進機構での取り組みを進める	3	健康安全推進機構での取り組みを進める	
				23	事故防止を推進する	訓練や学内での講習が不足	2	学内講習等の取り組みを進める	3	2	学内講習等の取り組みを進める	2	学内講習等の取り組みを進める	
				24	学内禁煙推進の強化を図る	組織的取り組みが必要	2	全職員参加での取り組みを進める	3	3	全職員参加での取り組みを進めている	3	全職員参加での取り組みを進めている	
				25	メンタルヘルスの推進に努める	組織的取り組みが必要	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	3	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	
				26	安全安心・危機管理の推進に努める	組織的取り組みが必要	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	3	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	
				27	教職員個々に自身の長所短所の認識を促し飛躍の契機とする	全教員への浸透が不十分	2	全教員へ認識をうながす	3	2	全教員へ認識をうながす	2	全教員へ認識をうながす	
		自己評価	適切な自己評価の実施	28	個人評価の有効活用と組織全体の能力向上に役立てる	有効活用が図られていない	2	有効活用が図られるよう努める	3	2	PDCA活動等への活用に向けて調整中	3	PDCA活動等への活用が可能となった	
				29	公正な評価を行い人事等への適正な反映を図るよう検討をする	人事等への反映が進められていない	2	人事等への反映の検討を進める	3	2	人事等への反映の検討を進める	3	必要な昇任人事を行った	
				30	よりよい評価方法を常に検討する	常に検討が加えられている	3	見直しを継続する	4	3	見直しを継続する	3	見直しを継続する	
				31	総合人間・短大食物栄養の学生充実率向上策の検討を進める	不十分である	1	具体的な検討を進める	2	1	具体的な検討を進める	1	具体的な検討を進める	
		将来構想	大学・短期大学将来構想の策定	32	大学・短大将来構想についてプロジェクトでの検討を進める	具体的な検討が不足している	3	プロジェクトでの検討を進める	3	3	プロジェクトでの検討を進める	4	企画部を開設することとなった。	
				33	ワーキンググループを立ち上げ、具体的作業を進める	具体的な作業が不足している	2	具体的作業を進める	3	2	具体的作業を進める	3	企画室にて具体的作業を進めることとなった。	

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

第7回(FD・SD等)全教職員合同会議

日時：平成27年3月24日(火) 13:00～

場所：本404

1. 双方向ライブ型オムニバス授業FD・SD研修会

双方向ライブ型オムニバス授業 FD・SD 研修会

● 開催日時・場所 ●

2015年3月24日 火 13:30～15:00

会場 各大学のテレビ会議システム設置教室

● プログラム ●

13:30～14:40 主旨説明

大崎 紘一 (岡山商科大学 副学長) 氏

13:40～14:20 平成26年度後期オムニバス授業実施報告

澁谷 俊彦 (山陽学園大学 総合人間学部 教授) 氏

14:20～14:30 企画立案と話題提供

中田 周作 (中国学園大学 現代生活学部 准教授) 氏

14:30～14:50 質疑応答と全体共有

14:50～15:00 まとめと今後の展望

高原 周一 (岡山理科大学 理学部 准教授) 氏

大学コンソーシアム岡山 H26 年度双方向ライブ型オムニバス授業アンケート報告について

1. はじめに

岡山商科大学・岡山理科大学・山陽学園大学・中国学園大学の4大学で地域貢献(ボランティア活動を含む)における岡山県の現状やこども・環境・災害復旧等について取り上げた本授業では、外部講師および担当教員の共通講義時間帯で4大学間のTV会議システムによる同時中継を行った。TV会議システムを使用した授業に対しどのように対応し、活用しているかを把握する必要があるため、学生及び教員に遠隔授業に関するアンケート調査を実施した。

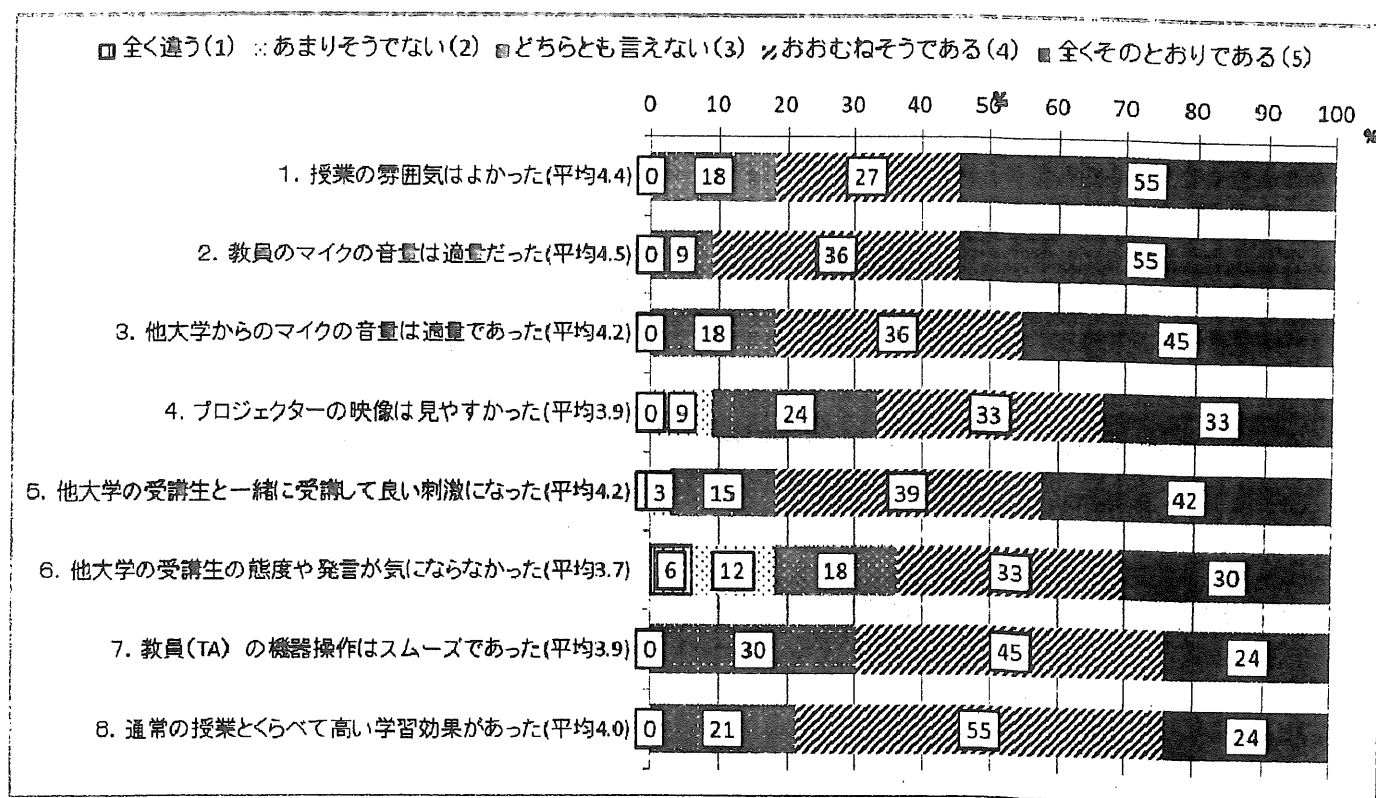
2. 受講者数

43名(内訳:岡山商科大学5名、岡山理科大学20名、山陽学園大学2名、中国学園大学16名)

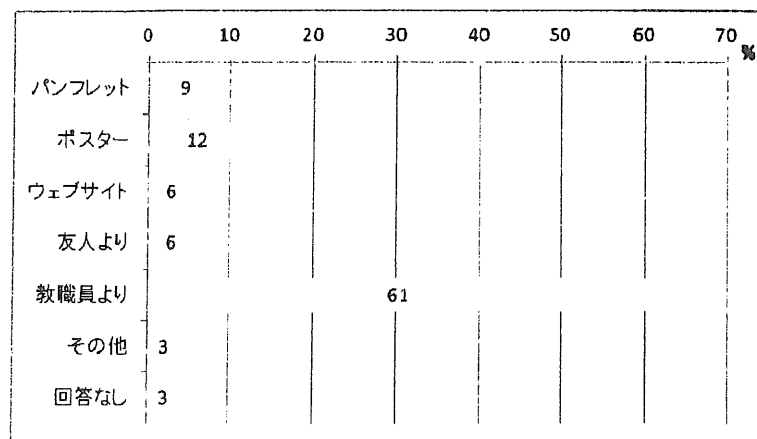
3. アンケート調査結果

・項目別の評価を集計した結果は以下の通りである。

(1) 学生33名



9. どこで岡山オルガノン科目を知りましたか(複数回答可)



(その他回答) 日ようび子ども大学に参加したとき
知った

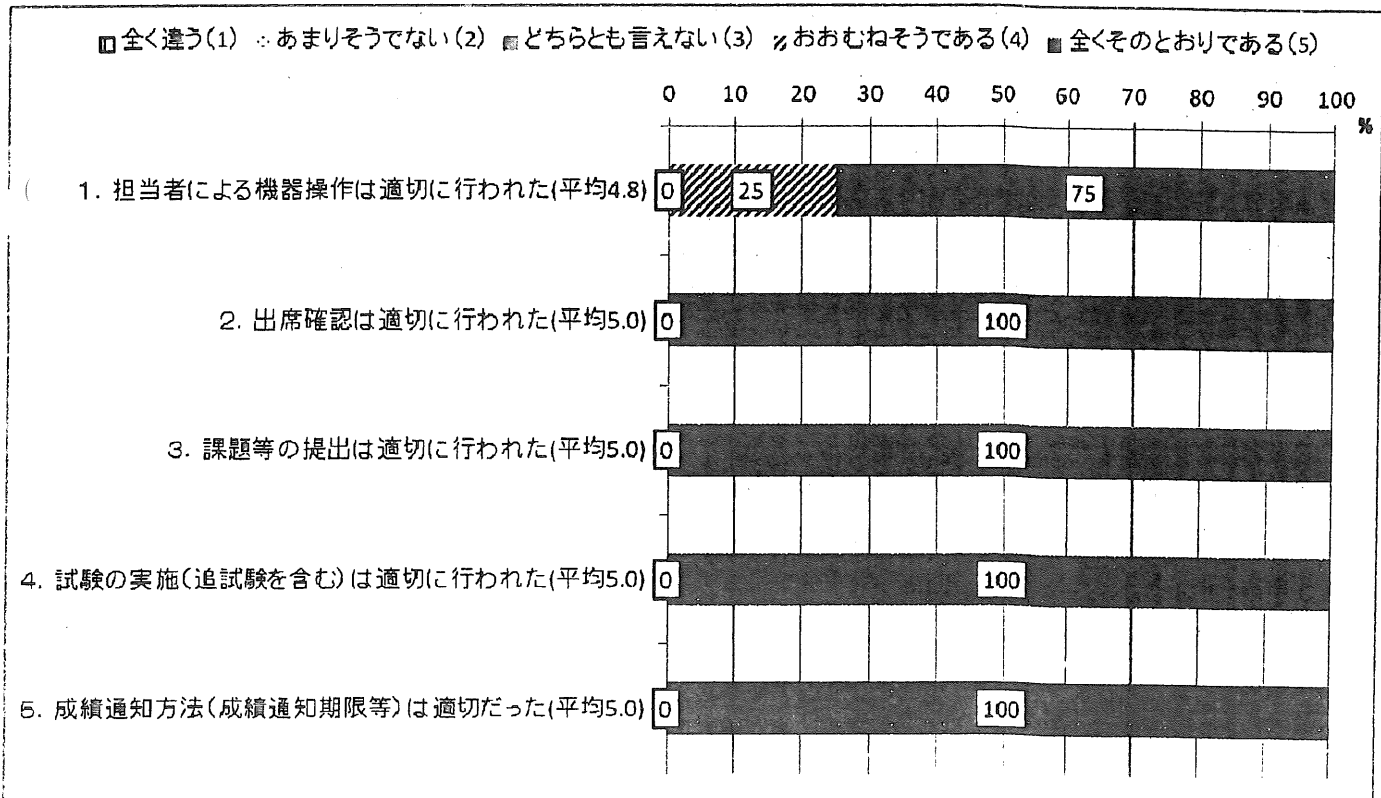
10. 他大学のどんな科目を受けてみたいですか

1	ボランティア・NPO・地域づくりについて学びたいと思いました。
2	発言が多くあり、雰囲気がい授業が受けやすいです。
3	教育学
4	経済系・簿記・租税
5	経済関係・子ども教育関係
6	どんなボランティアをしているか(くわしく)。
7	ボランティアに関するような講義を受けてみたいと思った。
8	心理系、英語系。他の大学の有名(名物)教授の講義をうけてみたい。

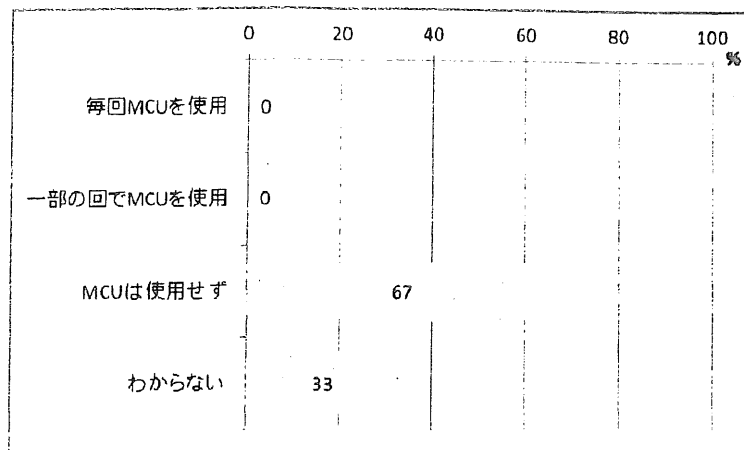
11. この遠隔授業に関する意見、提案

1	カメラの前で意見を言うことに抵抗がある人もいると思うので、何度か取り入れた携帯からの意見投稿をもう少し回数を増やしても良いと思う。
2	毎回に何をやるかわからなかったもので、わかるようにしてもらいたいです。
3	刺激のある良い講義でした。
4	面白かったです。
5	楽しかった。
6	もう少し毎回の授業でやる内容の資料などがほしかった。また、学生同士でのやりとりもほしかったです。
7	配布資料が少なくパワーポイントを見ながらのメモだったのでメモがおいつかなかった。
8	新しい地域貢献、ボランティアの発掘を他大学のいろいろな考えをもとに見つける。
9	何となくですが、シェアリングを十分にするのなら3~5大学くらいが限界なのかと思います。

(2) 教員 4 名



6. 配信は MCU 接続方式を使用しましたか？



7. オルガノン科目についてのご意見、提案があればお書きください。

1	複数大学間でのライブ配信講義は大変ユニークで大学間の壁を越えて、多様な物の見方、考え方に触れることができて良かった。
2	履修学生を増やしていきたい。

8. 機器の操作についてお気づきの点などがあればお書きください。

1	教員がマスターできないといけなのだが、なかなかできない。
---	------------------------------

9. 開講時期と時間についてご意見、提案があればお書きください。

1	各大学の最終コマに置いて、開始時間を(一番遅い大学に)揃えて実施出来れば良いかもしれない。 各大学独自の授業時間の内容についての共有のしくみが必要
2	初めての試みであります、コアタイム共通、他の時間は各大学の教員担当であったので、5限目で良かったと思います。5限目が良いように思います。
3	各大学の時間割制約上、少しずつ努力するしかない。

10. 大学内における遠隔授業の受け入れ体制についてご意見、提案があればお書きください。

1	理大で使っている部屋が、情報処理センターの演習室で使いにくかった。
2	担当教員には負担になるところもありますが、受け入れは可能です。
3	事務スタッフには操作で負担を掛けている

11. その他遠隔授業に関してご意見、提案があればお書きください。

1	スクーリング(実際に顔を合わせた交流会)のようなものが実施できれば面白いかも。
2	各大学に講義担当者が配置できるような科目であれば、多大学参加の講義が可能です。 教養科目には適しているのではと考えます。
3	ともかく、履修学生を増やす努力をしたい。ただし、時間割で必修事業が同時時間帯にあるなど、苦しい状況はある。

山陽学園大学

・ 双方向ライブ型オムニバス授業科目

ライブ配信(教養教育科目)				—	
地域貢献			澁谷 俊彦		
Community Contribution					
2～4 年次	2 単位	後期	1 コマ		
【授業の目的】					
地域貢献(ボランティア活動を含む)について、岡山県の現状と、こども・環境・災害について取り上げます。					
岡山県内の大学と学生がおこなっている、地域貢献(ボランティア活動を含む)について、その方針と具体的活動について理解します。本講義を通じて相互理解を深め地域貢献活動をより良いものに発展させていきます。					
【授業内容】					
1. 共通部分の内容説明 (山陽学園大学 澁谷教授)			9月30日(火)		
2. 岡山県下の地域貢献・ボランティア活動 (ゆうあいセンター 渡辺泉氏)			10月 7日(火)		
3. 大学コンソーシアム岡山の地域貢献 (岡山商科大学 大崎教授)			10月14日(火)		
4. 日ようび子ども大学全体説明 (岡山理科大学 高原准教授)			10月21日(火)		
5. 日ようび子ども大学に参加 (山陽学園大学 澁谷教授)			10月28日(火)		
6. 日ようび子ども大学に参加 (岡山商科大学 大崎教授)			11月 4日(火)		
7. 日ようび子ども大学に参加 (岡山理科大学 高原准教授)			11月11日(火)		
8. 岡山県の環境保全 (岡山県環境企画課 古南篤子氏)			11月18日(火)		
9. エコナイト(岡山駅前会場) (山陽学園大学 澁谷教授)			11月25日(火)		
10. エコナイトの各大学の活動 (山陽学園大学 澁谷教授)			12月 2日(火)		
11. 東日本大震災復興支援ボランティア (AMDA 谷佳世氏)			12月 9日(火)		
12. 東日本大震災復興支援ボランティア (経済同友会 黒住宗道氏)			12月16日(火)		
13. 災害について(岡山県の関わり) (岡山県危機管理課 田中嘉一氏)			1月 6日(火)		
14. 東日本大震災復興支援ボランティア(学生発表) (山陽学園大学 澁谷教授)			1月13日(火)		
15. 受講学生の一言発表・教員一言 (山陽学園大学 澁谷教授)			1月20日(火)		
【テキスト】					
使用しない					
【参考図書】					
特になし					
【成績評価の方法】					
(1) 期末試験 55点 (2) 各週の発表・小レポート 40点 (3) 努力点 5点					

岡山理科大学

科目名	ボランティア論
英文科目名	Introduction to Volunteer
担当教員名	たかはらしゅういち いのぐちまきひこ 高原周一・猪口雅彦
対象学年	1
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 9・10時限
対象クラス	理学部(09～),工学部(09～),総合情報学部(09～),生物地球学部(09～)
単位数	2
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション 【中継】他大学との共通部分の内容について説明する。 【教室内】本学独自部分の内容について説明する。 (全教員)
2回	【中継】岡山県下の様々な地域貢献ボランティア活動について紹介する。また、現代社会におけるボランティア活動の意義と魅力について説明する。(予定講師:ゆうあいセンター職員) 【教室内】この講義の受講動機および自分が行ってきたボランティア活動について受講生が発表する。 (全教員)
3回	【中継】大学コンソーシアム岡山の地域貢献活動について紹介する。(予定講師:参加大学担当教員) 【教室内】学生が参画する地域貢献活動の企画案をグループ内で出し合う。 (全教員)
4回	【中継】大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」について全体的な説明を行う。(予定講師:山陽学園大学・澁谷俊彦) 【教室内】学生が参画する地域貢献活動の企画案についてグループごとに完成させる。 (全教員)
5回	【中継】「日ようび子ども大学」での実践を報告する。(1回目, 予定発表者:山陽学園大学学生) 【教室内】学生が参画する地域貢献活動の企画案をグループごとに発表する。 (全教員)
6回	【中継】「日ようび子ども大学」での実践を報告する。(2回目, 予定発表者:岡山商科大学学生) 【教室内】「日ようび子ども大学」についての改善案をグループ内で議論する。 (全教員)
7回	【中継】「日ようび子ども大学」での実践を報告する。(3回目, 予定発表者:岡山理科大学学生) 【教室内】「日ようび子ども大学」についての改善案をグループごとに発表し、全体討議を行う。 (全教員)
8回	【中継】岡山県の環境保全の取り組みについて説明する。(予定講師:岡山県環境企画課職員) 【教室内】学生が参画する環境保全活動の企画案をグループ内で出し合う。

(全教員)

- 9回 【中継】 大学コンソーシアム岡山主催の「エコナイト」(岡山駅前会場)について説明する。(講師:各大学担当教員)
【教室内】 学生が参画する環境保全活動の企画案をグループ内で完成させる。

(全教員)

- 10回 【中継】 「エコナイト」の各大学の活動について紹介する。(講師:各大学担当教員)
【教室内】 学生が参画する環境保全活動の企画案について、グループごとに発表し、全体討議を行う。

(全教員)

- 11回 【中継】 災害者被害者支援の現状について説明する。(予定講師:岡山県危機管理課職員)
【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループ内で出し合う。

(全教員)

- 12回 【中継】 大学コンソーシアム岡山が行った東日本大震災復興ボランティアの取り組みについて説明する。(1回目, 予定講師:岡山経済同友会)
【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループ内で完成させる。

(全教員)

- 13回 【中継】 東日本大震災復興ボランティアの取り組みについて説明する。(2回目, 予定講師:AMDA)
【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループごとに発表する。

(全教員)

- 14回 【中継】 東日本大震災復興ボランティアの取り組みについて説明する。(3回目, 予定発表者:各大学の参加学生)
【教室内】 東日本大震災復興支援活動の今後の展開について、全体で討論する。

(全教員)

- 15回 【中継】 受講学生の一言発表・教員一言まとめを行う。
【教室内】 この講義の感想をレポートにまとめる。

(全教員)

回数 準備学習

- 1回 シラバスを読んでおくこと。
- 2回 これまで自分が行ってきたボランティア活動についてまとめておくこと。ボランティア活動の経験がない人は、自分がボランティア活動に対して持っているイメージをまとめておくこと。
- 3回 学生が参画する地域貢献活動の企画案を考えておくこと。
- 4回 学生が参画する地域貢献活動の企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。
- 5回 学生が参画する地域貢献活動についての発表準備を行っておくこと。
- 6回 「日ようび子ども大学」の改善案を考えておくこと。
- 7回 「日ようび子ども大学」の改善案について発表準備を行うこと。
- 8回 学生が参画する環境保全活動の企画案を考えておくこと。
- 9回 学生が参画する環境保全活動の企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度検討しておくこと。
- 10回 学生が参画する環境保全活動について発表準備を行うこと。
- 11回 災害復興支援および防災に役立つ企画案を考えておくこと。

- 12回 災害復興支援および防災に役立つ企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度検討しておくこと。
- 13回 災害復興支援および防災に役立つ企画案について発表準備を行うこと。
- 14回 東日本大震災復興支援活動の今後の展開について考えておくこと。
- 15回 これまでの講義で感じたことをまとめ、一言発表ができるようにしておく。

講義目的	大学コンソーシアム岡山が行っている子ども・環境・災害復興等に関係した地域貢献ボランティア活動を紹介し、その改善案・新規提案を考える中で、ボランティア活動についての実践的な知識と参加意欲を高めることを目的とする。 岡山県内の複数の大学(本学・岡山商科大学・山陽学園大学)をテレビ会議システムで結び、双方向ライブ型遠隔授業として実施する。 講義の内容は、3大学を中心に、大学コンソーシアム岡山が共同で制作する。授業は毎週約60分間の共同制作・同時中継の時間帯(授業内容欄では【中継】と表記)と、その前後で教室内でおこなう大学独自の内容(授業内容欄では【教室内】と表記)の合わせて90分となる。 中継時間帯には大いに他大学の学生と情報交換するとともに、教室内ではグループ討議・発表を中心に進め、受講生自身が作り上げていく新しいタイプの講義を目指す。
達成目標	岡山県内の大学と学生がおこなっている、地域貢献ボランティア活動について、その方針と具体的活動について理解する。 受講生どうし(特に専門の大きく異なる他大学の学生)とコミュニケーションができる。 地域貢献ボランティア活動に主体的に参画する意欲をもち、その改善案もしくは新規の企画案を考えることができる。
キーワード	大学コンソーシアム岡山 地域貢献活動 ボランティア活動
成績評価(合格基準60点)	レポートおよび発表・発言の内容で評価する。(100%)
関連科目	ボランティア活動, 科学・工作ボランティア入門
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	理学部化学科 高原周一 (13号館3階, takahara@chem.ous.ac.jp)
注意・備考	受講生自身が講義を作り上げていくという意識で、積極的に講義に参加すること。グループ討議を含むので、欠席は極力避けること。

戻る

平成 26 年度後期 双方向ライブ型オムニバス授業 実施概要

1. 授業概要について

地域貢献（ボランティア活動を含む）における岡山県の現状やこども・環境・災害復旧等について取り上げる。

2. 実施日程について

回	山陽学園大学	岡山理科大学	岡山商科大学	中国学園大学
1	9 月 30 日	9 月 30 日	9 月 30 日	9 月 30 日
2	10 月 7 日	10 月 7 日	10 月 7 日	10 月 7 日
3	10 月 14 日	10 月 14 日	10 月 14 日	10 月 14 日
4	代講日	10 月 21 日	10 月 21 日	10 月 21 日
5	10 月 28 日	10 月 28 日	10 月 28 日	10 月 28 日
6	11 月 4 日	11 月 4 日	11 月 4 日	11 月 4 日
7	11 月 11 日	11 月 11 日	11 月 11 日	11 月 11 日
8	11 月 18 日	11 月 18 日	11 月 18 日	11 月 18 日
9	11 月 25 日	大学祭	11 月 25 日	11 月 25 日
10	12 月 2 日	12 月 2 日	12 月 2 日	12 月 2 日
11	12 月 9 日	12 月 9 日	12 月 9 日	12 月 9 日
12	12 月 16 日	12 月 16 日	12 月 16 日	12 月 16 日
13	1 月 6 日	1 月 6 日	1 月 6 日	冬休み
14	1 月 13 日	1 月 13 日	1 月 13 日	1 月 13 日
15	1 月 20 日	1 月 20 日	1 月 20 日	1 月 20 日

● 開講時期： 平成 26 年後期

● 開講時間帯： 火曜日 5 時限

● 1 回目 9 月 30 日～15 回目 1 月 20 日 （上図参照）

● 休講日の取り扱い

①山陽学園大学： 10 月 21 日は別の日に補講を行う。

②岡山理科大学： 11 月 25 日は 9 月 16 日を補講日とする。

③中国学園大学： 1 月 6 日は別の日に補講を行う。

● コアタイム： 外部講師および担当教員の共通講義時間帯で 4 大学間の TV 会議システムによる同時中継を行う。時間帯は 16:50～17:40（50 分間）とする。

3. 各大学の科目名等について

「地域貢献」：山陽学園大学（澁谷 俊彦教授）

「ボランティア論」：岡山理科大学（高原 周一准教授）

「ボランティア論」：岡山商科大学（大崎 紘一教授）：岡山理科大学の単位互換科目として実施

「地域貢献」中国学園大学（中田 周作准教授）：山陽学園大学の単位互換科目として実施

- 大学コンソーシアム岡山の単位互換科目として実施するかどうかについては、今年度は次年度以降の単位互換化へ向けた準備段階であるので、各参加大学が特例措置を執る。

4. 実施方法について

大学コンソーシアム岡山の単位互換科目と同様な手続きで実施する。

- 履修登録： 受講側大学から配信大学へ受講者の登録を行う。
- 成績評価： 毎回のレポートおよび発表等の評価結果を総合的に評価する。
- 採点： 受講側大学の担当教員からの評価結果を受け、配信大学の担当教員が最終評価をとりまとめ、受講側大学へ学務担当を通じて送付する。

5. シラバスについて

回	開講日	講義内容	主管担当者等
1	9月30日	共通部分の内容説明	山陽学園大学 澁谷教授
2	10月7日	岡山県下の地域貢献ボランティア活動 ※1	渡辺 泉氏（高原准教授）
3	10月14日	大学コンソーシアム岡山の地域貢献	岡山商科大学 大崎教授
4	10月21日	日ようび子ども大学全体説明	岡山理科大学 高原准教授
5	10月28日	日ようび子ども大学に参加（山陽学園大学）	山陽学園大学 澁谷教授
6	11月4日	日ようび子ども大学に参加（岡山商科大学）	岡山商科大学 大崎教授
7	11月11日	日ようび子ども大学に参加（岡山理科大学）	岡山理科大学 高原准教授
8	11月18日	岡山県の環境保全 ※2	古南 篤子氏（澁谷教授）
9	11月25日	エコナイト（岡山駅前会場）	山陽学園大学 澁谷教授
10	12月2日	エコナイトの各大学の活動	山陽学園大学 澁谷教授
11	12月9日	東日本大震災復興支援ボランティア ※1	谷 佳世氏（澁谷教授）
12	12月16日	東日本大震災復興支援ボランティア ※1	黒住 宗道氏（澁谷教授）
13	1月6日	岡山県における災害と被災者支援等について ※2	田中 嘉一氏（澁谷教授）
14	1月13日	東日本大震災復興支援ボランティア（学生発表）	山陽学園大学 澁谷教授
15	1月20日	受講学生の一言発表・教員一言まとめ	山陽学園大学 澁谷教授

- ※は外部講師担当日を表す。

※1： 岡山理科大学に來校いただき配信（第2, 11, 12回）

※2： 山陽学園大学に來校いただき配信（第8, 13回）

- 主管担当者は、当日の講義内容に対して主として説明を担当し、全体の総合司会者的な役割を果たす。他大学の担当教員も積極的に話題提供を行う。
- 第14回目の発表学生は、各大学から1名以上の発表者を出すことを検討する。
ただし、東日本大震災復興支援ボランティアに参加した学生が受講していない場合には、これまでの参加学生の中で誰かに発表を依頼できるかどうかを、本科目の受講者が確定した後に検討する。
- 第5, 6, 7, 10, 14, 15回目では学生の積極的な発言を得る必要がある。

6. 外部講師のご依頼について

回	担当日	講師氏名	所 属	窓口担当者
2	10月7日	渡辺 泉 氏	ゆうあいセンター アドバイザー	高原准教授
8	11月18日	古南 篤子 氏	岡山県 環境文化部 環境企画課 課長	澁谷教授
11	12月9日	谷 佳世 氏	特定非営利活動法人アムダ 事務局長補佐	事務局
12	12月16日	黒住 宗道 氏	岡山経済同友会 教育問題副委員長	事務局
13	1月6日	田中 嘉一 氏	岡山県危機管理課 課長	澁谷教授

- 外部講師については、大学コンソーシアム岡山が定めた所定の手続きをとる。
- 9月中旬に、大学コンソーシアム岡山事務局から各講師に講師依頼状を送付する。
10月上旬を締め切りに、ご承諾書類を返送いただく。
- ご承諾後、授業に関する詳細な連絡事項を事務局から各講師にお知らせする。

7. コアタイム外の時間帯の講義方法について

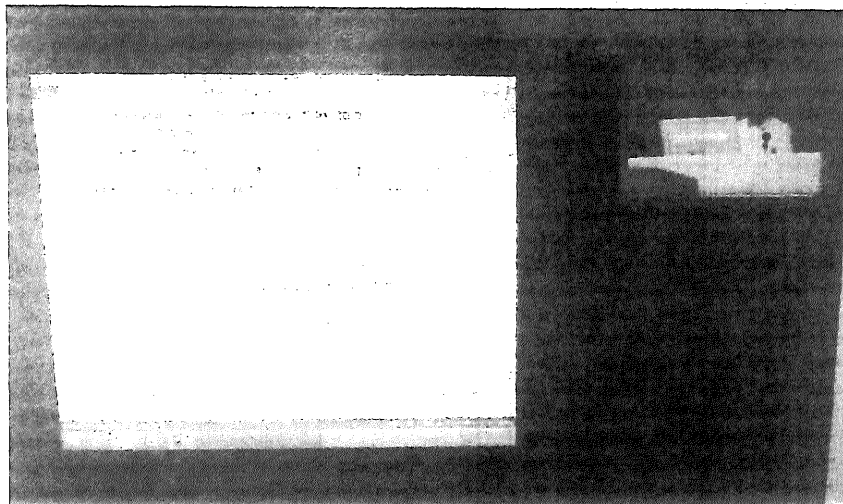
コアタイムを除く時間帯（前後の合計40分間）は、大学により長短があるので、各大学が独自に工夫する。

- 各大学の授業時間帯と配信する共通時間帯（コアタイム）

大学名	授業時間帯	共通時間帯（コアタイム 16:50～17:40）															
山陽学園大学	16:30～18:00																
岡山理科大学	16:45～18:15																
岡山商科大学	16:20～17:50																
中国学園大学	16:30～18:00																

以 上

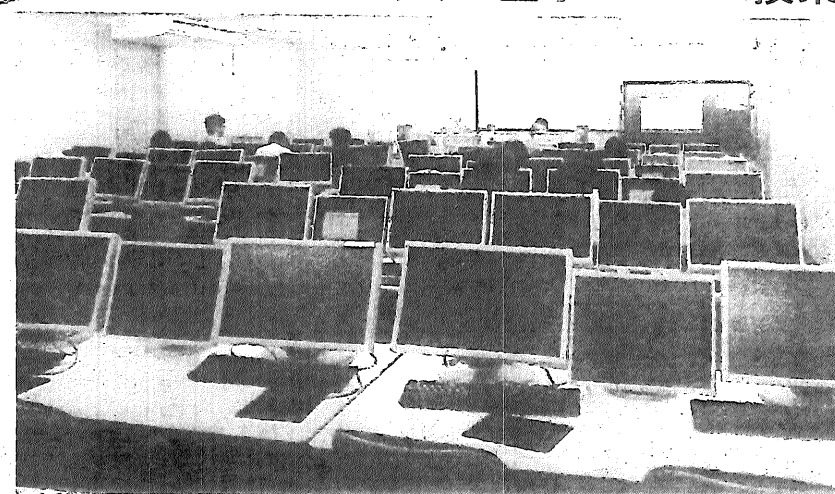
平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「大学コンソーシアム岡山の地域貢献」
平成26年10月14日

1

平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「日ようび子ども大学に参加」
平成26年11月1日

2

平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「エコナイトの各大学の活動」
平成26年12月2日

3

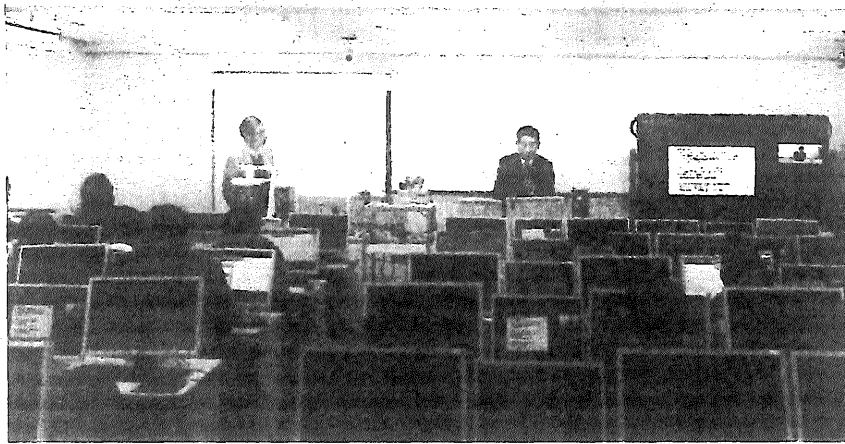
平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「東日本大震災復興支援ボランティア」
平成26年12月9日

4

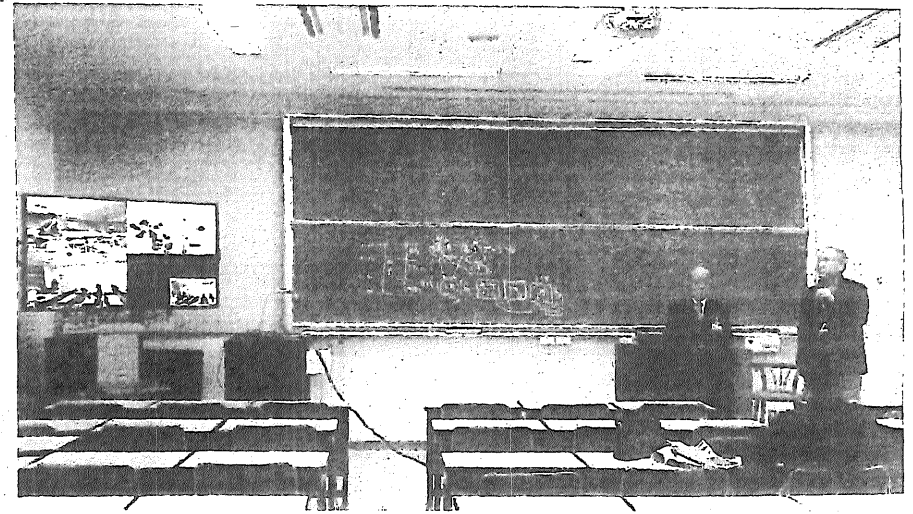
平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「東日本大震災復興支援ボランティア」
平成26年12月16日

5

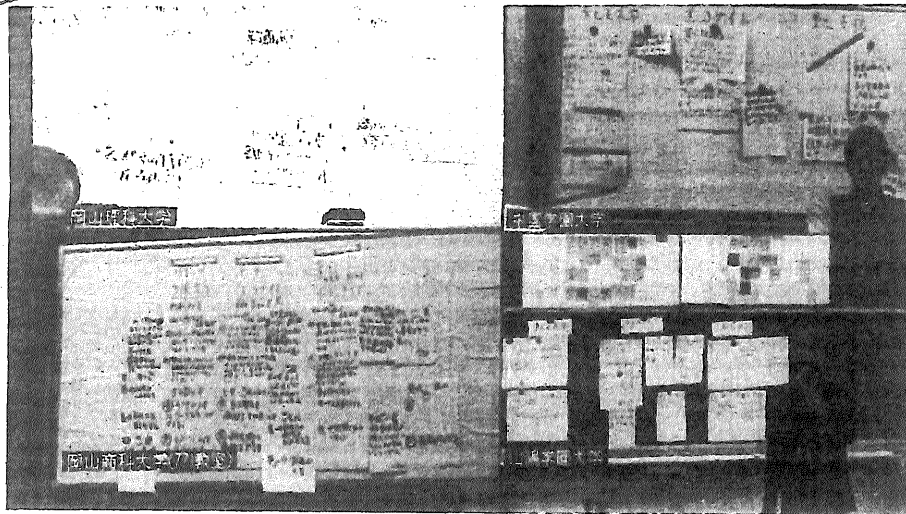
平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「岡山県における災害と被災者支援等」
平成27年1月6日

6

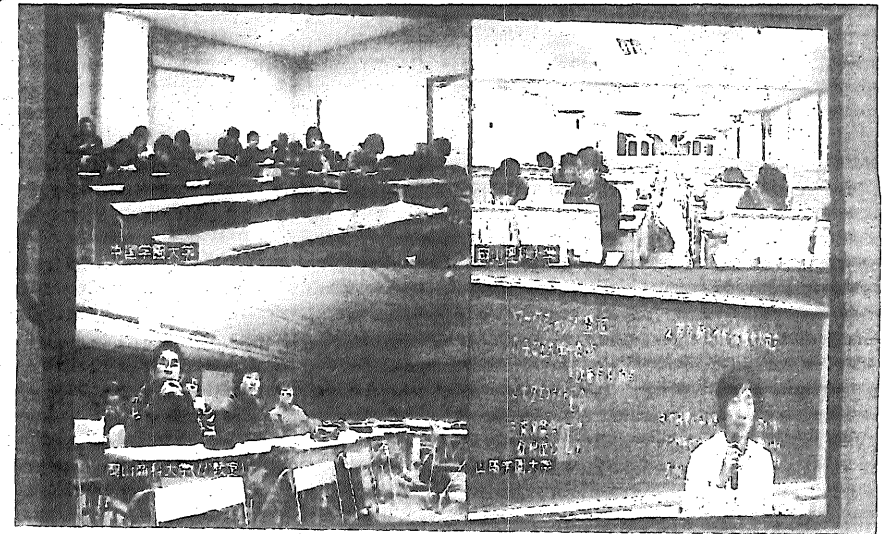
平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「東日本大震災復興支援ボランティア」
平成27年1月13日

7

平成26年度双方向ライブ型オムニバス授業



「受講学生の一言発表・教員一言まとめ」
平成27年1月20日

8

第6回(FD・SD等)全教職員合同会議

日時：平成26年12月25日(木) 10:00～

場所：本301

1. PDCA 事業実施評価表（中間報告）

- ① 生活心理学科
- ② 言語文化学科
- ③ 看護学科
- ④ 食物栄養学科
- ⑤ 幼児教育学科
- ⑥ 研究領域
- ⑦ 社会貢献領域
- ⑧ 教務部
- ⑨ 学生部
- ⑩ 入試広報部
- ⑪ キャリアセンター
- ⑫ 図書館
- ⑬ 大学運営

2. その他

平成26年度・事業実施評価表(教育領域);生活心理学科 中間報告2014.11.11

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	例年通り行われている		
				①	AO入試で適切な学力表を行い、入学者を確保する。	AOによる入学者が不足している	—	AOを高校訪問で丁寧に説明する	10%	8.3	1期入試で8.3%に到達している		AOの入学者率
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4	4	従来通り		
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義する	4	5	教科書を用いて具体的に講義している		
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	平井ラーニングなどを実施している	4	現状を維持する	4	5	新たに表町ラーニングをスタートした		
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を漫透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	学科単位の展示発表が好評だった		
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り		
				7	シラバスを充実する。	履修者情報が不足している	3	履修者の成績分布表記など工夫す	4	3	改善できていない		
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者間で検討する	4	3	改善できていない		
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り		
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	表町ラーニングをスタートした		
				11	体験交流重視教育を強化する。	不足している	1回	回数を増やす	2回/年	3回/年	表町、倉敷、平井ラーニング		交流教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	浸透していない	1回	学科全体で取り組む	2回/年	1回/年	平井ラーニング		社会活動等の回数/年間
				②	資格特待生制度・英語堪能入学者増計画を導入する。	告知・宣伝が不十分	0%	大学案内を活用し宣伝に努める	5%	未定	1期入試では結果が出ていない		特待生等の入学者に占める割合
				③	家庭科教育教職課程教育を実施し、履修者を増やす。	初年度で指導が不十分	1名	家庭科教職の魅力を伝える	3名	未定	1期入試では結果が出ていない		家庭科教育教職履修者数
				④	生活科学・心理学の2コース制を実施する。	2年度目で浸透し始めた	3	コース制の意味を1年生に説明する	4	5	十分浸透している		
			(4)学習支援の強化。	13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	不十分である		
				14	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	休・退学相談など活用されている		
				15	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	2	不十分である		
				16	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	2	不十分である		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活へ向けた講座への参加動機が不足	2	講座への参加を促す	3	2	不十分である		
				18	社会人基礎力の強化を図る。	教科以外の機会が不足	2	学外の講座などの情報を伝える	3	2	不十分である		
				⑤	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る	全学生に浸透しきっていない	87回	さらに学生に説明し理解を深める	100回	未定			システム利用者数
				⑥	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	〇〇名	さらに学生に説明し理解を深める	3名	未定			プログラム参加者数
				⑦	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	〇〇名	さらに学生に説明し理解を深める	3名	未定			プログラム参加者数
			(6)学生支援の強化	19	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	組織化がなされて試行されている		
				20	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	4	禁煙、AED、緊急連絡システム		
				21	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	2	不十分である		
				22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	2	留学についての情報を提供する	3	2	不十分である		
				23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	2.30%	授業内容の魅力を高める	1.00%	未定			中退者・除籍者率
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	大学祭の活性化がなされた		
				25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	2	コース制、教職課程等の理解を深め	4	5	コース制、教職課程等の理解を深めた		
				26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	〇〇回	全教員が年2回は更新する	2回/年	未定			教員紹介等の項の更新回数
			(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する	HP更新回数が少ない	〇〇回	ホットニュースなどを随時更新する	2回/月	2回/月	随時更新がなされている		HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	2	OC参加者と受験者の相関を明確化する		
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	2	不十分である		
				30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	5	十分に行われている		
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	推薦入試の小論文などの再検討	4	4	再検討し、新方式で実施している		
				32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない	58%	受験者を増やし定員充足率10割とす	100%	未定			定員充足率
				33	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足	0%	教員の地域活動等でPRを行う	5%	未定			社会人入学者率
				⑧	総入学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	連携が不足していた	2	入試広報部との連携を深める	4	2	従前どおりである		
			キャリアサポートと就職支援	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未定			就職率
				35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
				36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
				37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	従前どおりである		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(教育領域) ; 言語文化学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		今年度の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。		
				①	AO入試で適切な学力査を行い、入学者を確保する。	AOによる入学者が不足している	〇〇%	AOを高校訪問で丁寧に説明する	10%	未	高校訪問で案内しているが、現時点の受験者数は例年とほぼ同じである。		AOの入学者率
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4	4	現状を維持している。		
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義する	4	5	「人間学」で具体的に講義している		
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	平井ラーニングなどを実施している	4	現状を維持する	4	4	平井ラーニング(前期)を実施し、後期も実施予定である。		
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を放送させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	2年生を中心に学科で展示と模擬店に参加した。		
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。		
				7	シラバスを充実する。	履修者情報が不足している	3	履修者の成績分布表記など工夫する	4	3	改善できていない。		
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者間で検討する	4	3	検討できていない。		
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。		
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。		
				11	体験交流重視教育を強化する。	不足している	〇〇回	回数を増やす	2回/年	2回/年	コア科目で1年次～3年次にかけて2回以上実施している。		交流教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	全教員に浸透していない	〇〇回	学科全体で取り組む	2回/年	1回/年	上記体験型教育の中に地域貢献活動が含まれている。		社会活動等の回数/年間
				②	資格特待生制度・英語堪能入学増計画を導入する。	告知・宣伝が不十分	〇〇%	大学案内を活用し宣伝に努める	5%	未	高校訪問などで宣伝に努めている。現時点では該当者は出ていない。		特待生等の入学者に占める割合
				③	月～金6コマ目に英語堪能者クラスを設け授業を実施する。	本年度後期より実施	各2名	受講者の英検等上位合格を目指す	各3名	各1～5名	6限授業を10月から実施している。申込者は8名。各講座1～5名。		家庭教育教育教職履修者数
				④	学科名称変更を実施する。	本年度から検討	3	文部科学省と交渉する	4	4	文部科学省に事前相談を行った。		
			(4)学習支援の強化。	13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	2	改善できていない。まずセンターの位置づけを整理する。		
				14	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	アドバイザー制は、休学・退学・単位修得などに関する指導に活用されている。		
				15	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	2	初年次教育は基礎演習を中心に行われている(基礎学力向上学習もこれに含まれる)。他科目との連携はできていない。		
				16	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	3	教務部、留学生センターおよびキャリアセンターと連携し、履修指導や就職支援科目を実施している。		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活へ向けた講座への参加動機が不足	2	講座への参加を促す	3	2	授業などで促しているが、講座の参加状況は不十分である。		
				18	社会人基礎力の強化を図る。	教科以外の機会が不足	2	学外の講座などの情報を伝える	3	3	「社会人入門」の授業で紹介している。		
				⑤	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	全学生に浸透しきっていない	87回	さらに学生に説明し理解を深める	100回	未	就職ポートフォリオの登録はできているが、その後の活用は十分でない。		システム利用者数
				⑥	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	〇〇名	さらに学生に説明し理解を深める	3名	約5名	ホテルエアライン受講者は、今年度1年7名、2年4名である。		プログラム参加者数
				⑦	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	〇〇名	さらに学生に説明し理解を深める	3名	未	さらに検定や課外講座への参加が望まれる。		プログラム参加者数
			(6)学生支援の強化	19	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	各部署と連携し、経済上の支援、学生相談支援、障がいのある学生への支援、留学生の生活全般の支援などを行っている。		
				20	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	全学年で災害緊急連絡システムの登録の完了を促している。		
				21	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	2	検討できていない。		
				22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	2	留学についての情報を提供する	3	3	国際交流関係の部署が説明会を行い、情報を提供している。		
				23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	2.30%	授業内容の魅力を高める	1.00%	未	現時点の除籍・退学は前年とほぼ同じである。		中退者・除籍者率
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。		
				25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	2	コース制、教職課程等の理解を深める	4	3	専門科目を分けて提示し、選択の目安とした。資格説明の機会を設け、理解を深めた。		
			(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	〇〇回	全教員が年2回は更新する	2回/年	未	更新されていない部分が多い。		教員紹介等の項の更新回数
				27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する	HP更新回数が少ない	〇〇回	ホットニュースなどを随時更新をする	2回/月	未	随時更新はできていない。更新のしかたを見直したい。		HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	3	OCの参加者は昨年より増えているが、現時点の受験者数は増えていない。		
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	4	入試広報部と連携し、多様な学生を受け入れるべく対応している。		
				30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	4	プレゼンや案内などに学生が参加し、効果を上げている。		
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	推薦入試の小論文などの再検討	4	4	再検討され、変更して実施している。		
				32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない	58%	受験者を増やし定員充足率8割とする	80%	未	現時点の充足率はまだ低い。		定員充足率
				33	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足	0%	教員の地域活動等でPRを行う	5%	未	現時点の社会人入学者率は例年とほぼ同じである。		社会人入学者率
				⑧	総入学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	連携が不足していた	2	入試広報部との連携を深める	4	4	入試広報部と連携し、IELPやホテルエアラインの広報に努めている。		
			キャリアサポートと就職支援	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未	内々定の数は少しずつ増えている。		就職率
				35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	現状を維持している。		
				36	各種のキャリアサポート・就職支援を実施する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	現状を維持している。		
				37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	現状を維持している。		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5 ;とても良い、4 ;良い、3 ;ふつう、2 ;やや不足、1 ;不足)

平成26年度・事業実施評価表(教育領域)：看護学科

平成26年度12月9日版

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	25年度の評価と評価値		26年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		27年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	4	現状を維持する	4	4	例年どおりに行われている		
					特別推薦定員の削減。又は、特別推薦の評定値を上げる。	特別推薦	27%	特別推薦を25%にする	25%	20%	目標到達した		特推の入学者率減
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4	4	従来通り		
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義を受けさせる	4	3	従来通り		
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	様々な講義が実施している	4	現状を維持する	4	4	従来通り		
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	参加を誘っている		
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り		
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	7	シラバスを充実する。	十分に行われている	3	シラバスの内容の再検討	4	保	検討中		
				8	専門科目を充実する。	十分に行われている	3	現状を維持する	4	4	従来通り		
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り		
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り		
					実習における体験教育を強化する	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り		実習教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	全教員・学生に浸透していない	2	学科全体で取り組む	3	3	不十分である		社会活動等の回数/年間
					国家試験の合格率100%を目指す。	合格率90.36%	90.40%	指導の充実を図る	98%	保	努力している		
			(4)学習支援の強化。	13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	2	不十分である		
				14	アドバイザー制度などを活用する。	十分に行われている	3	現状を維持する	3	3	従来通り		
				15	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。？	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	3	従来通り		
				16	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。？	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	？			
					入学前学習の充実を図る。	合格者に事前課題を求める	2	合格者に事前課題を求める	3	4	改善できている		
					国家試験対策の充実を図る。	学内の教員・アドバイザーで対応	3	4年生は業者による特別講義各学年模試の実施	4	4	取り組んでいる		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	知的生き方概論で学習している	2	現状を維持する	3	3	従来通り		
				18	社会人基礎力の強化を図る。	学内及び実習施設等で学んでいる	2	現状を維持する	3	3	従来通り		
					キャリア教育の充実を図る。		2	積極的なインターンシップの推奨	3	3	従来通り		
			(6)学生支援の強化	19	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	？			
				20	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	？			
				21	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	3			
				22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	2	留学についての情報を提供する	3	3	情報を提供した		
				23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	3.30%	現状を維持する	3.30%	0.9%	改善できている		中退者・除籍者率
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	従来通り		
			(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	2	コース制、教職課程等の理解を深める	3	3	情報を提供した		
				26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	〇〇回	全教員が年2回は更新する	2回/年	保	不十分である		教員紹介等の項の更新回数
				27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する。	HP更新回数が少ない	〇〇回	ホットニュースなどを随時更新をする	1回/月	7回	更新できている		HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	4	連携できている		
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4				
				30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	5	十分に行われている		
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	変更した入試科目、評定値の再検討	4	？	検討中		
				32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されている	106%	受験者を増やし定員充足率を維持	106%	保	取り組んでいる		定員充足率
				33	社会人の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足	0%	教員の地域活動等でPRを行う	5%	？			社会人入学者率
			キャリアサポートと就職支援	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	保			就職率
				35	保護者懇談会・病院説明会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	4	従来通り		
				36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4				
				37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4				

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(教育領域) ; 食物栄養学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	まずまず行われている		現状を維持する					
				2	AO入試で適切な学力評価を行い、良い学生を確保する。	方法論に検討が必要		改善する				AOの入学者率	
			(2)教養教育の充実化	3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	知的生き方概論で担当する		学生による授業評価を検討する					
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	さまざまな科目で取り組む		現状維持					
				5	学園への帰属意識を高める。	学園歌については授業で教えている		学園祭などに説教的に参加させる					
				6	教養教育科目の開講数増を図る。	不十分		開講せずの科目を減らす					
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	7	学科のミッションについて学科教員間で議論している。	充分とはいえない		改善する					
				8	ファカルティの数的充実	全く不十分		基準値よりゆとりを持って8名とする			公募開始		
				9	カリキュラムの検討・改善	栄養士法施行規則に準ずる		特色を出すカリキュラムを検討する					
				10	シラバスを充実する。	大学の基準に従っている		現状維持					
				11	シラバスを適正活用する。	行われている		現状維持					
				12	専門科目について教育成果があがっているか。	実力認定試験の受験者を増やす		更に増やす			昨年比約3倍の受験者		
				13	成績評価を厳格にする。	充分とはいえない		改善する					
				15	体験交流重視教育を強化する。	幼児教育学科との連携などで実施		現状維持					交流教育回数/年間
				16	厚労省の基準に合致した教育内容になっているか。	なっている		現状維持					
				17	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	前向きに取り組む		学科全体で取り組む					社会活動等の回数/年間
				18	学科のための入試制度を活用し、入学者増を図る。	関連分野の就学希望者を発掘する		新しい制度の提案					
				19	センター利用入試の拡大を図り、入学者増につなぐ。	充分とはいえない		さらに努力する					
				20	クラス顧問制度を充分に機能させる。	行っている		更なる充実を図る					
				(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	21	マナーの向上を図る。	校外実習や就職活動を機会とする		現状維持				
			22		社会人教育の強化を図る。	充分とはいえない		さらに充実させる					
			23		「社会人入門」を充実させる。	内容を検討する		改善していく					
			24		就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	社会人入門等で推進する		専門職支援とリンクさせる					システム利用者数
			25		PG検定(文書作成)の活用・推進	受講生を増やす		全員の受講を目指す					
			26		PG検定(データ活用)の活用・推進	受講生を増やす		全員の受講を目指す					
			27		漢字検定の活用・推進	受講生を増やす		全員の受講を目指す					
			28		その他の検定試験の活用・推進	検討中		新しい検定を取り入れる					プログラム参加者数
				29	校舎の耐震性を確保し、学生に安全な学習環境を提供する	不十分		改善する					
				30	食中毒の起こりにくい構造に校舎を改築する。	不十分		改善を要求する			泉者の見積もり段階(特にトイレ)		
				31	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある		問題箇所を特定し改善する					
				32	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する		留学についての情報を提供する					
				33	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している		一人も出さない心構えで取り組む					中退者・除籍者率
				34	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている		現状を維持する					
				35	ホームページを活性化する。	ニュースをたびたび更新する		全員がニュースを提供する					教員紹介等の項の更新回数
				36	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある		入試広報部との連携を深める					
				37	高校訪問など、迅速な戦略の強化を図る。	不十分な部分がある		入試広報部との連携を深める					
				38	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている		現状維持					
				39	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づき見直しが必要		学科の特徴を活かす入試方法の検討					
				40	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない		受験者を増やし定員充足を目指す					定員充足率
				41	就職率100%を目指す。	ほぼ達成されている		就職の質の向上を目指す					
				42	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが、さらに改善		さらに内容を充実させる					
				43	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	さらに内容を充実させる		さらにきめ細かに行う					
				44	キャリアセンターと学科と連携し、充分機能している。	さらなる連携を行う		具体的に検討する					

平成26年度・事業実施評価表(教育領域): 幼児教育学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		今年度の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	ほぼ行われている	3	過去のデータを活用する	5	4	もう少し工夫が必要である		
				2	AO入試で適切な学力表を行い、入学者を確保する。	データを統計解析して活用している	5	今年度もエータを収集・解析する	5	5	データ解析は良く行われている		AOの入学者率
			(2)教養教育の充実化	3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。		4	現状を維持する	4	4	かなり良くできている		
				4	健康や文化への価値観を高める。	科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に講義する	4	4	かなり良くできている		
				5	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	ボランティア活動など行われている	4	現状を維持する	4	4	ボランティアは良く行われている		
				6	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4	4	良く参加されている		
				7	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	不足している面がある	3	より一層、基礎教育を充実させる	4	4	まずまず良く行われている		
				8	シラバスを充実する。	具体的な内容が分かりにくい教科がある	4	具体的な内容例を知らせる	5	5	充実している		
				9	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者が検討する	4	35	もう少し工夫が必要である		
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	10	成績評価を厳格にする。	もう少し努力が必要である	3	教員もより厳しく学習指導する	4	4	学習指導は良く行われている		
				11	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	やや少ない状態である	3	教員が講義を工夫する	4	4	良く工夫されている		
				12	体験交流重視教育を強化する。	十分に行われている	4	さらに質量の向上を図る	5	4	良く行われている		
				13	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	学生の奉仕活動は行われている	4	学科全体で取り組む	5	4	良く行われている		
				①	音楽教育のより一層の充実	やや課題が残るが練習する学生増加	3	ピアノ技能を徹底して修得させる	4	3	もう少し工夫が必要である		
				②	幼稚園・保育所で必要な技能の習得	かなり良く行われている	4	さらに教育を深める	5	5	大変良く行われている		
				③	園児指導に必要な知識の獲得	知識の獲得に学生が消極的	2	知識面での教育を厳格にする	4	2	努力が必要である		
			(4)学習支援の強化。	14	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	もう少し工夫が必要である		
				15	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3	3	もう少し工夫が必要である		
				16	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3	3	少し良くなっている		
				17	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3	3	もう少し工夫が必要である		
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	18	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	社会人入門などで講義している	3	より徹底した指導を行う	3	3	かなり良くできているがもう一歩である		
				19	社会人基礎力の強化を図る。	社会人入門などで講義している	3	より徹底した指導を行う	3	4	良く出来ているが工夫が必要である		
				④	学生が自主的にサポートを求めるようにする。	全学生に浸透しきっていない	2	さらに学生に説明し理解を深める	4	3	もう少し工夫が必要である		
				⑤	積極的に施設でのボランティアを行う	ある程度は行っている	3	さらに学生指導する	4	4	かなり良くできている		
			(6)学生支援の強化	⑥	幼稚園・保育所で求められている事を調べる	学生が消極的	2	さらに学生指導する	3	3	学生を積極的にさせる工夫が必要である		
				20	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4	3	もう少し工夫が必要である		
				21	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	3	機構の機能を高める	4	3	良く行われるようになった		
				22	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3	3	まずまず良く行われている		
				⑦	生活困難学生への相談活動を行う	不十分であった	2	早期に相談活動を行う	3	3	困難だが良く行われている		
				23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	種々の事情があり困難も多い	2	生活支援の相談活動を活発化する	3	2	もう少し工夫が必要である		中退者・除籍者率
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	やや不足している	3	より一層の学生指導を行う	4	3	まずまず良く行われている		
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	ほぼ達成できた	3	より一層、理解を深めてもらう	4	3	まずまず良く行われている		
				26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が不十分	3	全教員が年2回は更新する	4	2	もっと更新をする必要がある		教員紹介等の項の更新回数
				27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する	教員が広く学外講義を行っている	4	現状をさらに拡大する	5	4	学外講義や論文で良く行われている		HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学、資料請求状況を分析する。	分析を進めてきた	4	入試広報部との連携を深める	5	5	良く行われている		
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	学科内で話し合っている	3	入試広報部との連携を深める	4	4	まずまず良く行われている		
				30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5	5	大変良く行われている		
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	効果的な面接方法の開発	4	4	大変良く行われている		
				32	正確な入学予測の基に適正な入学確保を行う。	過去のデータ分析が少ない	3	過去のデータ分析をより進める	5	5	大変良く行われている		定員充足率
				⑧	幼児教育学科と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	頻繁に入試広報と連絡しあった	5	現状をさらに深める	5	4	まずまず良く行われている		
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	33	就職率(100%)の維持を図る。	目標値は達成している	5	現状をさらに上昇させる	5	5	良く行われている		就職率
				34	保護者懇談会・就職懇談会等を開催する。	開催されていて、効果を挙げている	5	内容をより充実させる	5	5	大変良く行われている		
				35	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが学生が消極的だった	3	さらに学生を指導する	4	4	まずまず良く行われている		
				⑨	学科に直接来る就職情報を活用する	ある程度は活用されている	3	現状をさらに良くする	4	4	まずまず良く行われている		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(研究領域):大学全体の平均として

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
研究	地域における良質で有意な人材の育成に努め、大学・短大に求められている社会的要請(地域への貢献等)に対応し、大学・短大の社会的存在意義を高めること。	研究体制の構築	(1)研究の意義の確認	1	研究活動が教育・社会活動・地域貢献の基盤となり、大学の社会的存在意義を高める重要な要素であることが、確認されている。	FD/SDなどを通じて十分に確認されているとまでは言えない。	2	研究への取り組みを促進する	3	4	精神障害、潜在保育士、障害者などの研究が行なわれ、地域貢献につながっている		
				2	教員の研究活動は、学科・専攻課程等の特性や方針に基づいている(又は、連動している)。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	精神医療、臨床心理、幼児教育などの専門性が、研究に活用されている		
			(2)研究体制の整備・活用	3	教員が、研究を行う教員室、研究室等が整備され、充実している。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		
				4	研究に必要な資料(論文、文献)の取り寄せや閲覧が行なえる環境が整備され、活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれ、圖書の補充も行なわれている		
				5	教員が、研究、研修等(学会参加を含む)を行う機会が確保されている。	学科や領域によっては十分ではないところがある	2	研究活動に必要な時間の確保が出来る環境づくりを進めていく	3	2	教員体制が十分とはいえず、教員が研究活動等の時間が確保できない学科や領域がある		
				6	教員が研究成果を発表する機会(学内研究紀要の発行等)が確保され、活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		
		研究能力の向上と研究の活性化	(3)研究能力の向上	7	教員が、研究会や研修等に、定期的に(年1回以上)参加している。	学科や領域によっては十分ではないところがある	2	研究活動に必要な時間の確保が出来る環境づくりを進めていく	3	2	教員体制が十分とはいえず、教員が研究会等に参加する時間が確保できない学科や領域がある		
				8	教員に、個人研究費が適切に支給され、適切に活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		
				9	教員が、研究活動の成果(著書、論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他)を、年次毎に大学・短大に報告し、個人評価されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4	4	十分に行なわれている		
			(4)研究活動の活性化	10	教員個々人の研究活動の状況が外部に公開され、定期的に更新されている(大学の知的シーズが外部に公表され、定期的に更新されている)。	十分に公開されているとは言えない	2	基準を決めて公開を促す	3	2	教員の研究活動の外部公表が、十分に行われていない。		
				11	地域社会(行政を含む)から、委託研究等の研究へのニーズを受ける窓口や仕組みが備わっている。	十分とは言えない	2	地域社会とのつながりを構築していく	3	3	地域の課題を受け付ける取り組みが少しずつ進んできている		
				12	学内外で、分野横断型の共同研究等が行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	3	学内で、いくつかのテーマ(精神障害者、潜在保育士等)で共同研究が行なわれつつある		
				13	地域社会との間で、委託研究や共同研究等の取組みが行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	3	地域社会との間で、いくつかのテーマ(精神障害者、施冤罪保育士等)で共同研究が行なわれつつある		
				14	競争的外部資金の獲得への取組みが行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	3	科研申請や、私学助成等の獲得に向けた取り組みが行なわれつつある		
		研究成果の社会への還元	(5)研究成果の地域社会への還元および発信	15	大学・短大の知的シーズが、地域の課題解決に活用されている(小中高等学校等の教育支援、社会人の研修や生涯教育への支援、自治体審議会等への委員派遣、など)。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	3	認知症カフェなど、いくつかの取組みが行政と協働して行なわれてきている		
				16	各種学会の役員や学術大会の座長、学術雑誌の査読や編集員など、知的シーズをもとにした、学会活動・社会的活動が行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	2	教員の個々の取組みが十分に公表・評価されているとはいえない		
				17	公開講座等が、定期的を実施されている(研究成果の発表を含む)。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	2	認知症カフェなどで公開講座が行なわれたが、定期的とまでは言えない		
				18	マスコミなどを通じて、研究成果が地域社会に発信されている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3	2	教員の研究活動の外部公表が、十分に行われていない。		

*年度別目標値については3を基準とするが、学部学科の現状に応じて設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるので、その場合はそれを基準値とすることになる。また、具体的な数値(件数、人数、%など)で目標の設定ができる場合には、それを表示する。

平成26年度・事業実施評価表(社会貢献領域) 学部学科とセンター分担記載書式 【前期PDCA記入 2014.11.11報告】2014.11.06版

区分	目的	項目	達成目標	No	学部 学科	全 学	行動目標 凡例:色背景項目は08.20追加	平成25(2013)年度の評価と評価値		平成26(2014)年度の評価と評価値		平成26(2014)年度の評価と評価値【前期】	
								前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価
社会 貢献	「愛と奉仕」の具現化であるボランティア活動を学内外で組織的に推進するとともに社会活動・地域貢献の活性化を図る。また地元自治体(岡山市)とCOCの協定が結ばれた第26年度COCに応募する。	活動の継続発展	(1)公開講座を実施する。	1	部・科	全	公開講座の企画を本学の特性を活かしたものにし、全学協力実施する。	本学の特性を活かした。	4	工夫を続ける。	4	4	P:市との連携内容を策定 D:リーフレットを作成配布
				2		全	公開講座を地域社会・行政と連携して実施(ボランティア支援・社会サービスセンター中心)	連携を計ったが不十分	2	工夫・努力を続ける。	4	4	PD:岡山市と連携した。
				3		全	公開講座の参加者数を一定数確保する。(ボ支援・社センターを中心に)	社会人参加者が少なかった。	2	工夫・努力を続ける。	3	継続	PD:募集の努力を続けている。
			生涯学習への対応	1	部・科		聴講生制度に基づく社会人学生の受入をおこなう。	受入人数が減少気味。	2	努力を続ける。	3	2	DC:受入人数が減少気味
				2	部・科		高齢者の学び直しを支援する。	受入時の趣旨徹底が不十分	3	募集説明を改善する。	4	3	P:公開講座・公開講演会の場でPRLしている。
			大学等施設の開放	1		全	大学等施設の計画的開放をおこなう。(総務課、ボ支援・社センター、学内各施設)	図書館を一般公開している。	4	継続して実施する。	4	3	PD:努力を続けている。
			(2)学部持ち回りの市民公開講演会を実施する。(担当学部・学科)	1	部・科		公開講演会の企画を学部・短大の特性を活かしたものにし協力実施						3 P:幼教学科が特性を活かした講師を選んだ。 D:幼教学科に合った講演会が開催された。
				2	部・科		学部・短大:公開講演会を、地域社会・行政と連携して実施する。					4	PDC:学科が地域の企業と連携し講演会を実施した。
				3	部・科		学部・短大:公開講演会の参加者数を一定数確保する。					3	PDC:参加者を一定数確保した。(会場内78名)
			(3){Sanyo子育て愛ねつと}事業を推進する。(看護・短大)	1	部・科		事業の企画を学部・短大の特性を活かしたものにし協力実施する。					4	PD:3学科の特性を活かし協力実施している。
				2	部・科		事業を、地域社会・行政と連携して実施する。					3	PD:事業を地域社会・行政と連携実施している。
				3	部・科		事業の参加者数を一定数確保する。					3	PD:参加者を一定数確保した。
				4	部・科	全	地域における教育支援又は子育て支援の実施(上記1~4も該当する)					3	PD:幼教学科と附属幼稚園が連携して子育て支援を続けている。
			大学コンソーシアムの活用	1	部・科	全	コンソーシアムを本学の教育内容・教育方法の充実に活用する。	VOD講義は履修されている。	3	TV会議システムを活用授業	4	4	PD:DVD授業は履修が継続されている。TV会議システム双方向 オムニバス授業を4大学で共同実施している。
				2	部・科	全	コンソーシアムを本学の学生の社会貢献・ボランティア活性化に活用する。	子ども大学、エコナイト参加	3	東北ボランティア参加	4	4	PD:子ども大学、エコナイトは大学・短大共に参加し、学生の成長に役立っている。
				3	部・科	全	コンソーシアムを本学の学生の就職活動に活用する。	インターンシップに活用	3	継続工夫して実施する。	4	3	PDC:インターンシップは本学の学生に役立っている。
	講師・委員の派遣	(6)地域の教育機関等へ講師を派遣する。		1		全	教育機関への講師派遣結果を実態把握を大学がおこなう。(教職員の理解を)	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明し大学への報告を訴えた。
				2		全	教育機関への講師派遣の重要性を啓発する。(FDで)	FDで啓発活動実施	3	継続して実施する。	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明した。
				3	部・科	全	教育機関からの派遣を開拓する。(入試広報部出張授業PR等)	入試広報部出張授業PR実施	3	継続して実施する。	3	1	PD:高校訪問時に出張事業リストを渡した。
				4	部・科	全	教育機関への講師派遣の件数を増やす。	同上	3	同上	3	2	PD:機会を捉えて依頼していただくようお願いしている。
		(7)行政機関へ委員を派遣する。		1		全	行政機関から受けた委員派遣結果の実態把握を大学として実施(教職員の理解を)	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明し大学への報告を訴えた。
				2		全	行政機関への委員派遣依頼を断らないよう学内啓発する。(FDで)	FDで啓発活動実施	3	啓発活動の継続	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明し、報告を訴えた。
				3	部・科	全	全学:行政機関との接触(コンタクト)を経常的に取る重要性を学内啓発(FDで)	FDで啓発活動実施	3	啓発活動の継続	4	3	PD:学内SDFD研修会で重要性を説明した。
				4	部・科	全	全学:行政機関への委員派遣の件数を増やす	努力した。	3	努力を続ける。	3	1	PD:機会を捉えて依頼していただくようお願いしている。
		ボランティア支援	(8)学内外のボランティア活動の実態を把握し、その連携と支援方を検討する。	1		全	ボランティア活動の実態把握を大学としておこなう。(教職員・学生の理解を)	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4	3	PD:学内SDFD研修会・知的生き方で報告を依頼
				2	部・科	全	ボランティア活動の意義、大学への報告の必要性を教職員学生に啓発	FD・SD、授業で実施	3	継続して実施する。	3	3	PD:学内SDFD研修会・知的生き方で重要性を説明した。
				3	部・科	全	ボランティア活動の支援をする。(FD・SD、授業で)	県の事業への参加を支援	3		4	3	PD:東北震災復興に派遣支援した。
		(11)本学学生による学内外の自主防犯組織「さんぽと隊」等を支援する。		1	部・科	全	学生の「さんぽと隊」を支援する。	支援した。	3	隊員の増強を促進	4	3	PD:学生部を中心に、「さんぽと隊」を支援している。
				2	部・科	全	学生サークル(部・同好会)のボランティア活動を支援する。	支援した。	3	要請の学内情報共有化	4	3	PD:地域防災にサークルを派遣支援した。
				3	部・科	全	学生(個人有志単位)・教職員のボランティア活動支援をする。(授業で、個別で)	「知的生き方」で啓発した。	3	継続して実施する。	4	3	PD:学内SDFD研修会・知的生き方で重要性を説明した。
	教育・研究	地域課題解決を目的とした研究(共同研究)の実施		1	部・科	全	地域を対象とした学生主体の授業の必修化	選択科目では実施している。	2	必修科目への相込を努力	3	懸案	P:今後学内(学部学科・教務)で協議が必要。【協議必要】
				2	部・科	全	地域課題解決を目的とした共同研究を実施する。(研究支援・共同研究推進機構と連携)	単独研究はあるかもしれない。	2	共同研究化へ努力する。	3	懸案	P:今後学内(学部学科)で協議が必要。【協議必要】
		地域、行政機関との連携	(9)平井地区から市、県、全国へと社会活動・地域貢献の輪を広げるための戦略を立て、実践する。	1	部・科	全	「平井地区から全国へ」の戦略を立てる。(岡山市と保健福祉・危機管理面の提携等)	COCを提出する状態に伸展	4	継続して実施する。	4	懸案	P:今後学内(学部学科)で協議が必要。【協議必要】
				2	部・科	全	「平井地区から全国へ」の戦略を実施に移す。	市と連携(ESD)、COC調整	4	市と認知症・救命で公開講座	4	懸案	P:今後学内(学部学科)で協議が必要。【協議必要】
		(5)地域との協働連携事業を推進する。		1		全	地域との協働連携事業(全学、学科、研究室、チーム)の実態把握を大学として実施。	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4	継続	P:年度末に実態把握を行う予定。
				2	部・科	全	地域との協働連携事業を推進する。	学部学科単位では実施	2	保健福祉・危機管理面で活動	3	継続	PD:岡山市とのCOCは不採択。その後の連携を高齢者福祉・救命について公開講座で関係継続。
		(10)地域(平井学区、市、県)の防災訓練について協働すると共にその人材育成に当たる。		1		全	防災訓練について地域(平井学区、市、県)と協働する。(平素の準備も含めて)	中央署・消防・学区の訓練に参画	4	町内会訓練に参画	4	3	【後期分の記載】PD:平井学区栄町防災訓練に参画し新たな試みを実施。ペビウスが実施。
				2	部・科	全	防災訓練について人材育成に当たる。(学生サークル支援、FDSD、知的生き方等)	学生サークルが防災訓練参加	3	継続して促進する。	4	3	【後期分の記載】PD:ペビウス等の支援をおこなった。継続して学生ボランティア団体の支援を続ける。
		(12)多目的交流プラザを開設し、COC推進プロジェクト部門と、共生・グローバル化推進プロジェクト部門を置く。		1		全	多目的交流プラザを開設し、運営する。	立案段階だった。	2	年度内に実施を。	4	懸案	P:学内で継続協議が必要。【協議必要】
				2		全	多目的交流プラザにCOC・共生・グローバル化推進プロジェクト部門を置く。	COC推進はおこなった。	3	年度内に実施を。	4	懸案	P:学内で継続協議が必要。【協議必要】
				3		全	全学的な地域連携のためのセンターの設置(上記の「共生」に該当する)	立案段階だった。	2	年度内に実施を。	4	懸案	P:学内で継続協議が必要。【協議必要】
		地域の課題解決に向けた継続的な協議		1		全	大学等所在地の都道府県又は市区町村等との包括連携協定の締結	市とCOCの協議はおこなった。	4	協定の締結を市と協議	4	懸案	P:学内と行政との継続協議が必要。【協議必要】
				2		全	地域の課題解決に向けた継続的な協議をおこなう。(岡山県・岡山市等と)	市とCOCの協議はおこなった。	2		4	懸案	P:学内と行政との継続協議が必要。【協議必要】

*年度別目標値については3を基準とするが、学部学科の現状に応じて設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうる。その場合はそれを基準値とすることになる。また、具体的な数値(件数、人数、%など)で目標の設定ができる場合には、それを表示する。

*全学共通の項目は、「全」の項目とする。各学科独自の項目は「部・科」の項目とする。

平成26年度・事業実施評価表(教育領域);教務部 中間報告2014.11.11

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価			来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価			
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成	教育目標と方策	(1)教養教育の充実化	1	山陽スタンダード 単位取得率(大学)	現状を維持する	91%	取得率を向上させる	100%	-	履修中のため値は未確定、現状を向上させる			
				2	知的生き方概論 単位取得率(短大)	現状を維持する	97%	現状を維持する	100%	98%	現状を向上させる			
			(2)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化	3	シラバスを充実する。(記載内容の充実)	総合人間学部の新カリキュラムへの対応	4	看護学部の新カリキュラムへの対応、全学的に準備学習の指示内容等の記載を充実する必要がある	4	2	来年度に向けて、シラバス作成要領を改訂中			
				4	シラバスを充実する。(第3者のチェック体制)	-	-	第3者によるチェック体制導入が未実施	4	1	来年度から、学部長・学科長によるチェック体制を導入する予定			
				5	シラバスを充実する。(履修系統図の作成)	-	-	履修系統図の作成が未実施	4	1	来年度のシラバスから掲載する予定			
				6	成績評価を厳格化(大学)	現状を維持する	4	成績評価の厳格化は十分に行われているが、GPAの活用については不十分	4	2	来年度から、GPAを進級判定・卒業判定・退学勧告に活用していく			
				7	成績評価を厳格化(短大)	現状を維持する	4	5段階評価およびGPAの導入が未実施	5	1	来年度の入学生から、GPA導入を計画中			
				(3)学習支援の強化	8	オフィスアワーの充実	学生への浸透が不十分	2	学生への周知方法の変更が必要であることと、非常勤講師への拡大が未実施	4	2	来年度に向けて変更予定、なお非常勤講師については来年度向けのシラバス作成要領に関連事項を新規に記載		
			9		学習成果到達度システムの実施	経年的に実施されており、現状を維持する	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する			
			(4)高大連携の強化	10	合同授業の実施	H24年度までは後楽館高校からの授業参加を受け入れていたが、H25年度からは高校側の都合により休	1	休止中	4	1	来年度から、山陽女子高校などに、合同授業への参加を呼び掛ける取り組みを新たに開始			
				11	高校生への課題の提示	入学前の課題の提示が適切に実施されている	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する			
				12	入学後の初年次教育(レポート作成、プレゼンの仕方など)の実施	総合人間学部では正規の授業で実施されている	2	看護学部では正規の授業として未実施	4	1	来年度から、看護学部の正規授業内での実施を検討			
	地域における高等教育の拠点としての、社会貢献の強化		(1)地域の発展を支える大学づくりの教学面での強化	13	アクティブラーニングによる授業の実施	学部・学科等の単位での実施は散見される	3	連携協定を締結した上での実施ではない	4	1	学部単位で関わりをもっているNPO法人との連携協定を検討			
				14	地域を対象とした学生主体の授業の必修化	経年的に実施されており、現状を維持する	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する			
				15	教育課程編成の際の自治体・地元産業界等からの意見聴取	-	-	自治体・地元産業界等からの意見聴取は未実施	4	1	来年度に、商工会議所等からの意見聴取を実施する方向で調整する(一部の学部での実施を検討)			
				16	社会人が就労しながら学修できる多様な履修形態の整備	大学院で長期履修制度を導入済み	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する			
				17	科目等履修生制度に基づく社会人学生の受入	現状を維持する	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する			
				18	雇用保険法に基づく教育訓練給付制度の対象講座の開設	-	-	当該制度による対象講座の指定は受けていない	4	1	来年度から大学院修士課程に対して、教育訓練給付制度の指定を受ける方向で準備(11月7日付で申請書を国(厚生労働大臣宛て)に提出済み)			

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。
(参考 5:とても良い、4:良い、3:ふつう、2:やや不足、1:不足)

平成26年度・事業実施評価表(大学運営)学生部

中間報告2014.12.25

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		現時点で考える 来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
大学	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	学生支援	学生生活支援の強化	1	学生食堂の充実	食堂利用者の低迷あり。改善が必要	3	料金改定と新メニューの導入	4	4	料金の低額化とバイキング方式の導入	利用時間の延長 朝食抜きの学生への対応	キョードーフーズに依頼 朝パンの販売や100円朝食等
				2	学生寮の充実	防犯システムの設置	4	現状を維持する	4	4	現状維持		
				3	外国人留学生生活支援	十分とはいえない	3	内容の充実	4	3	従前のとおり		
			課外活動支援の強化	4	学友会、部長会等の活性化支援	組織的取組が必要	4	内容の充実	4	4	従前のとおり	メンバー増が必要	
				5	クラブ活動	組織的取組が必要	4	内容の充実	4	4	地域と連携した活動 新団体の発足増		
				6	学生による自主活動	組織的取組が必要	3	COCへの取り組み	4	4	「学さぽ」と「さんぽと隊」の活動増		
				7	支援ボランティア活動(東日本大震災、広島市大雨災害)	組織的取組が必要	3	ボランティア支援・社会サービスセンターの協力を得て、広報を強化	4	3	交通費等の一部を補助	さらに広報の強化が必要	
			健康管理と防犯・防災	8	身体の相談窓口の具体化	身体の不調から不応となる学生が 少ない	3	健康安全推進機構での取組により 「身体の相談」窓口の具体化	4	4	健康相談室の立ち上げ	利用しやすい環境の整備、 保健室との連動	
				9	メンタルヘルスの推進に努める	組織的取組が必要	3	健康安全推進機構での取組を進める	4	4	学生相談室と健康安全推進 機構による取組強化	利用しやすい環境の整備、 保健室との連動	
				10	学内禁煙推進の強化を図る	組織的取組が必要	2	全職員参加での取組を進める	3	4	教職員全員での取組を実施	吸殻ゼロを目指す	
				11	安全安心・危機管理(防犯・防災)の推進に努める	組織的取組が必要	2	健康安全推進機構での取組を進める	3	4	災害避難マニュアルの作成と 一斉メールシステムの導入	一斉メール登録者100%を 目指す	
				12	事故防止を推進する	訓練や学内での講習が不足	3	学内講習等の取組を進める	3	4	4月オリエンテーションにて防犯講習 会の開催と「新入生へのメッセ ージ」本を全学生に配布	講習内容の精査	

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(入試広報部)

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		来年度の課題	備考	
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価			
大学運営	入試・広報戦略の強化を図る。	広報・募集活動	学生募集の見直しと入試広報戦略の強化。	1	大学案内を改訂する。	入札による業者選定を実施しデザインを一新した。都会的でシャープなイメージを表現することができた。	4	着手を早め、改訂が不十分であった箇所の見直しを行う。	5	5	従来よりも早く着手できている。			
				2	ホームページを更新する。	タイムリーに更新ができていない。	2	全学的な更新体制を構築する必要がある。	3	2	情報の集約ができていない。			
				3	大学案内のダイジェスト版を作成し、各学科の内容及びサポート体制を端的に伝えられるようにする。	再開施策。	-	高校訪問、進学説明会における説明の標準化を行う。	4	5	次年度も継続して活用する。			
				4	スマートフォン専用サイトを新設する。	新規施策。	-	認知度を上げる。	4	2	サイトへの誘導策を検討中。			
				5	TVCMを作成し、本学の認知度向上及びオープンキャンパスへの参加や入試への動機喚起を図る。	新規施策。	-	幅広い世代へPRする。	5	5	OC参加者数：対前年107%			
				6	山陽新聞社企画「岡山の大学へ行こう」へ参加し、本学の特徴を幅広い世代に伝える。	新規施策。	-	幅広い世代へPRする。	5	5				
				7	新聞広報(オープンキャンパス、入試日程等)を積極的に活用する。	高校生に向けたPRが中心であり、幅広い世代に向けたPRという点では不十分であった。	3	地元誌への掲載頻度を上げる。	4	4				
		高校訪問		8	高校訪問における訪問方法を変更する。	特定の高校に偏重、ルーティン化した訪問となっている感があり、高校現場の思いを反映した訪問方法を検討する必要がある。	3	訪問の偏重を解消する。	4	4				
				9	高校訪問専用要員(現地駐在員等)の活用。	新規施策。	-	高校訪問専用要員の雇用を検討する。	3	3	専用要員ということで新規に雇用はしていないが、本学教員の中で、県外在住者や元高等学校長の経歴保持者に主要校を訪問していただいた。			
		進学相談会		10	進学相談会への参加について見直しを行う。	主催業者、主催場所(特に県外)、過去の懇談者実績、参加費を検証し参加の是非を判断する必要がある。	4	会場形式の進学相談会(特に県外)を減らし、高校内形式の進学相談会に積極的に参加する。	4	4	過去の実績を基にして参加を決定できている。			
		見学対応オープンキャンパス		11	大学・短期大学の見学希望者に対し、本学の魅力を伝える。	高校単位の申し込みは毎年同じ高校。新規の開拓が必要。	3	高校単位の見学申し込み数を増やす。	4	2	1校(岡山外語学院)増えた。			
				12	オープンキャンパスを企画し、円滑に管理、運営する。	総合人間学部の参加者が少ない。	3	総合人間学部の参加者を増やす。	4	4	対前年：141%			
				13	学生参加型のオープンキャンパスを実施する。	総合司会、プレゼン、キャンパスツアー等、学生の活躍が多く見られた。	4	全学科の在学生活躍レベルを上げる。	5	5	全学科の活躍レベルが向上した。			
		入試		推薦入学者の学力把握。	14	一般推薦Ⅰ期における幼児教育学科の選考方法を「基礎学力検査」に変更。	新規施策。	-	学力選考とし、受験者の質の向上を図る。	4	4	事前準備型の「自分アピール書」では測れなかった学力を測ることができた。		
				一般推薦Ⅱ期志願者数の増加。	15	一般推薦Ⅱ期の入試日程を12月初旬に変更。	新規施策。	-	入学願書の受付期間を延長し、志願者数の増加を狙う。	3				
				入学者の確保。	16	追加募集のしくみ構築。	告知が不十分。	2	告知方法を検討する。	3	2	検討中。		
					17	繰り上げ合格制度を導入し、適正な入学者数の確保を図る。	入学金手続き期限毎に未納者数分の繰上合格を実施し、合格者数をコントロールできた。	5	現状維持。	5		1/24一般試験Ⅰ期から開始		
					18	社会人入試(総合人間学部、短期大学)に特典を設定し、入学者増を図る。	告知が不十分。	2	告知方法を検討する。	3	2	検討中。		
				教職員への周知、公正な判断、適切な業務管理。	19	本学入試業務をミスなく円滑に遂行する。	大きな問題なく遂行できた。	5	現状維持。	5	5	特別推薦、一般推薦Ⅰ期終了。		
					20	AO入試における登録に至るまでの学科との連携、面談(大学は相談)者との連絡を円滑に遂行する。	大きな問題なく遂行できた。	4	定量的な評価の導入と評価方法の表記を改善する。	5	4	定量的な評価を導入した。		
					21	センター試験関連協議会(4回/年)への参加。	目的意識を持って参加できた。	5	現状維持。	5	5	全てに参加した。		
					22	「センター試験監督者・室外連絡員打ち合わせ会」を開催し、業務内容、変更、注意点の理解を深める。	長時間になってしまった。	3	企画段階において要点を絞り込む。	4		12月実施。		
					23	センター試験の準備と試験当日の管理・運営をミスなく円滑に遂行する。	全教職員の協力を得て円滑に遂行できた。	5	現状維持。	5		1/17・18		
		学部等連携		学科別施策の企画、対策実施。	24	総合人間学部と連携し、入学者を増やす。	効果的な対策が打てていない。	2	OC参加者の満足度向上、IELP、ホテル・エアライン、ビジネス能力開発PRGの広報に注力する。	3	3	実際に授業見学ができる場が必要。		
					25	食物栄養学科と連携し、入学者を増やす。	効果的な対策が打てていない。	2	OC参加者を増やし、満足度を上げる。	3	5	OCの満足度が向上した。		
				26	女子高と連携(保護者会、進学説明会、みさお祭、OS)し、入学に繋げる。	通常の域を脱していない。	3	女子高教員と情報交換する頻度を上げる。	4	3	検討中。			
		アンケート集計・分析		現状把握、課題抽出、対策実施。	27	アンケート(OC、入学者)を集計し、分析する。	対策の落とし込みが不十分。	3	学科毎に集計結果について打ち合わせを行い、取り組みについて検討する。	4	3	行動計画は検討中。		
					28	資料請求者について分析する。	業者選定の指標にはなっているが、学科別の対策の指標にはなっていない。	3	希望学部学科が多岐に別れるため特定の学科についての分析が困難。	3	3	通常の域を脱していない。		
		新規発想・取り組み		情報収集、企画、作業遂行。	29	業者主催のセミナー等へ参加する。	不十分である。	1	参加頻度を増やす。	3	2	不足している。		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(キャリアセンター)

区分	目的	対象学科	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		来年度の課題	備考
							前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	看護	キャリアサポートと就職支援	(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未定	従前どおりである		就職率
					35	保護者懇談会・病院説明会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
		生活心理	キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未定	従前どおりである		就職率
					35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
					36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
					37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	従前どおりである		
		言語文化	キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%	未定	従前どおりである		就職率
					35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
					36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
					37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	3	従前どおりである		
		食物栄養	キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化		就職率100%を目指す。					未定	従前どおりである		
					35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
					36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	3	従前どおりである		
						キャリアセンターが充実しており、学科と連絡・機能している。					4	従前どおりである		
		幼児教育	キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	33	就職率(100%)の維持を図る	目標値は達成している	5	現状をさらに上昇させる	5	未定	従前どおりである		就職率
					34	保護者懇談会・就職懇談会等を開催する。	開催されていて、効果を上げている	5	さらに内容を充実させる	5	5	従前どおりである		
					35	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが、学生が消極的だった	3	さらに学生を指導する	4	3	従前どおりである		
					⑨	学科に直接来る就職情報を活用する。	ある程度は活用されている	3	現状をさらによくなる	4	3	従前どおりである		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(図書館)

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育 (学 習 支 援)	学生の主体的な 学習活動を支援 するために必要 な学術情報およ び学習環境を整 備し、学術情報 リテラシー教育 を充実させる。	資料の充 実	学生が満足する蔵書 構成ができている	1	カリキュラムと直結した資料を整備する	不足している領域がある	4	必要な資料を整備する	5	4	一部の領域で不十分である		
				2	学生の希望資料を購入する	蔵書としてふさわしくないもの以外は、全て購 入	5	更に学生からの希望を集める	5	4	学生の希望が少なかった		
				3	シラバス掲載資料を購入する	全て購入している	5	現状を維持する	5	5	全て購入し、別置している		
				4	データベース等の電子コンテンツを整備する	予算との関係があり、十分とは言えない	3	必要度に応じ、購入・中止を行う	4	4	予算内でやりくりをしている		
				5	貸出冊数、入館者等が増加している	どちらも増加している	5	より一層利用されるよう、利用を促す	5	－			
		リテラシー 教育の充 実	利用教育が充実して いる	6	オリエンテーションを行っている	実施している	3	内容を深める	4	3	例年通りである		
				7	文献ガイダンスを行っている	実施しているが、未参加のゼミもある	3	内容を深める	4	3	例年通りである		
				8	文献複写・相互貸借等の利用促進を図る	複写の件数は増加しているが、完全には使い こなせていない	3	きめ細かい指導を図る	4	3	例年通りである		
		利用促進	学生の興味を引く企 画を立てている	9	ブックハンティング等を計画し、学生選書を行う	実施しているが、参加者が減少気味である	3	参加を促す	4	4	声掛けを頻繁に行い、参加増となった		
				10	テーマに沿った展示を行い、学生の興味を呼び起こす	回数が少なく、不十分である	3	より細かく実施する	4	4	回数を増やし、興味を引く展示を行った		
				11	読書感想文コンテスト等を実施し、学生の読書推進を図る	実施しているが、参加者が減少気味である	3	参加を促す	4	4	授業での協力を得て参加者が増えた		
		環境整備	学生が満足できる環 境である	12	学生が利用しやすいよう、開館時間の延長、土曜日開館の実施を行う	実施している	4	現状を維持する	4	4	例年通りである		
				13	共同学習のためのスペース（ラーニング・コモンズ）を設置する	未設置	1	検討したい	1	2	検討中		
				14	第二書庫を学生が自由にはいれるスペースにするため、修理を行う	未修理	1	修理を行う	1	1	未実施		
				15	ブックディテクションシステム等の導入により、学生が入りやすい環境を作る	未設置	1	検討したい	1	1	未検討		
				16	空調設備の完備や飲食可能スペース等を整備し、滞在しやすい空間を生み出す	未設置、空調は一部未設置	2	検討したい	2	2	昨年通りである		
研究 (研 究 支 援)	必要な学術情報を収集、整理、 保存するとともに、教員の研究 活動を支援する	資料の充 実	必要な学術情報が 収集できている	17	データベース等の電子コンテンツを整備する	予算との関係があり、十分とは言えない	3	必要な資料を整備する	3	3	例年通りである		
				18	リンク集等の維持管理を行う	不十分である	2	こまめな対応をする	3	4	更新を行っている		
				19	データベース講習会を開催する	未実施	1	実施する	2	1	時間が取れなかった		
				20	文献複写・相互貸借により本学に無い資料を入手する	実施している	5	現状を維持する	5	5	希望のものは入手した		
		研究活動 の発信	研究成果の発信	21	CiNiiに研究成果を登録する	実施している	5	現状を維持する	5	5	例年通りである		
				22	図書館HPから研究成果へのリンクを管理する	実施している	5	現状を維持する	5	5	例年通りである		
				23	機関リポジトリを立ち上げる	未設置	1	検討したい	1	1	未実施		
社会 活動 (地 域 貢 献)	開かれた大学図 書館として、地 域住民の生涯学 習を支援する	地域住民 の受け入 れ	学外者の学習を支援 する	24	HP等で学外利用者の利用について紹介する	実施してて	4	現状を維持する	4	4	例年通りである		
				25	学外者に資料の貸出を行う	条件付きで行っている	3	条件付きで行う	3	3	例年通りである		
				26	岡山県横断検索に参加し、一般市民が利用しやすい環境を作る	予定は無い	1	検討したい	1	1	未検討		
		情報の発 信	情報を発信する	27	ホームページを整備・充実させる	不十分である	3	内容を充実させる	4	4	進行中である		
				28	本学関係資料を整理し、公表する	不十分である	2	検討したい	3	2	例年通りである		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(大学運営)

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
大学 運営	大学・短期大学 運営のガバナンス向上とPDCA サイクルの定着を図る	学長室	学長室の設置により迅速かつ有機的なガバナンスの確立	1	事務局ラインと教学ラインの統括を進める	合同会議での連絡調整を図っている	4	更に推進する	5	4	更に推進している		
				2	委員会情報の収集・的確な把握に努める	全教職員への浸透が不十分	2	全教職員の意識形成に努める	3	2	新体制への移行を検討中		
				3	各種企画・計画・プロジェクトの推進・統括を図る	合同会議での連絡調整を図っている	4	更に推進する	5	4	更に推進している		
				4	各学部・学科のPDCAサイクルの確立を図る	取り組みを進めている	2	更に推進する	3	2	更に推進している		
				5	事務局各部門のPDCAサイクルの確立を図る	取り組みを進めている	2	更に推進する	3	2	更に推進している		
			学長室と各部門との連携	6	学長室と各部門との連携推進を強化する	合同会議での連絡調整を図っている	3	組織形成に努める	4	3	組織形成に努めている		
				7	競争的外部資金獲得を進める	不十分である	1	更に推進する	2	1	更に推進している		
		情報発信	プロジェクトによる情報発信の強化	8	企画・広報プロジェクトの設置を図る	組織的取り組みにかけている	2	組織形成に努める	3	2	組織形成に努めている		
				9	大学・短大の特色・実績・知名度向上等の情報発信を強化する	必要な情報発信に努めている	3	HPを通じ必要な情報を積極的に発信	4	3	大学ポータルサイトを準備中		
		適切な業務管理	公正な判断のもとに適切な業務管理を行う	10	施設整備・補充等の適正な推進に努める	計画策定が不十分	2	計画策定を進める	3	2	計画策定を進める		
				11	省エネ対策を推進し経費の節減に努める	学内全体への周知は不足している	2	目標値を検討する	3	2	目標値を検討する		
				12	教職員のスケジュール管理を推進する	不十分である	2	システム整備に努める	3	2	システム整備に努める		
				13	各種議事録の作成に努める	全教職員への浸透が不十分	2	全教職員への浸透を図る	3	2	全教職員への浸透を図る		
				14	HPを通じ必要な情報発信に努める	更新回数増の検討が必要	3	更新回数の増加について検討する	4	3	大学ポータルサイトを準備中		
				15	事務職員の人材育成計画の作成を進める	いまだ計画策定に至っていない	2	計画策定を急ぐ	3	2	計画策定を急ぐ		
				16	事務職員のマナー向上に努める	具体的な取り組みが不足している	2	マナー向上の取り組みを進める	3	2	マナー向上の取り組みを進める		
		教職員の 資質向上	教職員の資質向上に努めるとともに、適正な業務執行体制を確立する	17	FD/SDを充実し教職員の資質向上に努める	FD/SDの実施に努めた	3	FD/SDのテーマを検討し資質向上に努める	4	3	FD/SDのテーマを検討し資質向上に努める		
				18	各種職員研修会への参加とFD/SD・全教職員合同会議への報告を促進する	研修会等への参加を進め発表の場を設けている	3	更に推進する	4	3	更に推進する		
				19	FD/SD・全教職員合同会議の定期的開催し、教職員の力量形成・能力の向上を図る	毎月定例開催を進めている	3	定期的開催を継続する	4	4	定期的開催を継続している		
				20	適切な機器の整備、情報システムの安全管理に努める	全教職員の協力のもとでの推進が必要	3	全教職員の協力を得て更に推進する	4	3	全教職員の協力を得て更に推進する		
				21	人事委員会規程を基に全学的・一元的な人事システムの構築を進める	整備中である	2	システムの構築をすすめる	3	2	システムの構築をすすめる		
		健康管理	心身ともに健康な教職員	22	健康管理・健康増進・防犯・防災・安全確保の推進	組織的取組が必要	3	健康安全推進機構での取組みを進める	4	3	健康安全推進機構での取組みを進める		
				23	事故防止を推進する	訓練や学内での講習が不足	2	学内講習等の取組みを進める	3	2	学内講習等の取組みを進める		
				24	学内禁煙推進の強化を図る	組織的取組が必要	2	全職員参加での取組みを進める	3	3	全職員参加での取組みを進めている		
				25	メンタルヘルスの推進に努める	組織的取組が必要	2	健康安全推進機構での取組みを進める	3	2	健康安全推進機構での取組みを進める		
				26	安全安心・危機管理の推進に努める	組織的取組が必要	2	健康安全推進機構での取組みを進める	3	2	健康安全推進機構での取組みを進める		
				27	教職員個々に自身の長所短所の認識を促し飛躍の契機とする	全教員への浸透が不十分	2	全教員へ認識をうながす	3	2	全教員へ認識をうながす		
		自己評価	適切な自己評価の実施	28	個人評価の有効活用と組織全体の能力向上に役立てる	有効活用が図られていない	2	有効活用が図られるよう努める	3	2	PDCA活動等への活用に向けて調整中		
				29	公正な評価を行い人事等への適正な反映を図るよう検討をする	人事等への反映が進められていない	2	人事等への反映の検討を進める	3	2	人事等への反映の検討を進める		
				30	よりよい評価方法を常に検討する	常に検討が加えられている	3	見直しを継続する	4	3	見直しを継続する		
				31	総合人間、短大食物栄養の学生充足率向上策の検討を進める	不十分である	1	具体的な検討を進める	2	1	具体的な検討を進める		
		将来構想	大学・短期大学将来構想の策定	32	大学・短大将来構想についてプロジェクトでの検討を進める	具体的な検討が不足している	3	プロジェクトでの検討を進める	3	3	プロジェクトでの検討を進める		
				33	ワーキンググループを立ち上げ、具体的作業を進める	具体的な作業が不足している	2	具体的作業を進める	3	2	具体的作業を進める		

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

第4回(FD・SD等)全教職員合同会議

日時：平成26年8月27日(水) 14:50～

場所：E107号室

発表部門

平成26年度 事業実施評価

1. 教育領域(小野短大教務部長)・・・資料1
2. 研究領域(村田研究支援・共同研究推進機構機構長)・・・資料2
3. 社会貢献領域(澁谷ボランティア支援・社会サービスセンター長)・・・資料3
4. 大学運営(樋本事務局長)・・・資料4

平成26年度・事業実施評価表(教育領域);生活心理学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		今年度の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	5	現状を維持する	5				
				①	AO入試で適切な学力査を行い、入学者を確保する。	AOによる入学者が不足している	〇〇%	AOを高校訪問で丁寧に説明する	10%				AOの入学者率
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4				
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	3	「人間学」で具体的に抗題する	4				
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	平井ラーニングなどを実施している	4	現状を維持する	4				
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	3	学園祭などの参加を誘う	4				
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5				
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	7	シラバスを充実する。	履修者情報が不足している	3	履修者の成績分布表記など工夫する	4				
				8	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者間で検討する	4				
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5				
				10	課題探究型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5				
				11	体験交流重視教育を強化する。	不足している	〇〇回	回数を増やす	2回/年				交流教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	全教員に浸透していない	〇〇回	学科全体で取り組む	2回/年				社会活動等の回数/年間
				②	資格特待生制度・英語堪能入学者増計画を導入する。	告知・宣伝が不十分	〇〇%	大学案内を活用し宣伝に努める	5%				特待生等の入学者に占める割合
				③	家庭科教育教職課程教育を実施し、履修者を増やす。	初年度で指導が不十分	1名	家庭科教職の魅力伝える	3名				家庭科教職履修者数
				④	生活科学・心理学の2コース制を実施する。	2年度目で浸透し始めた	3	コース制の意味を1年生に説明する	4				
			(4)学習支援の強化。	13	センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3				
				14	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	2	さらに学生に説明し理解を深める	3				
				15	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	3				
				16	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	各部門の連携が不十分	2	部門間の連携を生かした支援を行う	3				
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	17	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活へ向けた講座への参加動機が不足	2	講座への参加を促す	3				
				18	社会人基礎力の強化を図る。	教科以外の機会が不足	2	学外の講座などの情報を伝える	3				
				⑤	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る	全学生に浸透しきっていない	87回	さらに学生に説明し理解を深める	100回				システム利用者数
				⑥	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	〇〇名	さらに学生に説明し理解を深める	3名				プログラム参加者数
				⑦	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	〇〇名	さらに学生に説明し理解を深める	3名				プログラム参加者数
			(6)学生支援の強化	19	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機能化する。	学生支援機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4				
				20	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	健康安全推進機構の機能向上	2	機構の機能を高める	4				
				21	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	不十分な部分がある	2	問題箇所を特定し改善する	3				
				22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	2	留学についての情報を提供する	3				
				23	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	2.30%	授業内容の魅力高める	1.00%				中退者・除籍者率
				24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5				
			(7)学生募集と入試広報戦略	25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	2	コース制、教職課程等の理解を深め	4				
				26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	〇〇回	全教員が年2回は更新する	2回/年				教員紹介等の項の更新回数
				27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する。	HP更新回数が少ない	〇〇回	ホットニュースなどを随時更新をする	2回/月				HPのホットニュースの更新回数
				28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4				
				29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4				
				30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	4	現状をさらに強化する	5				
				31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	3	推薦入試の小論文などの再検討	4				
				32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない	58%	受験者を増やし定員充足率8割とす	80%				定員充足率
				33	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足	0%	教員の地域活動等でPRを行う	5%				社会人入学者率
				⑧	総入学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	連携が不足していた	2	入試広報部との連携を深める	4				
			(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	95%	現状をさらに上昇させる	100%				就職率
				35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4				
				36	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4				
				37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4				

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考: 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成26年度・事業実施評価表(研究領域);大学全体の平均として

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		今年度の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
研究	地域における良質で有意な人材の育成に努め、大学・短大に求められている社会的要請(地域への貢献等)に対応し、大学・短大の社会的存在意義を高めること。	研究体制の構築	(1)研究の意義の確認	1	研究活動が教育・社会活動・地域貢献の基盤となり、本学の社会的存在意義を高める重要な要素であることが、確認されている。	FD/SDなどを通じて十分に確認されているとまでは言えない。	2	研究への取り組みを促進する	3				
				2	教員の研究活動は、学科・専攻課程等の特性や方針に基づいている(又は、連動している)。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4				
			(2)研究体制の整備・活用	3	教員が、研究を行う教員室、研究室等が整備され、充実している。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4				
				4	研究に必要な資料(論文、文献)の取り寄せや閲覧が行なえる環境が整備され、活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4				
				5	教員が、研究、研修等(学会参加を含む)を行う機会が確保されている。	学科や領域によっては十分ではないところがある	2	研究活動に必要な時間の確保が出来る環境づくりを進めていく	3				
				6	教員が研究成果を発表する機会(学内研究紀要の発行等)が確保され、活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4				
		研究能力の向上と研究の活性化	(3)研究能力の向上	7	教員が、研究会や研修等に、定期的に(年1回以上)参加している。	学科や領域によっては十分ではないところがある	2	研究活動に必要な時間の確保が出来る環境づくりを進めていく	3				
				8	教員に、個人研究費が適切に支給され、適切に活用されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4				
				9	教員が、研究活動の成果(著書、論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他)を、年次毎に大学・短大に報告し、個人評価されている。	十分に行なわれている	4	現状を維持する	4				
			(4)研究活動の活性化	10	教員個々人の研究活動の状況が外部に公開され、定期的に更新されている(大学の知的シーズが外部に公表され、定期的に更新されている)。	十分に公開されているとは言えない	2	基準を決めて公開を促す	3				
				11	地域社会(行政を含む)から、委託研究等の研究へのニーズを受ける窓口や仕組みが備わっている。	十分とは言えない	2	地域社会とのつながりを構築していく	3				
				12	学内外で、分野横断型の共同研究等が行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3				
				13	地域社会との間で、委託研究や共同研究等の取組みが行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3				
				14	競争的外部資金の獲得への取組みが行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3				
		研究成果の社会への還元	(5)研究成果の地域社会への還元および発信	15	大学・短大の知的シーズが、地域の課題解決に活用されている(小中高等学校等の教育支援、社会人の研修や生涯教育への支援、自治体審議会等への委員派遣、など)。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3				
				16	各種学会の役員や学術大会の座長、学術雑誌の査読や編集員など、知的シーズをもとにした、学会活動・社会的活動が行なわれている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3				
				17	公開講座等が、定期的に実施されている(研究成果の発表を含む)。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3				
				18	マスコミなどを通じて、研究成果が地域社会に発信されている。	十分とは言えない	2	取組みを進めていく	3				

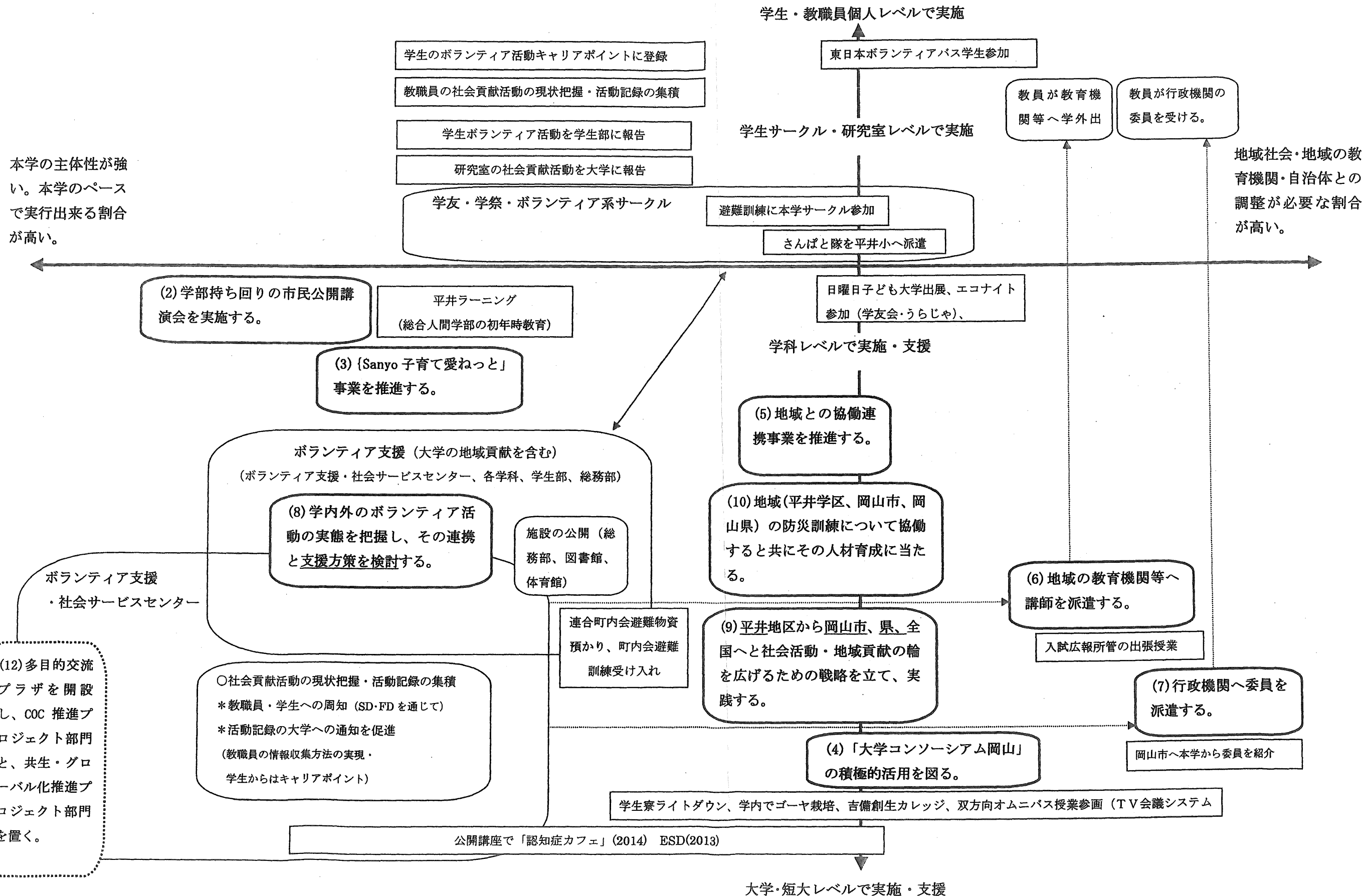
*年度別目標値については3を基準とするが、学部学科の現状に応じて設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるので、その場合はそれを基準値とすることになる。また、具体的な数値(件数、人数、%など)で目標の設定ができる場合には、それを表示する。

平成26年度・事業実施評価表(社会貢献領域) 学部・短大・学科記入は”部・科”記の網掛け太字部分 2014.08.26

区分	目的	項目	達成目標	No	学部 学科	全学	凡例:色背景 項目は08.20追 行動目標	平成25(2013)年度の評価と評価値		平成26(2014)年度の評価と評価値		平成26(2014)年度の 評価と評価値		平成 27(2015) 年度の 課題	備考
								前年度の評価	評価 値	今年度の課題	目標 値	達成 値	達成値に対する 評価		
社会貢献	「愛と奉仕」の具現化であるボランティア活動を学内外で組織的に推進する。とともに社会活動・地域貢献の活性化を図る。また地元自治体(岡山市)とCOCの協定が結ばれ次第、26年度のCOCに応募する。	活動の継続発展	(1)公開講座を実施する。	1	部・科	全	公開講座の企画を本学の特性を活かしたものにし、全学協力実施する。	本学の特性を活かした。	4	工夫を続ける。	4				
				2		全	公開講座を、地域社会・行政と連携して実施する。(ボランティア支援・社会サービスセンターを中心に)	連携を計ったが不十分	2	工夫・努力を続ける。	4				
				3		全	公開講座の参加者数を一定数確保する。(ポ支援・社センターを中心に)	社会人参加者が少なかった。	2	工夫・努力を続ける。	3				
			生涯学習への対応	1	部・科		聴講生制度に基づく社会人学生の受入をおこなう。	受入人数が減少気味。	2	努力を続ける。	3				
				2	部・科		高齢者の学び直しを支援する。	受入時の趣旨徹底が不十分	3	募集説明を改善する。	4				
			大学等施設の開放	1		全	大学等施設の計画的開放をおこなう。(総務課、ポ支援・社センター、学内各施設)	図書館を一般公開している。	4	継続して実施する。	4				
			(2)学部持ち回りの市民公開講演会を実施する。(担当学部・学科)	1	部・科		公開講演会の企画を学部・短大の特性を活かしたものにし協力実施								
				2	部・科		学部・短大:公開講演会を、地域社会・行政と連携して実施する。								
				3	部・科		学部・短大:公開講演会の参加者数を一定数確保する。								
			(3)[Sanyo子育て愛ねっと]事業を推進する。(看護・短大)	1	部・科		事業の企画を学部・短大の特性を活かしたものにし協力実施する。								
				2	部・科		事業を、地域社会・行政と連携して実施する。								
				3	部・科		事業の参加者数を一定数確保する。								
				4	部・科	全	地域における教育支援又は子育て支援の実施(上記1~4も該当する)								
			(4)[大学コンソーシアム岡山]の積極的活用を図る。	1	部・科	全	コンソーシアムを本学の教育内容・教育方法の充実に活用する。	VOD講義は履修されている。	3	TV会議システムを活用授業	4				
				2	部・科	全	コンソーシアムを本学の学生の社会貢献・ボランティア活性化に活用する。	子ども大学、エコナイト参加	3	東北ボランティア参加	4				
				3	部・科	全	コンソーシアムを本学の学生の就職活動に活用する。	インターンシップに活用	3	継続工夫して実施する。	4				
	講師・委員の派遣	(6)地域の教育機関等へ講師を派遣する。		1		全	教育機関への講師派遣結果を実態把握を大学がおこなう。(教職員・学生の理解を)	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4				
				2		全	教育機関への講師派遣の重要性を啓発する。(FDで)	FDで啓発活動実施	3	継続して実施する。	4				
				3	部・科	全	教育機関からの派遣を開拓する。(入試広報部出張授業PR等)	入試広報部出張授業PR実施	3	継続して実施する。	3				
				4	部・科	全	教育機関への講師派遣の件数を増やす。	同上	3	同上	3				
		(7)行政機関へ委員を派遣する。		1		全	行政機関から受けた委員派遣結果の実態把握を大学としておこなう。(教職員・学生の理解を)	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4				
				2		全	行政機関への委員派遣依頼を断らないよう学内啓発する。(FDで)	FDで啓発活動実施	3	啓発活動の継続	4				
				3	部・科	全	全学:行政機関との接触(コンタクト)を定期的に取る重要性を学内啓発する。(FDで)	FDで啓発活動実施	3	啓発活動の継続	4				
				4	部・科	全	全学:行政機関への委員派遣の件数を増やす	努力した。	3	努力を続ける。	3				
	ボランティア支援	(8)学内外のボランティア活動の実態を把握し、その連携と支援策を検討する。		1		全	ボランティア活動の実態把握を大学としておこなう。(教職員・学生の理解を)	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4				
				2	部・科	全	ボランティア活動の意義、大学への報告の必要性を教職員・学生に啓発。(FD・SD、授業)	FD・SD、授業で実施	3	継続して実施する。	3				
				3	部・科	全	ボランティア活動の支援をする。(FD・SD、授業で)	県の事業への参加を支援	3		4				
		(11)本学学生による学内外の自主防犯組織「さんばと隊」等を支援する。		1	部・科	全	学生の「さんばと隊」を支援する。	支援した。	3	隊員の増強を促進	4				
				2	部・科	全	学生サークル(部・同好会)のボランティア活動を支援する。	支援した。	3	要請の学内情報共有化	4				
				3	部・科	全	学生(個人有志単位)・教職員のボランティア活動支援をする。(授業で、個別で)	「知的生き方」で啓発した。	3	継続して実施する。	4				
	教育・研究	地域課題解決を目的とした研究(共同研究)の実施		1	部・科	全	地域を対象とした学生主体の授業の必修化	選択科目では実施している。	2	必修科目への組込を努力	3				
				2	部・科	全	地域課題解決を目的とした共同研究を実施する。(研究支援・共同研究推進機構とも連携)	単独研究はあるかもしれない。	2	共同研究化へ努力する。	3				
	地域、行政機関との連携	(9)平井地区から市、県、全国へと社会活動・地域貢献の輪を広げるための戦略を立て、実践する。		1	部・科	全	「平井地区から全国へ」の戦略を立てる。(岡山市との保健福祉・危機管理面の提携等)	COCを提出する状態に仲展	4	継続して実施する。	4				
				2	部・科	全	「平井地区から全国へ」の戦略を実施に移す。	市と連携(ESD)、COC調整	4	市と認知症・救命で公開講座	4				岡山地区環境衛生協議会から表彰
		(5)地域との協働連携事業を推進する。		1		全	地域との協働連携事業(全学、学科、研究室、チーム)の実態把握を大学として実施。	把握をおこなった。	3	大学の情報収集体制整備	4				
				2	部・科	全	地域との協働連携事業を推進する。	学部学科単位では実施	2	保健福祉・危機管理面で活動	3				
		(10)地域(平井学区、市、県)の防災訓練について協働すると共にその人材育成に当たる。		1		全	防災訓練について地域(平井学区、市、県)と協働する。(平素の準備も含めて)	中央署・消防・学区の訓練に参画	4	町内会訓練に参画	4				
				2	部・科	全	防災訓練について人材育成に当たる。(学生サークル支援、FDSD、知的生き方等)	学生サークルが防災訓練参加	3	継続して促進する。	4				
		(12)多目的交流プラザを開設し、COC推進プロジェクト部門と、共生・グローバル化推進プロジェクト部門を置く。		1		全	多目的交流プラザを開設し、運営する。	立案段階だった。	2	年度内に実施を。	4				
				2		全	多目的交流プラザにCOC・共生・グローバル化推進プロジェクト部門を置く。	COC推進はおこなった。	3	年度内に実施を。	4				
				3		全	全学的な地域連携のためのセンターの設置(上記の「共生」に該当する)	立案段階だった。	2	年度内に実施を。	4				
		地域の課題解決に向けた継続的な協議		1		全	大学等所在地の都道府県又は市区町村等との包括連携協定の締結	市とCOCの協議はおこなった。	4	協定の締結を市と協議	4				
				2		全	地域の課題解決に向けた継続的な協議をおこなう。(岡山県・岡山市等と)	市とCOCの協議はおこなった。	2						

*年度別目標値については3を基準とするが、学部学科の現状に応じて設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるため、その場合はそれを基準値とすることになる。また、具体的な数値(件数、人数、%など)で目標の設定ができる場合には、それを表示する。

*全学共通の項目は、“全”の項目とする。各学科独自の項目は“部・科”の項目とする。



平成26年度・事業実施評価表(大学運営)

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		今年度の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
大学運営	大学・短期大学運営のガバナンス向上とPDCAサイクルの定着を図る	学長室	学長室の設置により迅速かつ有機的なガバナンスの確立	1	事務局ラインと教学ラインの統括を進める	合同会議での連絡調整を図っている	4	更に推進する	5				
				2	委員会情報の収集・的確な把握に努める	全教職員への浸透が不十分	2	全教職員への意識形成に努める	3				
				3	各種企画・計画・プロジェクトの推進・統括を図る	合同会議での連絡調整を図っている	4	更に推進する	5				
				4	各学部・学科のPDCAサイクルの確立を図る	取り組みを進めている	2	更に推進する	3				
				5	事務局各部門のPDCAサイクルの確立を図る	取り組みを進めている	2	更に推進する	3				
			学長室と各部門との連絡	6	学長室と各部門との連携推進を強化する	合同会議での連絡調整を図っている	3	組織形成に努める	4				
				7	競争的外部資金獲得を進める	不十分である	1	更に推進する	2				
		情報発信	プロジェクトによる情報発信の強化	8	企画・広報プロジェクトの設置を図る	組織的取り組みにかけている	2	組織形成に努める	3				
				9	大学・短大の特色・実績・知名度向上等の情報発信を強化する	必要な情報発信に努めている	3	HPを通じ必要な情報を積極的に発信	4				
		適切な業務管理	公正な判断のもとに適切な業務管理を行う	10	施設整備・補充等の適正な推進に努める	計画策定が不十分	2	計画策定を進める	3				
				11	省エネ対策を推進し経費の節減に努める	学内全体への周知は不足している	2	目標値を検討する	3				
				12	教職員のスケジュール管理を推進する	不十分である	2	システム整備に努める	3				
				13	各種議事録の作成に努める	全教職員への浸透が不十分	2	全教職員への浸透を図る	3				
				14	HPを通じ必要な情報発信に努める	更新回数等の増の検討が必要	3	更新回数増加について検討する	4				
				15	事務職員の人材育成計画の作成を進める	いまだ計画策定に至っていない	2	計画策定を急ぐ	3				
				16	事務職員のマナー向上に努める	具体的な取り組みが不足している	2	マナー向上の取り組みを進める	3				
		教職員の資質向上	教職員の資質向上に努めるとともに、適正な業務執行体制を確立する	17	FD/SDを充実し教職員の資質向上に努める	FD/SDの実施に努めた	3	FD/SDのテーマを検討し資質向上に努める	4				
				18	各教職員研修会への参加とFD/SD・全教職員合同会議への報告を促進する	研修会等への参加を進め発表の場を設けている	3	更に推進する	4				
				19	FD/SD・全教職員合同会議の定期的開催し、教職員の力量形成・能力の向上を図る	毎月定例開催を進めている	3	定期的開催を継続する	4				
				20	適切な機器の整備、情報システムの安全管理に努める	全教職員の協力のもとでの推進が必要	3	全教職員の協力を得て更に推進する	4				
		人事システム	新たな人事システムを構築する	21	人事委員会規程を基に全学的・一元的な人事システムの構築を進める	整備中である	2	システムの構築をすすめる	3				
		健康管理	心身ともに健康な教職員	22	健康管理・健康増進・防犯・防災・安全確保の推進	組織的取り組みが必要	3	健康安全推進機構での取り組みを進める	4				
				23	事故防止を推進する	訓練や学内での講習が不足	2	学内講習等の取り組みを進める	3				
				24	学内禁煙推進の強化を図る	組織的取り組みが必要	2	全職員参加での取り組みを進める	3				
				25	メンタルヘルスの推進に努める	組織的取り組みが必要	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	3				
				26	安全安心・危機管理の推進に努める	組織的取り組みが必要	2	健康安全推進機構での取り組みを進める	3				
		自己評価	適切な自己評価の実施	27	教職員個々に自身の長所短所の認識を促し飛躍の契機とする	全教員への浸透が不十分	2	全教員へ認識をうながす	3				
				28	個人評価の有効活用と組織全体の能力向上に役立てる	有効活用が図られていない	2	有効活用が図られるよう努める	3				
				29	公正な評価を行い人事等への適正な反映を図るよう検討をする	人事等への反映が進められていない	2	人事等への反映の検討を進める	3				
				30	よりよい評価方法を常に検討する	常に検討が加えられている	3	見直しを継続する	4				
		将来構想	大学・短期大学将来構想の策定	31	総合人間・短大食物栄養の学生充足率向上策の検討を進める	不十分である	1	具体的な検討を進める	2				
				32	大学・短大将来構想についてプロジェクトでの検討を進める	具体的な検討が不足している	3	プロジェクトでの検討を進める	3				
				33	ワーキンググループを立ち上げ、具体的な作業を進める	具体的な作業が不足している	2	具体的な作業を進める	3				

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

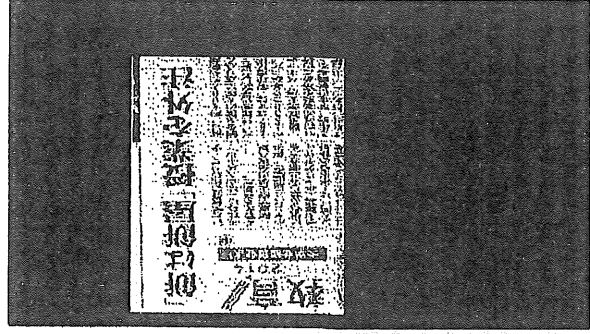
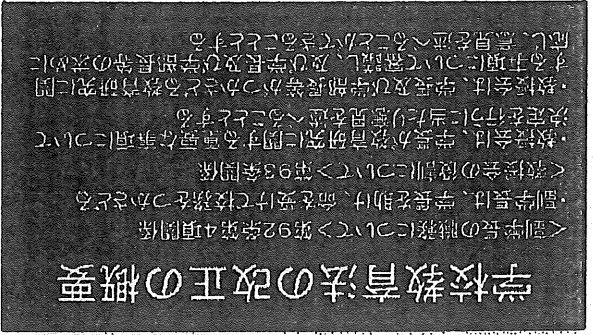
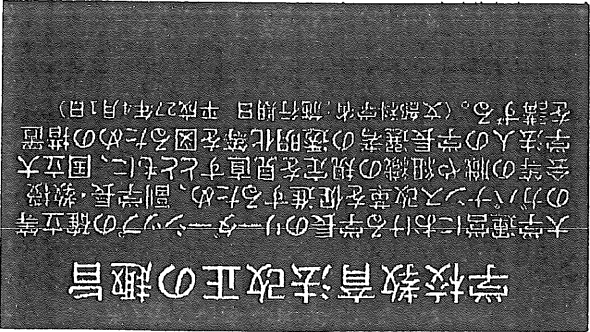
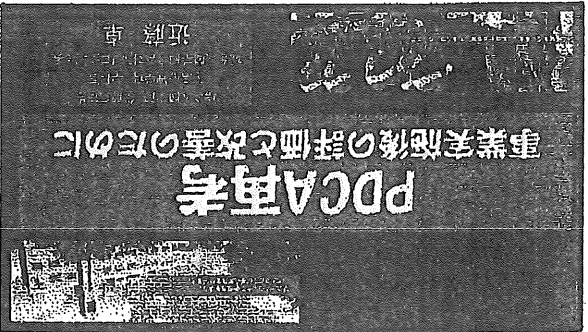
第3回(FD・SD等)全教職員合同会議

日時：平成26年7月2日(水) 14:50～

場所：本301号室

発表部門

1. 生活心理学科(近藤生活心理学科長)
2. 留学生センター(班留学生センター長)
3. IELP 英語集中特別プログラム(清水先生、江藤先生)



平成26年度・事業実施評価表(教育領域);生活心理学科

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	年度別目標値					次年度以降の課題
						23	24	25	26	27	
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの一層の充実化	1	面接等による適正評価を行う。	-	-	3	4	5	
				2	AO入試に必要な学力評価の仕組みを導入する。	-	-	3			
			(2)教養教育の充実化	3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	-	-	3			
				4	健康や文化への価値観を高める。	-	-	3			
				5	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	-	-	3			
				6	学園への帰属意識を高める。	-	-	3			
				7	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	-	-	3			
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	シラバスを充実する。	-	-	3			
				9	専門科目を充実する。	-	-	3			
				10	成績評価を厳格にする。	-	-	3			
				11	課題探究型・問題解決型学習を積極的に導入する。	-	-	3			
				12	資格特待生制度・英語堪能入学者増計画を導入する。	-	-	3			
				13	体験交流重視教育を強化する。	-	-	3			
				14	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	-	-	3			
				15	家庭科教育教職課程教育を実施する。	-	-	3			
				16	生活科学・心理学の2コース制を実施する。	-	-	3			
			(4)学習支援の強化。	17	充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	-	-	3			
				18	学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	-	-	3			
				19	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	-	-	3			
				20	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトで支援を進める。	-	-	3			
			(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	21	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	-	-	3			
				22	社会人基礎力の強化を図る。	-	-	3			
				23	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	-	-	3			
				24	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	-	-	3			
				25	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	-	-	3			
			(6)学生支援の強化	26	教務・学生・キャリアなどのプロジェクトを機構化する。	-	-	3			
				27	健康安全推進機構の下で健康・安全・安心を推進する。	-	-	3			
				28	ユニバーサルデザイン・バリアフリーの推進に努める。	-	-	3			
				29	留学推進、外国人留学生支援方案を検討する。	-	-	3			
				30	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	-	-	3			
				31	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	-	-	3			
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	32	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	-	-	3			
				33	大学案内・ホームページを改定する。	-	-	3			
				34	大学の知名度向上を図る。	-	-	3			
				35	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	-	-	3			
				36	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	-	-	3			
				37	学生参加型のOCを実施する。	-	-	3			
				38	必要な入試制度の見直しを行う。	-	-	3			
				39	正確な入学予測の基に適正な入学者確保を行う。	-	-	3			
				40	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	-	-	3			
				41	総入学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	-	-	3			
		キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	42	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	-	-	3			
				43	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	-	-	3			
				44	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。	-	-	3			
				45	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	-	-	3			

*年度別目標値については基準値を3とするが、学部学科の現状に応じて設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるので、その場合はそれを基準値とすることになる。

2014年7月2日

留学生センターの現状と課題

班 偉（留学生センター長）

本学に留学生センターができたのは2002年4月のこと。現在、留学生委員会と並行して6人体制（教員スタッフ4人と事務スタッフ2人）を取っており、留学生関連の業務全般を担当している。以下、留学生概況・業務内容・課題・取り組みについて御報告する。

一、留学生概況

①在籍者数推移：1995年1名、1996年2名、1997年3名、1998年5名、1999年8名、2000年21名、2001年67名、2002年121名、2003年167名、2004年204名、2005年225名、2006年202名、2007年203名、2008年182名、2009年190名、2010年213名、2011年212名、2012年190名、2013年155名、2014年114名

②留学生の現状（2014年度）：

言語文化学科 92名：1年生15名、2年生10名、3年生26名、4年生31名

生活心理学科 22名：1年生5名、2年生1名、3年生7名、4年生9名

国籍別：中国 99名、ベトナム 12名、韓国 2名、タイ 1名

男女別：男性 45名、女性 69名

二、業務内容

留学生募集の仕事（日本語学校訪問、留学生進学ガイダンスへの参加、受験希望者の相談、出願書類のチェックなど）は入試委員を兼ねている私が担当してきたが、事務部署として留学生センターの業務は、基本的には入学後の留学生の指導・管理にかかわること。主な業務は以下の通り。

①新入生オリエンテーション：入学書類の確認、大学生活注意事項の説明会など

②入管関連の手続き：ビザ更新、資格外活動許可書など

③留学生調書の作成：データ入力・更新、パスポート・外国人登録書のコピー・保管など

④住宅保証：契約書の確認・保険加入・不動産業者との折衝など

⑤奨学金推薦：掲示・選考・通知・申請書類作成・受給手続きなど

⑥国際交流：一日研修旅行の企画・引率、日本語弁論大会の出場者募集、国際交流活動

⑦生活相談、自転車の貸与、呼び出し、催促、入院・事故・事件への対応、トラブル処理

⑧期末試験時の不正行為・交通違反・不法就労・万引き・詐欺など不祥事の始末

⑨文部科学省・入国管理局への定期報告、指導計画書の提出など

三、問題と課題

①近年、中国人留学生の来日が激減したが、代わりにベトナム人留学生が急増している。6月2～3日、岡山・福山市内で開かれた留学生進学ガイダンスでは、来場者の約7割はベトナム人。本学のブースまで40数名が相談にきたが、数人を除いて日本語が殆ど通じない。日本語学校の教員に話を聞くと、漢字が読めないし、授業態度も芳しくないという。今後、もしベトナム人留学生を大量に（例えば年に20～30名）受け入れた場合、授業を教えるのはもちろん、生活指導なども相当やりにくいことが予想される。

②毎年、休学・退学者が大量に出る。2013年度の統計を見ると、除籍5名、退学7名。ほかに妊娠・出産などの理由で休学する者も10人前後あったように記憶している。また、学納金滞納、あるいは未納のまま行方不明になる人も後を絶たない。

③最大な問題と言えは家賃滞納と夜逃げ。本学が住宅保証人になる件数は留学生の約半数。もちろん、アパート契約のことで相談にきた留学生に対し、注意事項を説明し、保険加入・誓約書への署名を前提に、契約書に大学の公印を押すようにしている。にも拘らず、毎年不届き者が数人出てくる。そういう場合、滞納した家賃はとりあえず大学が立て替えておいて、後で保険会社に請求すればいいのだが、アパートに残した家具・家電製品・ゴミの片付け・搬出は、たいへん労力を強いられる作業である。

④留学生の管理は年々難しくなっている。急に消息不明になる、電話をかけても出ない、修得単位数が少ない理由でビザ更新に引っかかった、ビザ更新の期限を忘れた、特定活動推薦状の発行を強要、自らの履修登録ミスで卒業できなくなったことの責任を大学側になすりつける等々、常識外れのことが多々ある。また、留学生同士の間でも金銭の貸し借り、不法就労の斡旋、商品の勧誘、男女関係、詐欺などトラブルが後を絶たない。

四、今後の計画

いろいろ難しいこともあるが、国立大学院へ進学、地元企業へ就職、三井化学北京事務所に勤める……卒業生たちの活躍ぶりを聞くと、何だか報われた思いがする。今後、日本語学校と交流を深め、ベトナム人留学生指導のノウハウを仕入れることや、住宅保証をはじめトラブルを事前に防げる良い手立て、キャリアセンターと連携をとり、留学生への就職支援活動を強化するなど、いろいろ考えているところ。とにかく、きめ細かい指導・細心な注意・迅速な対応・チームワーク・関係部署との連携・上への報告……万全な態勢で精進していくつもりだ。最後に、この場を借りて、皆さん方の御理解と御協力に対し、心より御礼を申し上げます。

IELP 英語集中特別プログラム

期間: 10月6日～1月28日(期末試験前)まで
時間帯: 月～金 18:30～20:00 (90分)
対象者: 全学科在学生と入学予定者
受講料: 無料(教材費は実費負担)
備考: 単位は認定されない。
 受講希望者は申込が必要です。

岡山大学・就実大学名誉教授: 早津彦哉先生(1コマ)
 元山陽学園大学教授: 能登原昭夫先生(1コマ)
 山陽学園大学非常勤講師: アントン ポットギーター先生(1コマ)
 山陽学園大学助教: 江藤由香里(2コマ)

月: "Contact U.S.A. (アメリカの文化・生活様式)" 江藤
 火: 「TOEIC/TOEFL対策講座」能登原
 水: 「ジョン万次郎について」 使用教科書: "Heart of a Samurai" 早津
 木: "America and Americans (アメリカ人とアメリカ合衆国の歴史)" 江藤
 金: 「日常英会話」ポットギーター

平成26年度第2回(FD・SD等)全教職員合同会議

日時：平成26年6月4日(水) 14:50～

場所：本301号室

発表部門

1.入試広報部(谷一入試広報部部長)

1～8 ページ

山陽学園大学
短期大学
FD/SD
研修会発表

入試広報部の活動

－変わります!! 山陽学園－

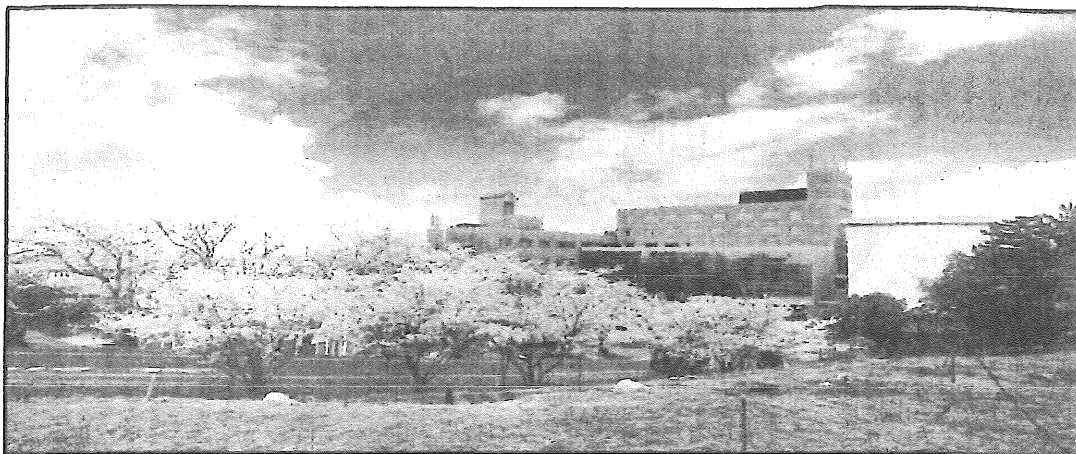
平成26年度目標

▶ 本学の認知度向上

(未だに「いつ4年制になったの?? いつ共学になったの??」という声が聞かれるため、高校生の受験校の決定に影響する可能性が高い)

▶ 志願者数の増加

▶ 全学科の定員充足



新しい取り組み

入試／募集広報

入試

▶ 繰上合格制度の施行

一般試験、センター試験利用入試において、入試区分毎に目標合格者数を設定し、入学金の納入状況を見て不合格者の中から繰上を行った。
これにより、定員の確保と合格者の質の維持を可能とした。

▶ AO入試の追加(4月に入ってからの入試機会を創出)

総合人間学部において、4月に入ってから入試が可能な機会を提供。

▶ 一般推薦Ⅱ期実施時期を12月へ変更

一般推薦Ⅰ期後から一般推薦Ⅱ期までの期間を延長することで、推薦入試需要の最大化を図る。

入試

▶ 新学習指導要領に準ずる入試科目の変更

次年度入試から、「理科」及び「数学」は、新学習指導要領に準ずるものに変わります。本学では、一般試験における「理科」の科目に「化学基礎」を追加し、「化学基礎・生物基礎」、「生物基礎・生物」のいずれかを選択する方式を採用した。

▶ 短大幼児教育学科の「自分アピール書選考」を廃止

次年度入試（一般推薦Ⅰ・Ⅱ期）において、「自分アピール書」を廃止し、「基礎学力検査」を採用する。

▶ 短大AO入試の変更

短大の両学科で面談回数を変更する。

これまで2回に分けていた内容を見直して1回にまとめ、これまでの内容の質を維持したまま評価できる対応をとる。

募集広報

▶ 大学案内・募集要項

- ・従来の使い易さ、説明のし易さを維持し、内容、デザインの向上を図った。
- ・今年度10月実施の「IELP英語集中特別プログラム」の内容を掲載。
総合人間学部英語資格特待生制度の告知を新たに追加した。
- ・シニア特別選抜を社会人特別選抜に統合し、30歳以上の社会人に対し特典を設定した。（総合人間学部、短大に適用）
- ・QRコードを読み取ることで、資料請求フォーム、遠方からの送迎バス申し込みフォームにつながり、入力送信できるよう利便性の向上を図った。
- ・動画を随所に取り入れイメージしやすくした。

▶ メディア（TV、WEB、新聞等）の活用

高校生だけでなく、幅広い世代をターゲットとし、TVCM等のメディアを活用した広報を行う。オープンキャンパスや入試の喚起に効果的な時期に情報を発信する。

CM放映

- ▶ オープンキャンパス、入試の告知
- ▶ RSK・OHK・TSCの3局で朝と夕方の時間に放映予定(6月9日から)
- ▶ パブリシティ出演(OCのPR)

放送局	系列	放送日	番組名	露出形態
RSK	TBS	6/20(金)	ユタンポ	コメント読み
RSK	TBS	7/14(月)	情報プラス	出演
OHK	CX	6/13(金)	エブリのまち	生出演
TSC	TX	6/11(水)	得ナウ	コメント読み
TSC	TX	7/9(水)	得ナウ	出演

新聞広告の掲載

5月17日山陽新聞

岡山大学へ行こう!

「岡山大学へ行こう!」企画(山陽新聞)へ参加
3回/年 特集記事を掲載
初回: 6/22(日) 看護学部掲載予定

5月31日産経新聞

山陽学園大学/山陽学園短期大学
OPEN CAMPUS 2014

来て感じるがあります。新しい自分の発見。

6/21(土) 10:00-15:00
7/21(土) 10:00-15:00
8/23(土) 10:00-15:00
9/27(土) 10:00-15:00
10/25(土) 10:00-15:00

遠方からの無料送迎バス申込みフォーム

広島ルート/鳥取ルート/高知ルート
鳥取ルート/豊後・香川ルート
豊後・香川ルート/岡山県内ルート

山陽学園大学
http://www.sgu.ac.jp/
山陽学園短期大学
http://www.sgu.ac.jp/v
山陽学園大学
http://www.sgu.ac.jp/ocsm/724/987.html

オープンキャンパス

- ▶ 6回→4回での内容の精選化
- ▶ 開催時期の厳選
- ▶ 各学科の内容の充実化を依頼
- ▶ 開催時間の一定化→内容の向上化
- ▶ 無料送迎バスの運行

山陽学園大学／山陽学園短期大学

OPEN CAMPUS 2014

目で感じる学びがあります。新しい自分が見え。

遠方からの無料送迎バスお申込みフォーム

広島ルート／鳥取ルート／高知ルート
鳥取ルート／徳島・香川ルート
徳島・香川ルート／岡山県内ルート

申し込みフォーム: <http://www.sgc.ac.jp/>
申し込みフォーム: <http://www.sgc.ac.jp/>
申し込みフォーム: <http://www.sgc.ac.jp/>
申し込みフォーム: <http://www.sgc.ac.jp/exam/784/987.html>

オープンキャンパスは分けて見学のテーマあり!

● 有田学内見学ツアー 月～金曜日 9時～12時
● 入試相談と受験生見学ツアー 毎週土曜日(10:00～12:00) 要予約

入試係 TEL.086-272-4024(直通)

山陽学園大学 山陽学園短期大学

高校訪問の改革

これまでの高校訪問の問題点、高校側の意見を取り入れ、今年度から新基準・新体制で実施

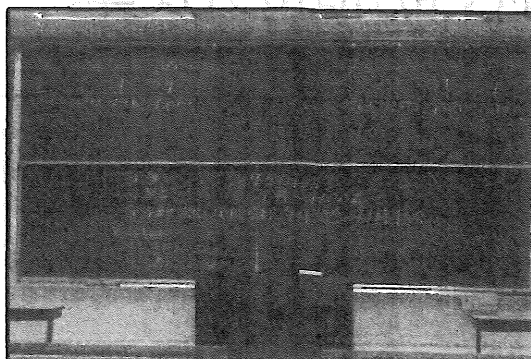
- ▶ 入学者実績・志願者実績から重点校を設定
- ▶ 重点度に基づいた訪問回数の設定
- ▶ 1回目は、全教員・入試広報部で訪問し、2回目以降は、選抜隊を編成し訪問
- ▶ 説明の標準化を目的とし、大学案内のダイジェスト版を作成

ホームページの改定（現在進行中）

- ▶ 学科紹介などの改定
- ▶ 最新情報の随時提示ができるようにする。
- ▶ スマートフォン専用サイトの構築

学科紹介、オープンキャンパス等のイベント情報、入試関連情報に限定する。

画面上にある資料請求アイコンから資料請求できるようにしている。（6月中旬リリース予定）



従来業務

入試／広報

入試

- ▶ 推薦(特別推薦・スポーツ特別推薦・一般推薦)入試、一般入試、AO入試、センター試験利用入試、社会人特別選抜入試、編入学入試、大学院入試、外国人留学生入試
 - ▶ 学外試験場の設定
 - ☆試験会場の予約、物品の準備等
 - ▶ 指定校推薦の依頼文書発送(6月初旬・7月末 2回)
 - ▶ 入学願書受付
 - ☆志願者データ入力・確認等
 - ▶ 入試の実施要領作成
 - ☆実施に向けての書類作成
 - ▶ 入試監督教員等の依頼
 - ▶ 入学試験監督教員等への説明会の実施
-

入試

- ▶ 入学試験実施
 - ▶ 選考委員会・教授会開催
 - ▶ 合格発表準備
 - ☆入学手続き関係書類等作成
 - ▶ 入学手続き関連書類管理
 - ▶ 大学入試センター試験実施
 - ☆複数回の実施説明会への参加
 - ☆実施要項の作成
 - ☆試験問題の受け取りと分封
 - ☆当日の会場設営と運営(試験問題の受け渡し等)
-

広報

- ▶ 広報物の作成(大学案内、募集要項、HP、広報誌等)
 - ▶ 進学情報誌への情報掲載(7社と契約)
 - ▶ オープンキャンパスの開催
 - ▶ アンケート集計
 - ▶ 進学相談会(本学主催2回と業者主催(昨年146回))
 - ▶ 本学見学希望者への対応(平日・土曜日)
 - ▶ 高校訪問実施(計画立案・調整・実施)
 - ▶ 高校訪問の準備(持参物品の準備と発送・お礼状)
 - ▶ 業者との打ち合わせ(広報計画策定のため)
 - ▶ 広報計画策定と予算申請
 - ▶ 調整会議の開催
-

▶

平成26年度第1回(FD・SD等)全教職員合同会議

日時：平成26年5月7日(水) 14:50～

場所：本301号室

発表部門

1. 平成26年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC)申請概要

(村田研究支援・共同研究推進機構副機構長)

1P～15P

2. ボランティア支援・社会サービスセンターと産学コーディネーターからの概要報告とお願い

(澁谷ボランティア支援・社会サービスセンター長、産学コーディネーター) 17P～32P

平成26年度 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)
山陽学園大学 申請概要

事業名称

地域ケアと広域災害への拠点形成を
めざす「おかやま」創造事業

研究支援・共同研究推進機構 村田 幸治

本日の内容

Ⅰ 大学COC事業の概要

- ・事業概要(平成26年度)
- ・平成25年度 採択大学

Ⅱ 大学COC事業の申請状況(平成26年度)

- ・全国の申請状況
- ・岡山県からの申請状況

Ⅲ 山陽学園大学の申請概要

- ・「地域」の課題(岡山市:保健福祉局、消防局)
- ・本学の申請概要

平成26年度予算案 34億円
(平成25年度予算額 23億円)

2. 事業のねらい

2. 事業のねらい

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

(尺碼)：
身長：160cm
胸圍：85cm
肩幅：47cm

●主要採り進め物
①背巾、②襦袢、③袴、④着物、
⑤腰巻、⑥髪髷、⑦足袋、
⑧草履

下図の各品物は尺貫制によるもの

平成25年度 採択大学（共同申請）

〇共同申請

大学等名称	設置形態	事業名称	連携自治体
京都工芸繊維大学	国立	京都の産業・文化芸術振興とK16プロジェクト	京都市、京都市京都市、舞鶴市、京丹波市、綾部市、宮津市、船山町
舞鶴工業高等専門学校	国立		
大阪市立大学	公立	大阪の若生・県民と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の発展	大阪府、大阪市大東市
大阪府立大学	公立		
鳥取県立大学	公立	地域と大学の共育・共創、共生に向けた特結びプラットフォーム	鳥取県、鳥取県松江市、浜田市、出雲市、倉田町、大田市、江津市、川本町、倉吉町、邑智町、津和野町
鳥取県立大学短期大学部	公立		
佐賀大学	国立	コミュニティキャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト	佐賀県、佐賀県佐賀市、杵築市、唐津市、小城市、鹿島市、杵野市、香野々屋町
国九州大学	私立		

◆ 同一法人が経営する複数の大学等による「共同申請」について（直接、電話で問い合わせました）（文科省担当者より）「同一法人が経営する大学と短大だからといって「理念が一緒」ということだけでは意味がない。共同する相当のメリットが明示できないとダメ。」とのこと。
⇒平成25年度の採択結果を調べたところ、鳥根の1件のみ（但し、国立大学と国立高専の共同を除く）

平成26年度の申請状況

平成26年度「地（知）の拠点整備事業」申請状況

（1）申請件数

申請区分	単独申請	共同申請	合 計
件 数	228	9	237

（2）岡山県からの申請件数

	国立	公立	私立	共同	合計
大学	0	1	2	1	4
短大	0	1	0	0	1
高専	1	0	0	0	1
合計	0	2	2	1	6

岡山県からの申請状況（6件）

区分	大学等名称	事業名称	連携自治体等
単独	岡山県立大学	生き活き岡山－新高齢社会のデザインに向けた地(知)の拠点創り	総社市、笠岡市、備前市、真庭市
	美作大学	地域をキャンパスとした学びで、地方人材育成の拠点づくり	津山市、鏡野町
	山陽学園大学	地域ケアと広域災害への拠点形成をめざす「おかやま」創造事業	岡山市
	新見公立短期大学	子どもから高齢者までが満足して暮らせる地域づくり事業	新見市
	津山工業高等専門学校	中山間地域の教育危機を救えー高専型イノベーション人材育成	津山市、真庭市、美作市、美咲町、鏡野町、勝央町、奈義町、久米南町、西栗倉村、新庄村
共同	くらしき作陽大学・倉敷芸術科学大学	「くらしき若衆」と育ちあうサステナブル・コミュニティ倉敷	倉敷市

本学の地域志向と改革、地域の設定

〔山陽学園大学の概要〕

開学	平成6年（国際文化学部として）
建学の精神	「愛と奉仕の精神」を培う
設置学部等	- 総合人間学部（生活心理学科、言語文化学科） - 看護学部 - 大学院（看護学研究科）
学生数	- 学部 644名（1学年定員200名） - 大学院 9名（1学年定員6名）
地域連携協定等	岡山市平井学区との防災協定の締結（平成23年3月10日）

〔本学の地域志向と改革〕

- 地域課題解決のための「地域の担い手づくり」を支援していくこと。
- 大学の地域志向を高めること（その為の大学ガバナンスの強化）。

〔地域・連携自治体 岡山市〕

- 平成17～19年に近隣4町と合併し、人口70万人の新「岡山市」が誕生
- 平成21年4月1日、全国で18番目の政令指定都市に移行

〔申請経費〕 約7,230万円
（5年間）

「地域」の課題①（岡山市 保健福祉局）

○ 岡山市 保健福祉局 新病院・保健福祉政策推進課

少子高齢化がますます深刻化する中で、地域で子どもや高齢者が 学び生活できる環境を整備することは喫緊の課題である。その中で、高齢社会の進展に伴う医療・福祉の問題（岡山市では、特に、在宅医療・介護の普及啓発や認知症の増加）、生涯現役の社会づくり（岡山市では、特に、健康寿命の延伸にも繋がる持続可能な生涯現役社会の構築）などの市民生活上の課題解決への取組が求められている。

○ 提案された事業内容(案)

公民館出前講座(在宅医療・介護講座の運営や内容の検討)

認知症カフェの構築(企画運営、地域に根ざした活動の仕組みづくり)

生涯現役社会づくりに向けた(事業)メニューの体系化等の検討

⇒COC事業の中で、岡山市の「人口集積都市としての課題」と定義

「地域」の課題②（岡山市 消防局）

○ 岡山市 消防局 危機管理課

2012年6月の災害対策基本法改正で、南海トラフ地震等への備えとして県境を越えた広域避難体制づくりが規定された。島根県が2012年11月に策定した広域避難計画では、島根原発(松江市)で事故が起きた場合、岡山県は県全体で島根県から約10万人の避難者を受け入れ、岡山市は岡山県内で最多の25,000人を松江市から受け入れる計画である。この避難計画では、高齢者や障害者ら要援助者を含む避難者へのケアや、避難者支援に関する情報の収集・発信などが課題となっている。具体的には、例えば重度の要援助者は概ね1か月以内に社会福祉施設等へ移転する計画であるが、岡山市では「避難経路等所の開設・管理などの業務、主体となって、避難所運営に関する業務を1週間程度行う」想定であり、「移転までの間の支援体制や、支援に関する情報収集・発信」などが課題となっている。さらに、岡山市には「島根原発の避難者の受け入れは、南海トラフ地震等の将来の大規模災害への備えにもなる」との考え方があり、少しでも実効性のある対策づくりへの取組が求められている。

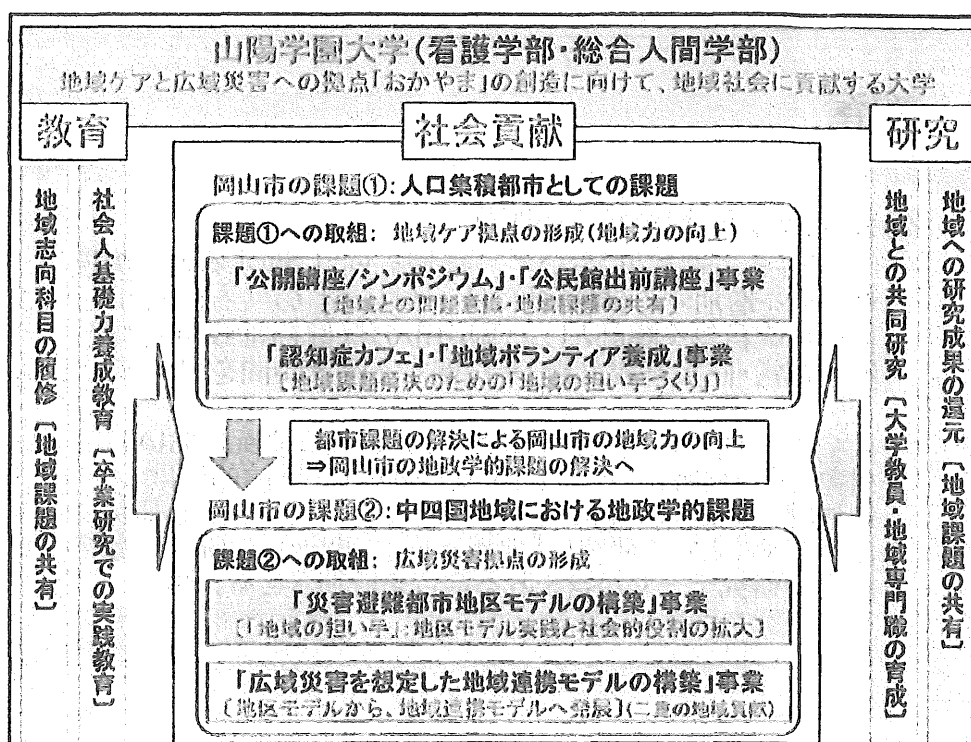
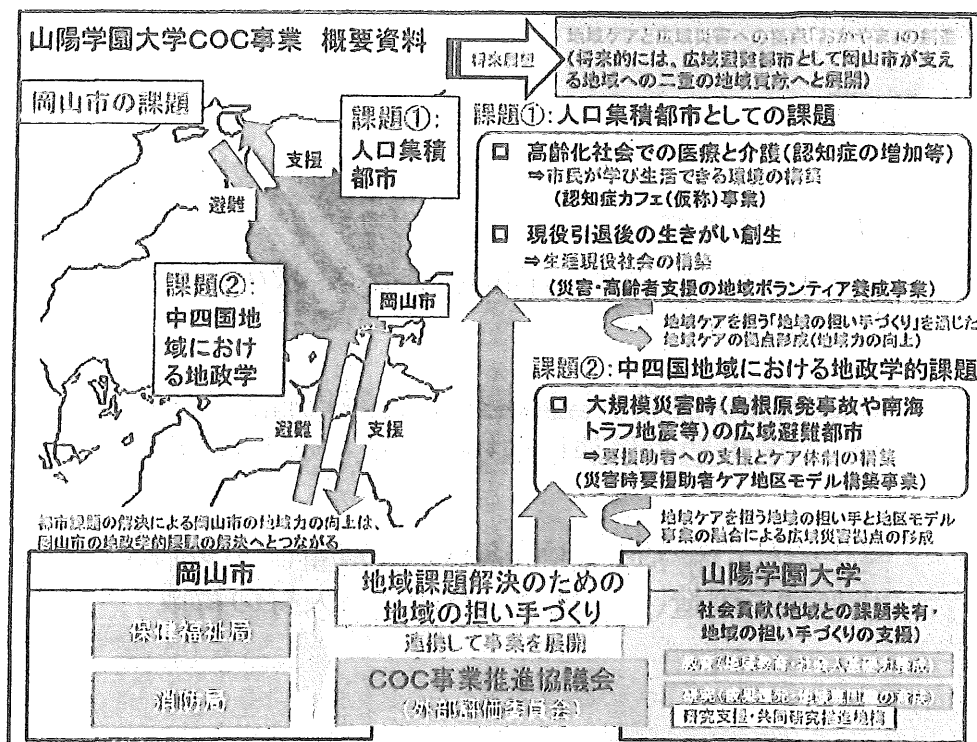
「地域」の課題②（岡山市 消防局）

- 提案された事業内容(案)
 - ・避難所における物資の搬入・配給手助け、避難者（ふるさとを失う可能性がある特別な状況）へ話し相手、エコノミー症候群解消法伝授など
 - ・避難所から仮設住宅・福祉施設へ転居の手助け、紹介
 - ・民間施設提供希望者（東日本大震災時、かなり施設無償提供の申し出があったが、市としては、公共施設から提供していく方針だったため活用されなかったが、島根の場合は近県で避難者が多いことが想定され、有効に活用できる可能性あり）の取りまとめ、紹介など
 - ・SNS等を利用した、被災状況、緊急支援物資、ボランティア等の情報発信・収集、避難者に伝達（岡山市が発信するSNSなども利用し、情報の共有を図る）
 - ・地元の訓練に学生も参加し、避難所の模擬運営などを実施
 - ・DIG（図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）など授業に取り込む、防災基礎知識なども講義で

⇒COC事業の中で、岡山市の「中四国地域における地政学的課題」と定義

「地域」の課題②（岡山市 消防局）に関し、 （岡山市 保健福祉局からの付帯事項）

- 岡山市保健福祉局との協議の中で、「岡山市消防局と本学との連携内容」に関する付帯事項として、「山陽学園大学の方で、災害時に災害弱者（要援助者）への支援体制をどのように確立させていくかということについて、検討して頂きたい。」との申し入れあり。
- 本学からは、「それには、選択と集中という考え方で対応する策がある。具体的には、災害弱者への支援として、大規模災害時に多数設置される避難所すべてに看護師や保健師などの専門職を張り付けるには、人的資源にも限りがある。そこで、COC事業を通じて本学キャンパスに「高機能避難所」としての機能を整備し、そこに本学のもつ教員・看護学生・学生ボランティアなどの人的資源を集中的に投入する。その上で、平井学区等と共同で避難訓練等を行う際に、地区住民には「避難施設の機能分化」という視点を刷り込んでいく。さらに、「高機能避難所」の活用法として、大規模災害時に、本学の職員や看護学生が地域の避難所を巡回し、必要に応じて要援助者を山陽学園の「高機能避難所」に移送するという段取りをしても良い。このような地区モデルを構築するということではどうか。」と回答。



教育

1) 人材育成の視点

本事業において、地域志向の視点から、次の人材育成を行うものとする。

- ◆ 地域課題を探究する意識を持ち、専門性を発揮しつつ、地域課題の解決に取り組もうとする人材の育成
- ◆ 愛と奉仕の精神を培い、多様性を尊重しつつ新しい価値観を創造して、地域に貢献する人材の育成

教育

2) カリキュラム・授業科目の改革

- ◆ 「知的生き方概論」において、「地域志向」に関する内容の授業時間を増加する(具体的には、地域課題の共有に向けて自治体職員等を講師とした「岡山市の保健福祉政策」、「避難所運営・防災基礎知識」等に関する授業時間を増やす)。
- ◆ 社会人基礎力養成教育:ゼミナールや卒業研究において対象とする研究に「地域志向」を盛り込む(具体的には、地域課題の調査・分析・提言など、ゼミナールや卒業研究において対象とする研究に「地域志向」に関連した研究対象の設定や研究テーマが含まれる割合を増加させる。即ち、卒業研究を活用した実践教育を通じて、地域課題の解決に取り組む「地域の担い手づくり」を本学の学生教育に位置付ける)。

教育 数値目標

	平成26年度	平成30年度
地域志向科目数 (但し、科目数ではなく、科目の中の「地域志向」に関する授業時間数と履修学生数で、数値目標を設定)	○全学部(全学共通教育科目) ・科目数1科目 (地域志向に関する内容の授業時間数 6 時間/30 時間) ・履修学生数 200 名(入学定員)	○全学部(全学共通教育科目) ・科目数 1 科目 (「地域志向」に関する内容の授業時間数 14 時間/30 時間) ・履修学生数 1,000 名(入学定員の累積)
社会人基礎力養成教育 (但し、科目数や履修学生数ではなく、卒業研究において対象とする研究で「地域志向」に関連した研究対象の設定や研究テーマが含まれる履修学生の割合で、数値目標を設定)	○看護学部 ・科目数 2 科目 ・履修学生数 80 名(入学定員) ○総合人間学部 ・科目数 2 科目 ・履修学生数 120 名(入学定員) ・卒業研究で「地域志向」に関連した研究対象の設定や研究テーマが含まれる履修学生の割合 20%/年	○看護学部 ・科目数 2 科目 ・履修学生数 400 名(入学定員の累積) ○総合人間学部 ・科目数 2 科目 ・履修学生数 600 名(入学定員の累積) ・卒業研究で「地域志向」に関連した研究対象の設定や研究テーマが含まれる履修学生の割合 30%/年

※参考データ:卒業研究で「地域志向」に関連した研究対象の設定や研究テーマが含まれていた履修学生の割合(%)
平成 23 年度(6%)、平成 24 年度(8%)、平成 25 年度(18%)(平成 22 年度から看護学部で保健師養成教育が本格化)

研究

1) 研究活動の視点

本事業において、地域志向の視点から、次の(1)(2)の学内公募研究を行う。研究費として、1課題につき単年度50～150万円の配付を計画。また、本事業で実施する学内公募研究として、単年度に4課題程度の採択を計画。

① 地域への研究成果の還元(具体的には、地域課題の調査・分析・提言に関する研究の実施と、その成果の地域還元を内容とする)。

② 地域との共同研究の実施(具体的、地域との共同による研究課題を想定。さらに上記(1)と異なり、研究の実施に当たって地域専門職等の地域関係者を少なくとも1名は「共同研究者もしくは研究協力者等」として研究に参画させることを(2)の学内公募の条件として設定する。

社会貢献 数値目標①

	平成28年度	平成30年度
(1)地域向けの公開講座やシンポジウム等開催 (公開講座・シンポジウム等の開催回数、担当教員数で、数値目標を設定)	・開催回数 4講座/年 ・担当教員数 4名/年 ・研究成果の報告割合 20%/年 (参考値として設定)	・開催回数 6講座/年 ・担当教員数 6名/年 ・研究成果の報告割合 40%/年 (参考値として設定)
(2)地域住民を対象とした社会参加・生涯学習プログラムの提供:公民館出前講座の開催 (出前講座の開催回数、担当教員数、出張地区数で、数値目標を設定)	・開催回数 2講座/年 ・担当教員数 2名/年 ・出張地区数 1地区 (平井学区) [※]	・開催回数 6講座/年 ・担当教員数 6名/年 ・出張地区数 2地区 (平井・富山学区) [※]
(3)地域活性化の推進①: 認知症カフェの構築 (地区モデルとして、認知症カフェの活動を展開する地区数で、数値目標を設定)	・活動地区数 1地区 (平井学区) 本学の構内に認知症カフェ(地域開放型情報室)の拠点を開設した上で、移動販売車(車両はレンタル)で地区内の公民館・公園等を巡回し、「旅するカフェ活動」の実施を検討する。	・活動地区数 2地区 (平井・富山学区) 巡回カフェ活動の地区を2地区に拡大する(大学拠点のカフェ機能の拡大展開)。また、地区内に巡回カフェを拠点とした交流支援と情報提供を行う。
(3)地域活性化の推進②: 災害対応や高齢者支援に特化した地域ボランティア養成 (養成講座の開催回数、担当教員数で、数値目標を設定)	・開催回数 4講座/年 ・担当教員数 4名/年	・開催回数 8講座/年 ・担当教員数 8名/年

社会貢献 数値目標②

	平成26年	平成30年
(4)地域防災対策の推進①: 災害避難都市の地区モデルの構築 [※] (災害避難都市の地区モデルとして平井学区に「地域ケア連絡会議」の設立を完了することと、諸活動に参加する学生サークル数で、数値目標を設定)	・本学との防災協定を元に、平井学区と「地域ケア連絡会議」の設立に向けた協議に入る(並行して、本学のキャンパスにH26年度からの5年間で段階的に広域災害を想定した地区モデルの拠点として、「高機能避難所」を整備する。合わせて地区住民と本学が共同で避難訓練・避難所の模擬運営・避難キャンプ・要支援者支援訓練などの訓練の実施について協議する)。(過去の平井学区との訓練では地域住民の非難参加が約200名であったことから、平成26年度は収容人数100名を目標として「高機能避難所」の整備を開始する)。 ・上記の訓練では、本学学生の「災害救急訓練・学生赤十字奉仕団、県警との連携による防犯活動学生ボランティア」の2つのサークルが核となる。	・地域ケア連絡会議の設立を完了する(平井学区に1か所)。(並行して、本学キャンパスに「高機能避難所」の整備を完成させる(最大収容人数400名 [※] を目標とする)。 ※本学から南に1kmの平井小学校体育館の収容人数が486名と設定されていることから、本学は最大400名とした。平井学区との共同訓練では、支援ニーズの高い住民・要援助者(災害弱者)は本学の「高機能避難所」に収容する等の地区での「避難施設の機能分化」を盛り込む。 ・平成30年度までに、本学学生の新規サークル「学生消防隊(仮称)」を創設し、訓練に参加するサークル数を3つとする。

※上記の平井学区を対象とした「災害避難都市の地区モデルの構築」は、平井学区と本学との防災協定に基づいて、本事業により「平井学区および本学の現状を、より質の高い連携関係へと発展させるための取組」と位置付けている。

社会貢献 数値目標③

	平成26年	平成30年
(4)地域防災対策の推進②: <u>広域災害を想定した地域連携モデルの構築</u> (地域連携モデルとして「災害避難都市広域連絡会議」の設立を完了すること、広域連絡会議に岡山市の地区や島根県等の参加[※]する地域数により、数値目標を設定する。) ※参加形態は特には規定しない(会議へのオブザーバー参加等を含む)。	・平井学区との「地域ケア連絡会議」の設立に向けた協議と並行して、「<u>災害避難都市広域連絡会議</u>」の設立に向けて富山学区などの複数地域との<u>広域連携に向けた協議に入る準備を行う。</u> 副申に替わる書面(岡山市危機管理課作成の書面)に記載に従い、「<u>島根県災害避難関連</u>」については、<u>別途に、岡山市と本学との防災協定等を締結する方向で協議に入る。</u>	・災害避難都市広域連絡会議の設立を完了する(1 か所:本学への設置を想定)。 ・広域連絡会議への参加地域数 <u>2 地域(平井・富山学区)[※]</u> ※岡山市の地区(および島根県等を含む)の地域連携に取り組むが、平成 30 年までに最低でも岡山市内の2地区の参加による広域連絡会議を設立する。また複数地区・地域の合同による大規模な人数(最大 400 名を想定)で、<u>訓練を実施する(参加地域数の数値目標は 2 地域とした。)</u>

補助期間終了後の継続性①

(1)教育

- ・地域志向科目 継続
- ・社会人基礎力養成 継続

(2)研究

- ・本学教員の文部科研費申請の際に「地域志向」を何らかの形で研究課題に盛り込んでいただく
- ・本学の「研究支援・共同研究推進機構」として、補助期間終了後は本学の本体予算で単年度に300万円程度の学内研究費を計上し、学内公募研究の制度を継続していく

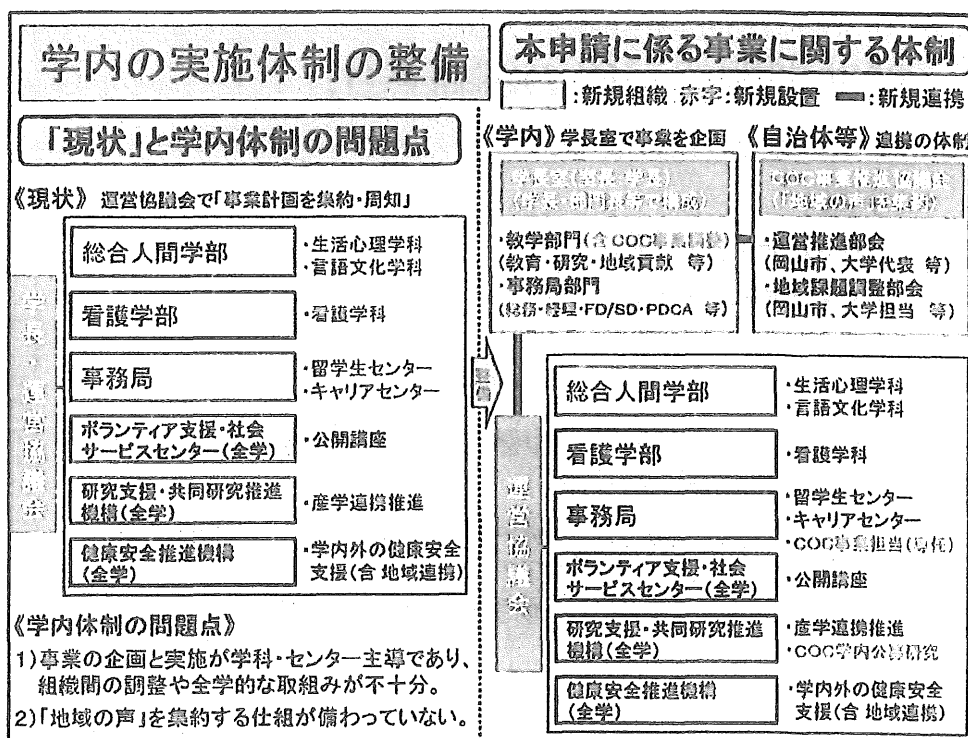
補助期間終了後の継続性②

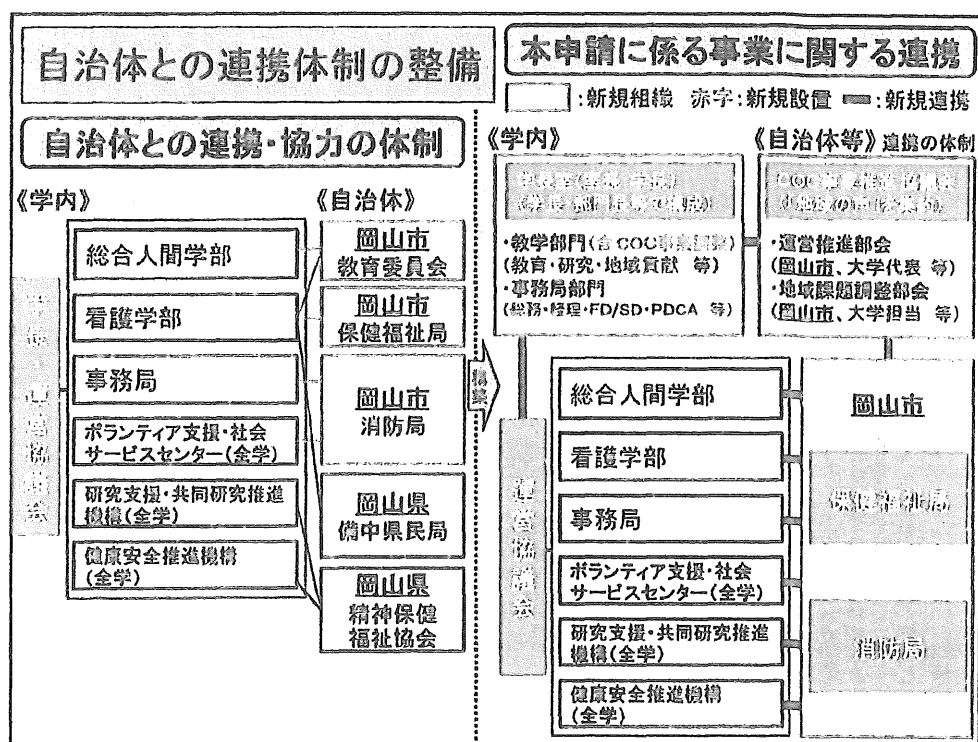
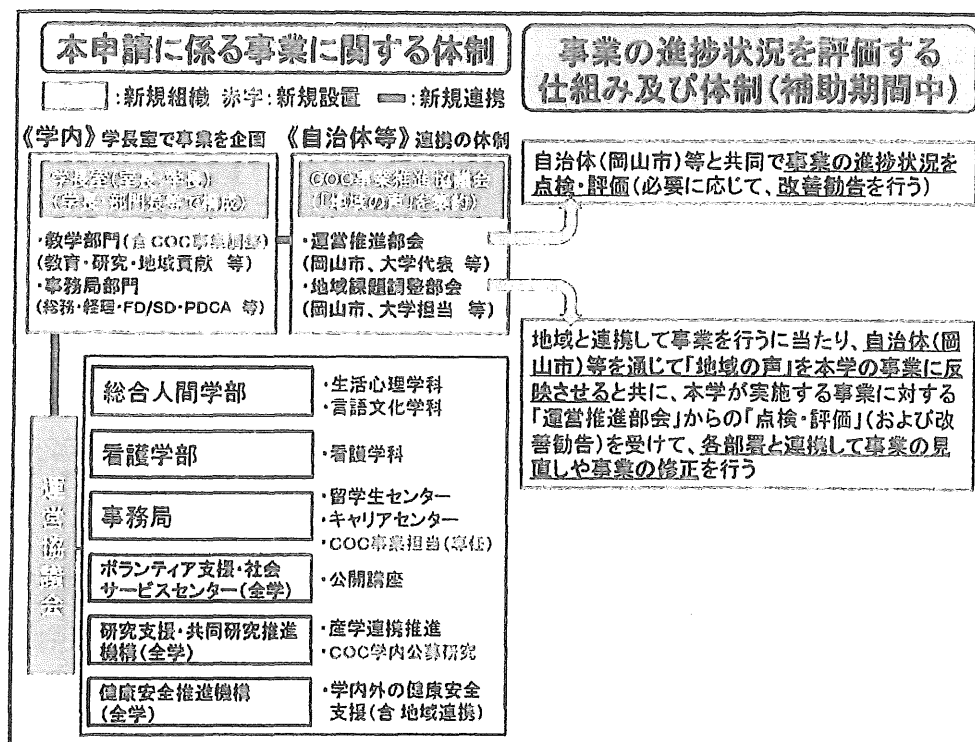
(3) 社会貢献

- ・地域向けの公開講座・シンポジウム等 継続
- ・公民館出前講座 継続
- ・認知症カフェ 継続
- ・地域ボランティア養成講座 継続
- ・平井学区等と本学が共同で行う避難訓練・避難所の模擬運営等 継続

(4) 人件費

本事業で人件費として計上するのは、本学構内に開設する認知症カフェの店長の人件費のみ。補助期間終了後は、本学の事務職員として雇用し、認知症カフェの店長業務を継続していただく予定。





山陽学園大学・
短期大学FD/SD
研修会発表

ボランティア支援・社会サービスセンター と

産学コーディネーター からの概要報告とお願い

【2013(平成23)年度+α】



2014. 05. 07

ボランティア支援・社会サービスセンター長
産学コーディネーター
澁谷俊彦

ボランティア支援 ・社会サービスセンター

1-1. 聴講生について報告

3月：聴講受入科目リスト公開(本学HP)

3月25日・29日：前期聴講生説明会

4月：教授会で前期聴講生受け入れ審議・可決

総合人間学部3名、幼児教育学科1名受入

8月：聴講受入科目リスト公開(本学HP)

9月6日・9日：後期聴講生説明会

9月：教授会で後期聴講生受け入れ審議・可決

総合人間学部2名受入

1-2. 聴講生について お願い

①正規生の教育に障害のない限り、聴講生の受入をお願いします。

②シラバスを作成するとき、聴講生／単位互換・科目等履修生の事項にチェックをお忘れ無く。この結果が受け入れリストになります。

③ その他の事項

以下の受入れ可否をご記入ください。(可＝○ 否＝×) ※非常勤講師の方は「単位互換履修生」のみ

- 単位互換履修生… 山陽学園短期大学の学生を対象としています。(単位認定が必要)
- 科目等履修生… 主に単位の修得を希望される一般の方もしくは卒業生です。(単位認定が必要)
- 聴講生… 主に一般の方です。(単位認定は不要)

※「1」の欄は、聴講生を受入する場合にのみ記入してください。

科目名	単位数	履修者	聴講生受入可否	理由
1. 総合人間学	2	聴講生	○	
2. 総合人間学	2	聴講生	○	
3. 総合人間学	2	聴講生	○	
4. 総合人間学	2	聴講生	○	
5. 総合人間学	2	聴講生	○	
6. 総合人間学	2	聴講生	○	
7. 総合人間学	2	聴講生	○	
8. 総合人間学	2	聴講生	○	
9. 総合人間学	2	聴講生	○	
10. 総合人間学	2	聴講生	○	
11. 総合人間学	2	聴講生	○	
12. 総合人間学	2	聴講生	○	
13. 総合人間学	2	聴講生	○	
14. 総合人間学	2	聴講生	○	
15. 総合人間学	2	聴講生	○	
16. 総合人間学	2	聴講生	○	
17. 総合人間学	2	聴講生	○	
18. 総合人間学	2	聴講生	○	
19. 総合人間学	2	聴講生	○	
20. 総合人間学	2	聴講生	○	

④ その他

1. 聴講生を受入する場合、必ず「1」の欄に「○」を記入してください。

2. 聴講生を受入する場合、必ず「2」の欄に「○」を記入してください。

3. 聴講生を受入する場合、必ず「3」の欄に「○」を記入してください。

4. 聴講生を受入する場合、必ず「4」の欄に「○」を記入してください。

5. 聴講生を受入する場合、必ず「5」の欄に「○」を記入してください。

6. 聴講生を受入する場合、必ず「6」の欄に「○」を記入してください。

7. 聴講生を受入する場合、必ず「7」の欄に「○」を記入してください。

8. 聴講生を受入する場合、必ず「8」の欄に「○」を記入してください。

9. 聴講生を受入する場合、必ず「9」の欄に「○」を記入してください。

10. 聴講生を受入する場合、必ず「10」の欄に「○」を記入してください。

11. 聴講生を受入する場合、必ず「11」の欄に「○」を記入してください。

12. 聴講生を受入する場合、必ず「12」の欄に「○」を記入してください。

13. 聴講生を受入する場合、必ず「13」の欄に「○」を記入してください。

14. 聴講生を受入する場合、必ず「14」の欄に「○」を記入してください。

15. 聴講生を受入する場合、必ず「15」の欄に「○」を記入してください。

16. 聴講生を受入する場合、必ず「16」の欄に「○」を記入してください。

17. 聴講生を受入する場合、必ず「17」の欄に「○」を記入してください。

18. 聴講生を受入する場合、必ず「18」の欄に「○」を記入してください。

19. 聴講生を受入する場合、必ず「19」の欄に「○」を記入してください。

20. 聴講生を受入する場合、必ず「20」の欄に「○」を記入してください。

2-1. 公開講座 について報告



公開講座

- 会場：山陽学園大学・山陽学園短期大学
（山陽学園大学）山陽学園大学
（山陽学園短期大学）山陽学園短期大学
- 受講料：無料
- 申し込み：開催日の1週間前まで
前1回（10/19）16時（金）前2回（11/10）16時（日）前3回（11/24）16時（日）
（各回とも申し込みは必要です）
- 対象：第1回・第2回は小学生以上
第3回は親子参加歓迎



- ① 10/19 地域作りと持続可能な開発のための教育(ESD)①
- ② 11/10 地域作りと持続可能な開発のための教育(ESD)②
- ③ 11/24 うらじゃとカリヨン・ピアノによる地域文化作り

山陽学園大学・山陽学園短期大学

山陽学園大学 看護学部看護学科 総合人間学部生活心理学科/国際文化学科 山陽学園短期大学 食育栄養学科 幼児教育学科
岡山県岡山市中区千代一丁目14-1

後援：岡山市 岡山市教育委員会 大学コンソーシアム岡山 平井学区連合町内会



2013 Open Lectures Sanyo Gakuen University & College

公開講座

第1回 10月19日(土) 地域作りと持続可能な開発のための教育(ESD)①
開講式 12:15~13:30(16分間) 小学生・中学生参加歓迎 本会302番教室

- ESD事例発表 (13:30~15:00(90分間))
 - 持続可能な開発のための教育とは (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県教育委員会・岡山県環境教育推進協議会)
 - 誰れもが取り組めるESD活動 (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会)
 - 海底ゴミ回収についてストックホルムで発表 (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会)
- ESD活動 オリジナル手作り川ゴミ回収用具の試作 (15:10~15:50(40分間))
参加者一同で考え、試作品を確かめる。 (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会)

第2回 11月10日(日) 地域作りと持続可能な開発のための教育(ESD)②
小学生・中学生参加歓迎 本会302番教室

- 講演 あなたの心は元気ですか? (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会) (13:30~14:50(80分間))
- ESD活動 オリジナル手作り川ゴミ回収用具を使ってみる。 (15:00~16:40(100分間))
 - 参加者一同で使ってみる。 (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会)
 - オリジナル用具試作とESDのまとめ (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会)

第3回 11月24日(日) うらじゃとカリヨン・ピアノによる地域文化作り
親子参加歓迎 302番教室

- うらじゃの秘密と魅力
 - 講演・対談 うらじゃ事始め (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会) (13:30~14:20(50分間))
 - うらじゃ演奏と質疑応答 (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会) (14:20~16:00(90分間))
- 演奏 実は、子ども達にこの曲を聴かせたい。 (山陽学園大学・山陽学園短期大学・岡山県環境教育推進協議会)
 - カリヨン生演奏 本会のカリヨン(楽器)を借りて演奏 (15:20~15:40(20分間))
 - とっておきのフランスピアノ曲 (15:40~16:40(60分間))

開講式 15:40~17:00

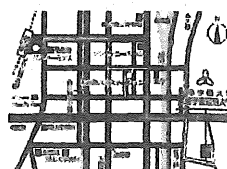
会場と案内 交通機関

○学内の最寄り駅をご利用いただけます。
山陽学園大学・山陽学園短期大学は、岡山県岡山市中区千代一丁目14-1にあり、最寄り駅は岡山県岡山市中区千代一丁目14-1の山陽学園大学駅です。

事前申し込み先

山陽学園大学・山陽学園短期大学社会サービスセンター
〒760-0001 岡山県岡山市中区千代一丁目14-1

○お電話でのお申し込み：086-273-3226
○ファクシミリ：086-273-3226
○Eメール：social@sgu.ac.jp
○FAX：086-273-3226



「平井ラーニング」で事前準備

生活心理学科一年生が10月11日の「平井ラーニング」で学生達が、「オリジナル手作り川ゴミ回収用具」を試作しました。校務の方にキャンパス内の竹を切って頂き、ホームセンターで買ってきた熊手を結びつけました。



第1回 10月19日(土) 地域作りと持続可能な開発のための教育(ESD)①

開講式 13:15~13:30(15分間)

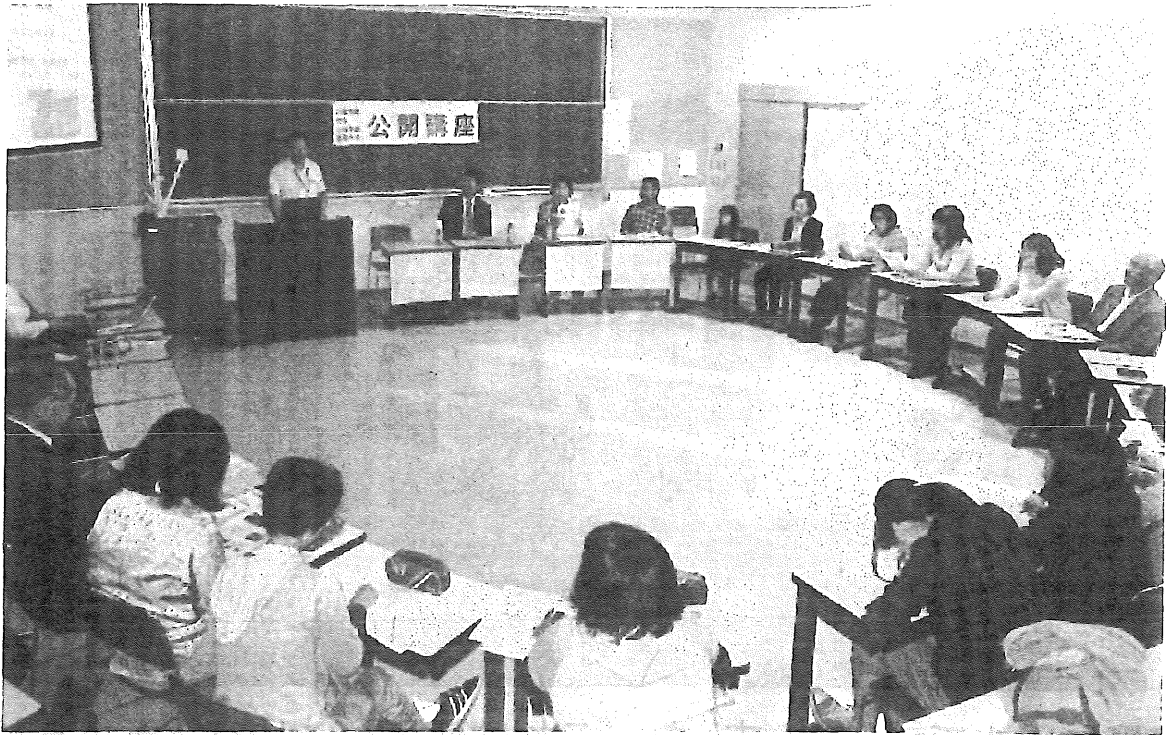
小学生・中学生参加歓迎 本館302講義室

1. ESD事例発表 13:30~15:00(90分間)

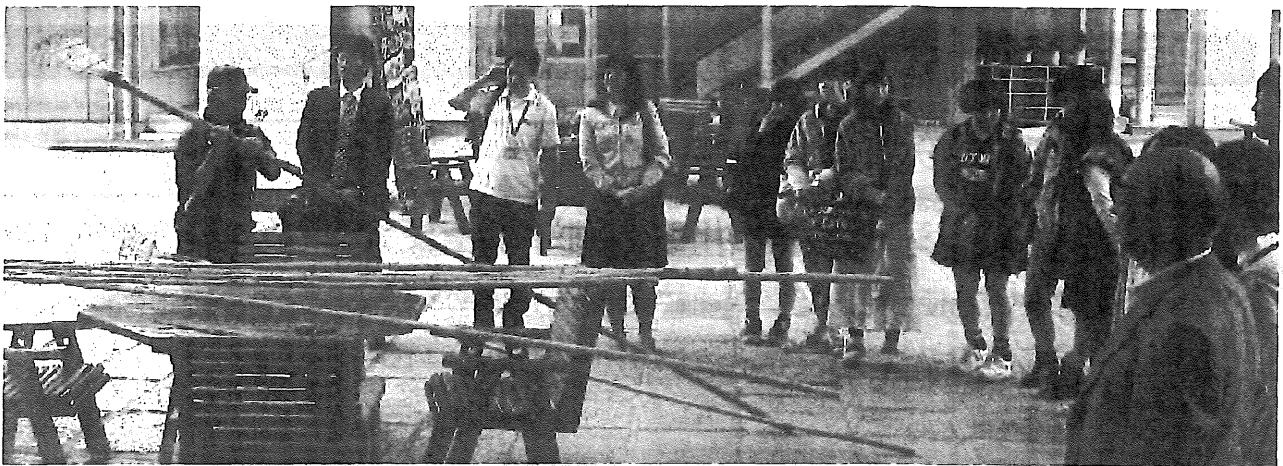
- ①持続可能な開発のための教育とは 板野直孝(岡山市ESD世界会議推進局担当課長補佐)
- ②誰もが取り組めるESD活動 赤井藤子(おかやまエコマインドネットワーク代表)
- ③海底ゴミ回収についてストックホルムで発表 山陽女子高校地理歴史部生徒
井上貴司(山陽女子高校教諭/地歴部顧問)

2. ESD活動 オリジナル手作り川ゴミ回収用具の試作 15:10~16:50(100分間)

参加者一同で考え、試作品を確かめる。 瀬谷俊彦(生活心理学科教授)・久保田靖子(言語文化学科准教授)



岡山市役所の板野直孝さんにESDについて説明頂きました。引き続きパネリストから事例紹介があり、井上先生からは山陽女子高の地歴部のストックホルムでの発表について聞かせて頂きました。



川ゴミ回収用具試作について意見をいただきました。講座参加者の方々から「竿がしなりすぎる」「熊手はステンレスの方がよいのでは」と、ズバリとした指摘が出ました。



実際に用水で試してみました。「これは使える」といった声があがる一方、「先が抜け落ちた」といった弱点が見えてきました。
11月1日の平井ラーニングの授業で、これらの意見を取り入れた改良型でゴミ調査・ゴミ回収をしました。

第2回 11月10日(日) 地域作りと持続可能な開発のための教育(ESD)②

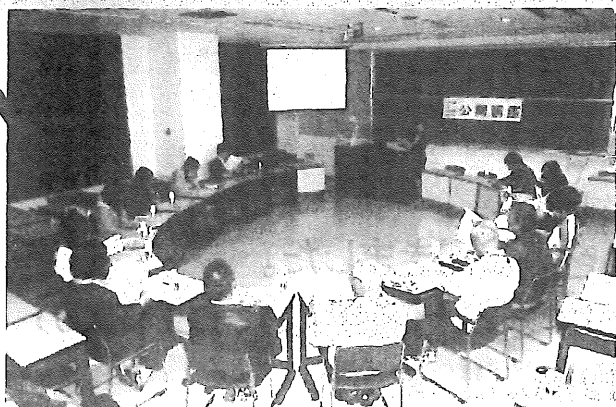
小学生・中学生参加歓迎 本館302講義室

1. 講演 あなたの心は元気ですか? 揚野裕紀子(看護学部教授) 13:30~14:50(80分間)

2. ESD活動 オリジナル手作り川ゴミ回収用具を使ってみる。 15:00~16:50(110分間)

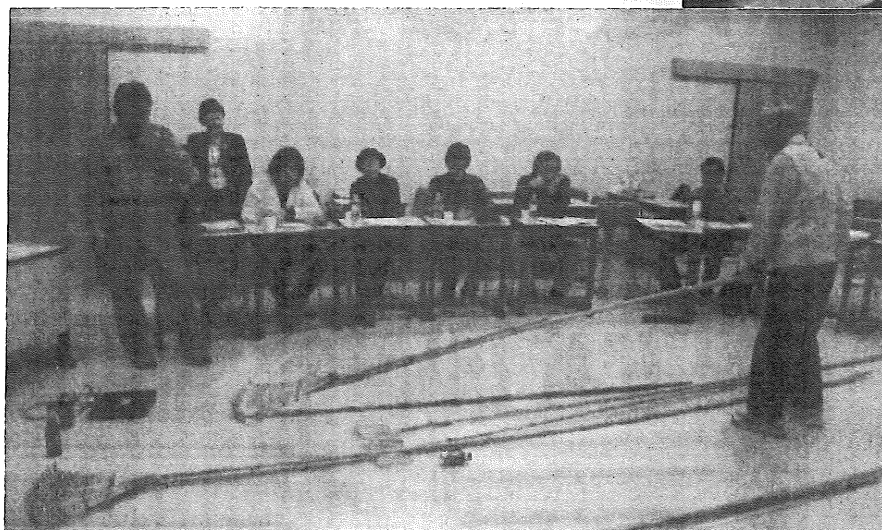
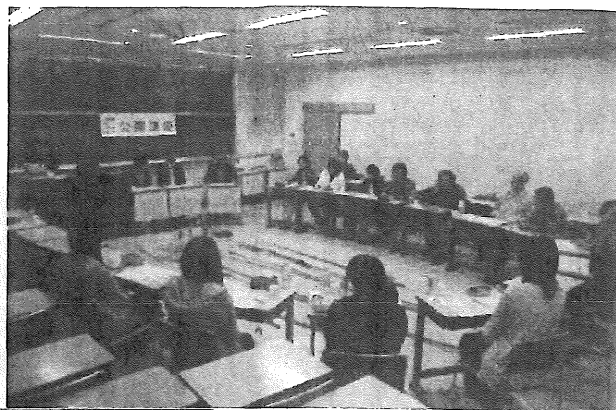
①参加者一同で使ってみる。 澁谷俊彦(生活心理学科教授)・久保田靖子(言語文化学科准教授)

②オリジナル用具試作とESDのまとめ 那須和夫(平井学区連合町内会会長)
赤井藤子(おかやまエコマインドネットワーク代表)
井上貴司(山陽女子高校教諭/地歴部顧問)



揚野先生の実験を加えた講義

公開講座第2回(11月10日)
 後半 ESD活動第2回目
 当日小雨だったので、屋内で
 ペットボトルや空き缶を使って回
 収用具を試しました。



第3回 11月24日(日) うらじゃとカリヨン・ピアノによる地域文化作り

親子参加歓迎 D302講義室

1. うらじゃの秘密と魅力

- ①講演・対談 うらじゃ事始め 小玉康仁(小玉促成青果(株)代表取締役
元岡山青年会議所副理事長) 13:30~14:20(50分間)
- ②うらじゃ演舞と講師講評 山陽学園大学・山陽学園短期大学うらじゃ陽輝 14:20~15:00分(40分間)

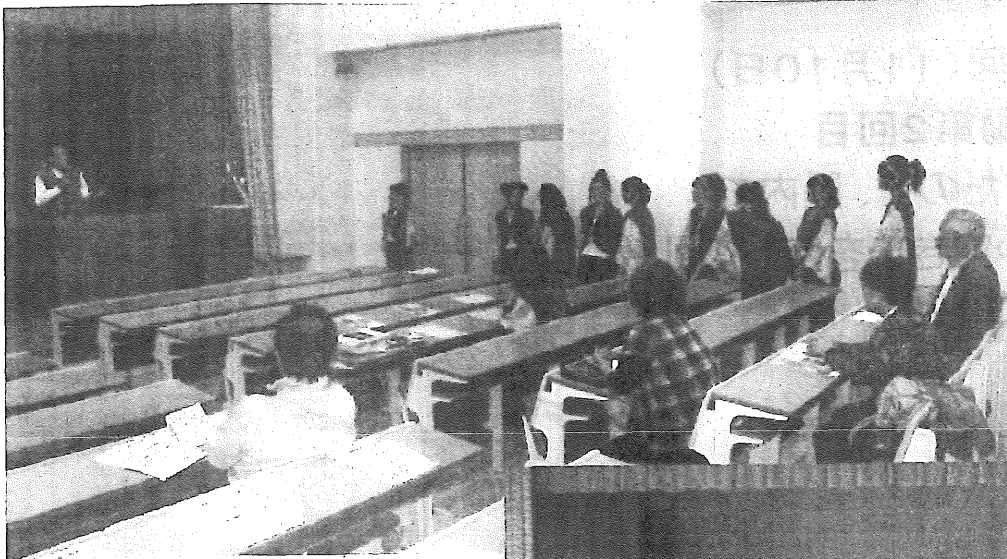
2. 演奏 実は、子ども達にこの曲を聴かせたい。 田中節夫(演奏と解説/幼児教育学科教授)

- ①カリヨン生演奏 本学のカリヨン(表面写真参照)を使用 15:20~15:40(20分間)
- ②とっておきのフランスピアノ曲 15:40~16:40(60分間)

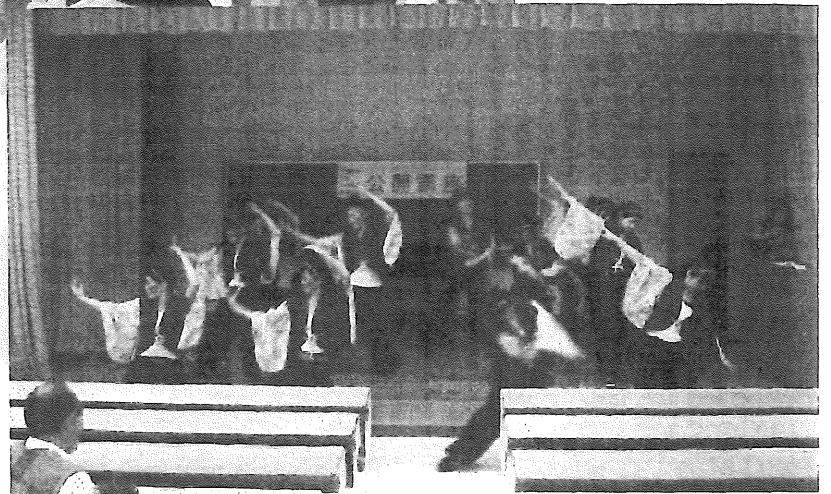
閉講式 16:40~17:00

カリヨンの事前調整





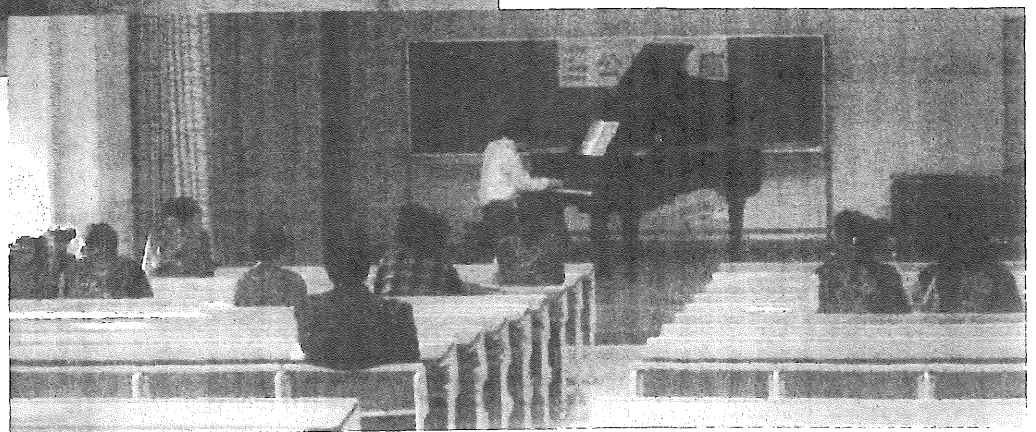
小玉講師(うらじゃ創
設メンバー)にうらじゃ
全員が質問



小玉講師に演舞を見
て頂く



田中先生、カリヨンの生
演奏、そしてとっておきの
フランスピアノ曲



2-1. 公開講座についてのお願い

- ①公開講座についてご提案・アイデアがありましたら、各学科のボランティア支援・社会サービスセンター員へお伝えください。(講師は学内外半数、学外講師は県内の方です)
- ②広報にご支援ください。例年、リーフレットが出来ましたら、本館玄関、入試広報部前のラックにおかせていただいています。配布頂けるところがありましたらご連絡ください。入試広報部・総務課にも予備をお預けしております。

3-1. ボランティア活動確認

①学生サークル

医療・防災	-----	3
サークルを支える活動・ボランティアスタッフ	-----	4
訪問して上演・実演	-----	6
留学生と交流(学内)	-----	6
ボランティアの研修に行く	-----	3
合計		22団体

*解説: 部の活動報告よりボランティア活動に含まれると読み取れる内容を集計した。

*岡山市学校ボランティアの活動は2014.04.15時点では学校から市教委へまだ未報告とのこと。

②東北復興ボランティア

防災	-----	1人
----	-------	----

*解説: 同友会・大学コンソーシアム主催のボランティアバスについて、本学希望学生は授業との関係で参加できず。

③ボランティア支援・社会サービスセンター支援

医療・防災 -----6団体

*解説: 述べ6団体。

④学生個人単位のボランティア

学生個人のボランティア活動は、本学のキャリアサポートシステムを通じて登録がおこなわれています。今年度は13件が登録されています。(例: クリーン活動、託児ボランティア、オープンキャンパスへの参加、日ようび子ども大学への参加、献血セミナー)

④教員の地域貢献

179件 (審議会・出張授業・講演・研修指導・スクールカウンセリング・体育 活動等) *解説: なおシリーズ講演は1件とした。

3-2. ボランティア活動に関するお願い

- ① 学生にサークルのボランティア活動は「学生部に報告するように」とお伝えください。
- ② 学生の個人のボランティア活動は「よかったらキャリアサポートシステムに登録するように。キャリアポイントになり履歴書を書くとき役立ちます」とおすすめてください。
- ③ 教職員自身の地域貢献活動(審議会への参加・講演・研修指導等)についても、総務課への届け出をお忘れ無く。

☆ 大学の地域貢献が重視される時代になっています。本学としても実績を積み上げていくことが大切です。

4-1. ボランティア 支援

①中央警察署・平井連町 避難訓練に参画

2013.01.24



P E B E W S

山陽学園大学学生赤十字
奉仕団



ボランティアサークルあい+
生活心理学科有志
(ダンボールトイレと新聞紙
スリッパ)

2014年12月 山陽学園大学・山陽学園短期大学ボランティア活動・社会サービスセンター 発行 1000部 山陽学園大学・山陽学園短期大学 2014.12.15

山陽学園大学・山陽学園短期大学 ボランティア支援・社会サービスセンター ニュース 2014.02-2号

生活心理学科ニュース2013年11月増刊1より転載

避難所用の新聞紙スリッパの作り方



中区平井町防犯訓練で参加(2013年11月)



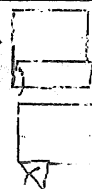
制作シーン(2013年11月/山陽学園大学・短大体育館)
災害時の体育館は、冬は冷えます。新聞紙で作る避難所
用スリッパの作成マニュアルを作り出した。

①新聞紙1枚を縦向きに
する。

新聞紙4頁分二つ折りです。



②下から1/4を折り上げる。
上下1/4の所と1/2の所に見当を付けて
おきます。



③角を折り込む
左下の角を45度に折り曲げます。



④もう1度折り上げる
これで上下が半分の大きさになりま
す。



⑤裏返す。
左右反転して裏返します。45度
に折り曲げた角が右側に来ます。



⑥3つ折りにする。
1/3ずつ左右から折り上げます。



⑦隅をの三角に差し込む。
角を差し込むことで完成した形に
なります。



⑧隅を折り込む
四隅をV字型に折り込みます。



⑨指置に差し込み1足分にする。
作り置きするときは1足分にまとめます。



②岡山まちの夢 学生発☆実現プロジェクト「つなおか 2014～真冬の！？学生野外festival～」へ参加。

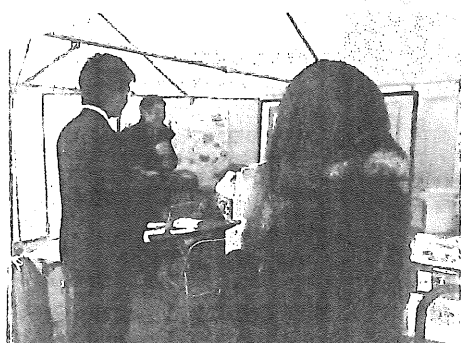
- 主催：岡山県・岡山県中小企業団体中央会・つなおか
実行委員会主催（県が募った学生チーム）
- 開催日時：2月8日10時～17時
- 場所：岡山市北区下石井公園
- 本学参加者：教員2名・職員1名・学生1名
（積雪のため大半の学生は自宅待機）
- 出展内容：本学ボランティアサークルの活動紹介パネル
の展示・説明、段ボールトイレ・新聞紙スリッパの実
演・解説



それでも県庁は高校開催



当日大変な積雪。
大半の学生は自宅待機



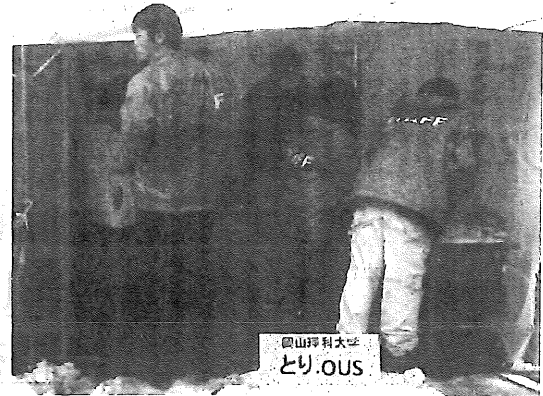
見覚えのある方が来場



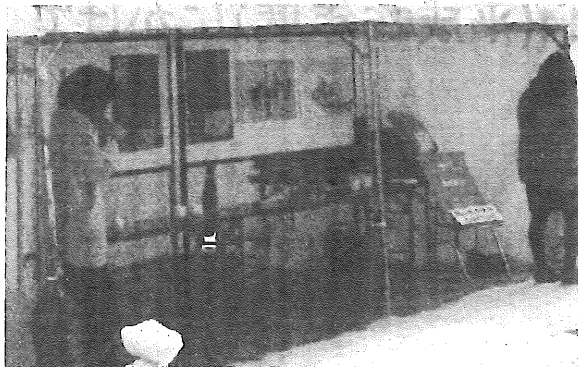
本学のサークル紹介と避難グッズ説明



就実



理科大



県立大



商大?

産学連携コーディネーター

1-1. 産学コーディネート

①2013(平成25年度)

企業・法人等との共同研究・共同開発の実績を確認
中です。事例がありましたら産学コーディネーターもし
くは総務課までご連絡を。

② 2013(平成25年度) から2014(平成26年度)にかけて の実績づくり

天満屋女子陸上競技部ふれあ いイベント支援

日時: 2014.05.06.10-12

地元企業の社会的責任CSR
(corporate social responsibility)
の支援、並びに地域との橋渡
し(連合町内会・学校園)を担
当しました。

2014年4月 山陽学園大学・山陽学園短期大学産学連携コーディネーター TEL:082-272-9254

山陽学園大学・山陽学園短期大学

産学連携コーディネートニュース 2014.04号

トップクラスの陸上競技選手が山陽学園

平井キャンパスのグラウンドにやってくる。

参加者大募集

天満屋創業185周年記念 特別企画

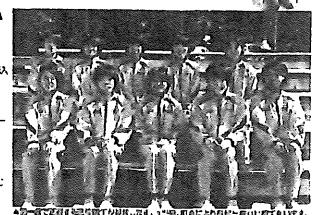
女子陸上競技部 ふれあいイベント

創業185周年を記念して、これまでご声援いただいた地域の皆様と、
天満屋女子陸上競技部員とのふれあいの場をご用意いたします。
小学生以上であればどなたでもご参加いただけますので、ふるってご参加ください。

参加ご希望の方は、往復はがきでご応募ください
(下記記入例参照)。

〒700-8025 岡山県倉敷市平井1-1
(※天満屋倉敷店 地下2階111号女子陸上競技部)へ
〒700-8025 岡山県倉敷市平井1-1 天満屋倉敷店 地下2階111号女子陸上競技部
〒700-8025 岡山県倉敷市平井1-1 天満屋倉敷店 地下2階111号女子陸上競技部

■日時/ 5月6日(火・祝) 10:00~12:00
■場所/ 山陽学園大学・山陽学園短期大学内グラウンド
(岡山県中津市)
■参加人数/ 200名 観客参加/ オ一人様 500円(当日)
■参加費/ 小学生以上
■イベント費/ 観客参加/ 500円 観客参加/ 500円



天満屋女子陸上競技部員とスタッフの集合写真です。

笑顔でつなぐ、おもてなし。

TENMAYA

岡山・天満屋 www.tenmaya.co.jp

TEL:082-272-9254 FAX:082-272-9255

選手とのイベントに参加できます。

4月30日までにFAXで申し込もう。

参加費は無料ですが、ファンタジー館のチャンスが限って
います。一緒に選手たちとのイベントに参加しませんか。良い思い出に
なります。友達にも誘ってください。

天満屋岡山店

販売促進課

FAX 082-272-7322

TEL 082-272-7320

幼稚園・保育園の子ども達は、お兄さんお
姉さんの応援をしよう。

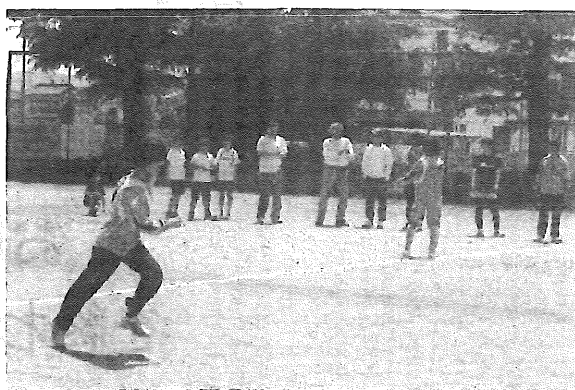
応援・見学は事前申し込み不要です。応援をよろしくお願ひします。

駐車場へは南から。

来場される方々のため大学の駐車場を開放します。バス通りからの
進入です。最乗降の御用にお願ひいたします。

岡山・山陽学園大学・山陽学園短期大学産学連携コーディネーター

TEL:082-272-9254 FAX:082-272-9255



ふれあいイベント(連合町内会長・広報委員出席)

2014. 05. 06 山陽新聞

重友選手らファンと交流 天満屋 女子陸上部がイベント

おたまを使ったリレーで競う重友梨佐選手(左から2人目)ら＝山陽学園大・短大グラウンド

陸上長距離の名門・天満屋女子陸上部は6日、山陽学園大・短大グラウンド(岡山市中区平井)で同社の創業185周年を記念した交流イベントを開き、選手たちがリレーなどを通じてファンや小学生ら約100人とふれ合った。

2012年ロンドン五輪マラソン代表・重友梨佐選手ら現役部員11人のほか、00年シドニー五輪マラソン7位の山口衛里さんらOGも加わった。選手たちは参加者に交じって2チームに分かれ、綱引きや調理用具のおたまにピンポン球を乗せて走るリレーなど多彩な種目で競った。約30人が二人三脚のように足を結んで一斉に駆ける種目では「イチ、ニ、イチ、ニ」と掛け声を響かせながら約15メートルを競走。勝ったチームはハイタッチして喜びを分かち合った。

イベント後には、同部から五輪に出場した4選手全員のサイン入り色紙が当たるじゃんけん大会もあった。岡山市立小6年の女兒(11)は「テレビで見た選手と一緒に走れてうれしい」と笑顔だった。

米国での高地合宿から3日に帰国したばかりの選手たちもリフレッシュした様子。主将の重友選手は「すごく楽しかった。地元の方と交流でき、大きな励みになった」とトラックシーズン開幕を前に気持ちを新たにした。(2014/5/6 20:54)



以上で
ボランティア支援・社会サービスセンター
と、
産学コーディネーター
からの
概要報告と
お願い
を終わります。

平成 26 年度活動実績報告

「平成 26 年度事業実施評価表」を参考に、各項目について記述をお願いいたします。

1. 教育（活動）関連

1) アドミッションポリシー（入学者受入方針）の一層の実質化

- ・面接時による適正評価を目標にしていたが、充分機能していない。
- ・面接時の各グループの標準化を行った。

2) 教養教育の充実化

5 の行動目標に従い、積極的に実施した。

3) 学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）のさらなる実質化

・シラバスの内容の充実、成績評価を厳格にするため、平成 27 年度から進級要件を導入した。

4) 学習支援の強化

- ・アドバイザー制度を活用しており、きめ細やかな学習支援を行った。
- ・入学前学習の検討を行い、次年度には効果判定を厳格に行う。
- ・初年次教育の効果

平成 26 年度活動実績報告

「平成 26 年度事業実施評価表」を参考に、各項目について記述をお願いいたします。

1. 教育（活動）関連

1) アドミッションポリシー（入学者受入方針）の一層の実質化

<言語文化学科>

面接等による適正な評価に努めた。AO 入試においては、第 1 回目の相談時に相談カードと調査書の提出を求め、受験者の希望と本学科が求める学生像が一致し、入学後の必要な学力が確認されるまで繰り返し面談を行った。

2) 教養教育の充実化

<言語文化学科>

教養教育のうち山陽スタンダード科目では、建学の理念と歴史、および健康と文化に関する価値観を高める教育を行った。2 年次には学科全員で大学祭に参加し、学園への帰属意識を高めた。1 年次の平井ラーニングや 2～3 年次の異文化理解活動を通じて社会活動を奨励し、地域貢献への価値観を高める教育を行った。

3) 学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）のさらなる実質化

<言語文化学科>

学士力の向上を目指し、厳しい学力評価と同時に、きめ細かい履修指導と相談を行った。2 年次末には、修得単位数と GPA 値を基に 3 年次への事実上の進級制度を厳格に適用しつつ、進級が困難な日本人学生については学生本人への履修指導と保護者も含めた四者面談を実施し、保護者の理解と協力を得ながら指導にあたった。また、1 年次末、3 年次末にも修得単位数の少ない学生に対して注意喚起と個人指導を行った。

専門必修科目では 1 年から 3 年にかけて体験交流を重視した教育を行い、特に 3 年次では異文化理解活動やボランティア活動への参加を促し、多文化共生社会を作る要員としての資質の育成に努めた。平成 26 年度入試より導入した英語資格特待生制度による入学者はなかったが、後期から実施された英語集中特別プログラムには 8 名の申込者があった。

4) 学習支援の強化

<言語文化学科>

学習に関する支援は、教務部、学生部、留学生センター、キャリアセンターなどと連携して行った。特に休学・退学を含む履修指導や相談に関しては、アドバイザー制度が極めて重要な役割を果たしている。

初年次教育として、山陽スタンダード科目の教育に加え、専門科目「基礎演習Ⅰ、Ⅱ」において大学生活へ適応、アカデミックスキルの修得、学習およびキャリア教育の基礎作りを行った。この科目は、10～15名程度のクラスに分かれて実施しているが、共通のシラバスに基づいて学習項目を統一しながらも、学生の国籍や教員の指導方法の特性に応じた指導を行う方法をとっている。また、1年次生を対象とした基礎学力向上プログラムとして、国語（日本語）学習も行った。その他の初年次教育としては、専門必修科目「コミュニケーション概論Ⅰ、Ⅱ」でコミュニケーションの基本を学び、コミュニケーション力養成の基礎作りを行った。

平成 26 年度活動実績報告

「平成 26 年度事業実施評価表」を参考に、各項目について記述をお願いいたします。

1. 教育（活動）関連

1) アドミッションポリシー（入学者受入方針）の一層の実質化

アドミッションポリシーについては、とりわけ AO 入試において入学志願者に対して丁寧に確認をおこなって、本人の入学の意思がそれと合致していることを確かめている。その上で、事前の複数回に及ぶ面談における評価を数値によって記述し、時系列的に見て本人の学力や意欲が高まっていることを確かめ、最終的にアドミッションポリシーとの合致を再度確認して名簿登録の段取りを踏むようにしている。

2) 教養教育の充実化

山陽スタンダードの基幹科目としての「知的生き方概論」は、これまでどおり出欠を厳格にとるとともに、授業中の態度等にも複数教員を配置してしっかりと管理した。また「人間学」においては、これまでの授業実績を踏まえつつも、新たな視点でより学生の生活に即した視点で、健康と文化を考えるような展開をおこなった。

3) 学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）のさらなる実質化

シラバスの改善点として、過年度の成績分布を示したり、WRS（ライティング、リーディング、スピーキング）の重点配分を示したりといった点が課題となっているが、まだ達成できていない。

4) 学習支援の強化

初年次教育の充実化やアクティブラーニングのさらなる推進など、次年度（27 年度）の課題として積み残したものがある。

平成 26 年度活動実績報告

食物栄養学科

1. 教育（活動）関連

1) アドミッションポリシー（入学者受入方針）の一層の実質化

AO 入試は、栄養士を目指す意志と適正を学科教員共通の認識の下に判定した。登録前の面談では、志望理由や食に関する関心について時間を割いて話を聞くとともに、筆記試験による基礎的な計算力の確認も行った。計算力がレベルに達しない志願者に対しては、問題の解説を行い、学習を促し、原則 1 週間後に再確認した。

2) 教養教育の充実化

一般教育科目では、人文科学系の開講科目が少ないので、非常勤講師による倫理学を開講した。社会科学系の現代ニュース概論では、山陽新聞社の特別講師による“新聞を通して社会の動きを知る”をテーマにした講義を計 5 回行い内容の一層の充実を図った。また、知的生き方概論では、学科特性の時間を活用し、キャリア教育に加えて社会と自己の関係を見直す内容を加えて、社会人基礎力の養成を図った。

3) 学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）のさらなる実質化

食物栄養学科では、校外実習を実務教育上の一つの到達点としてカリキュラム上極めて重要な位置づけとしている。このため、実習期間を栄養士法施行規則に定められている単位数の 2 倍（2 単位）とし、実習先も全員が実習生となる小学校と選択施設（福祉施設、病院、給食会社など）の 2 か所で実習を行っている。実習期間は各 1 週間ずつ、計 2 週間である。これまで、校外実習は 2 年生前期に 2 週連続で実施してきたが、臨床栄養、給食管理および栄養指導などの専門教育科目は講義や学内実習が完了していない時点での実習となり、学生の知識と理解度、技能など十分でない面が多々あり、実際に受け入れ施設からの指摘もあった。そこで校外実習の実をあげるためにカリキュラムの改善について検討を重ねた。その結果、実習施設の協力を得て、2 年生の前期（6 月）に小学校、後期（11 月）には福祉施設、病院、給食会社などと分離して実施することとした。時期を分けることで、学生にとっては実習前の到達目標がより明確となり、学習や事前準備に取り組みやすくなると考えられる。

4) 学習支援の強化

学科の取り組みとして、オフィスアワー加えて、昼休みや空き時間を利用し学生の質問や相談に対応した。数学や化学の基礎学力の底上げを図った。また 10 月と 11 月には、二年生を対象に栄養士実力認定試験対策講座を行った。

平成 26 年度活動実績報告

「平成 26 年度事業実施評価表」を参考に、各項目について記述をお願いいたします。

1. 教育（活動）関連

1) アドミッションポリシー（入学者受入方針）の一層の実質化

短期大学は、学術と研究とを行うべき大学であるが、一方で社会人基礎力を十分に身につけた人材を社会に送り出すことが求められる。そのため幅広い学生を受け入れ、本人の適性に応じて就職・進学を考えさせることを徹底した。入試においては高等学校の内申書成績との相関関係の高さを考慮し、特に特別推薦入試と AO 入試において、2 年次 GPA の差が著しいことからこれらの入試においては慎重に入学者を選抜した。また、一般推薦 I 期に「基礎学力検査」（国語の学習に関する基礎的な問題）を導入した。他方、センター試験及び一般入試においては極めて成績の良い学生が集まる傾向があることが GPA 分析によって判明したため、これらの入試結果からは昨年度よりも多めに学生を採用した。他の方法と比較して、学力的に遜色のない学生を集められることが認められた。

2) 教養教育の充実化

「知的生き方概論」は、山陽スタンダードとして位置づけられ、新入生が本学の学生として誇り高いアイデンティティを確立することを目指し、i) 学園の歴史と建学の理念、ii) 健康で文化的な生活への関心、iii) 学科の特性に応じた初年次教育の三分野で構成され、平成 25 年度からは、全学共通科目としての認識を新たにし、内容面での充実が図られ、平成 26 年度も踏襲された。その結果、学生がこれら三分野において興味関心を高め、授業その他において実践への心構えが出来ていることが確認された。

3) 学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）のさらなる実質化

GPA (Grade Point Average) を導入し、各学生の総合的で厳格な成績評価を行うとともに、奨学生選考の参考資料等にも活用してきた。また GPA は講義中心の教科のみならず実践的な教科の評価も取り入れているため、GPA の高い学生は低い学生よりも一般的に短大生活への適応が良い等、この指標の信頼性が高いことが実証され、学生の適応診断の一助としても応用された。

音楽教育においては学生に対して、ピアノ練習へさらなる激励が大切と考えられる。また実践的な幼稚園・保育所などでの授業内容はますます充実しており、指導案等の書き方に関しても 5 領域の教員の指導が実を結びつつある。

4) 学習支援の強化

図書館等の利用については学生に随時、働きかけてきたが、さらに自力での学習習慣を築きあげるよう、働き掛けを続けて行く必要がある。またオフィスアワーを活用しての学生に対する相談は次第に活発さを増しているが個人差があり、学業に関する相談に試験直前にのみ来室することがあるため、普段からの学業相談を勧めるよう、講義などの機会を見て学生に周知した。

講義の中でも効果的な学習の仕方について各教員が随時、指導している。

平成 26 年度 山陽学園大学大学院看護学研究科の教育活動報告について

平成 26 年 4 月入学生は 5 名であり、定員に占める割合は 83.3%であった。平成 27 年 3 月修士（看護学）1 名を輩出した。しかし、平成 26 年度内の退学者は 2 名であり、退学理由の内訳は 1 名満期退学、1 名家庭の都合であった。

平成 27 年 4 月入学生は 3 名であり、定員に占める割合は 50.0%であった。現在、在籍数 9 名であり、定員充足率は 75.0%である。

平成 26 年度末で完成年度となり、今後、自立した大学院として発展するため、規程などの整備や文部科学省から指導のあった若返りを目指した教員の配置および入学定員の確保を課題とし、さらにディプロマポリシーにおける目標達成度の高い修了生を輩出することを目指す。

自己評価委員会

大学運営において各担当部門の PDCA 推進力を高めるためには、その前提として PDC A を共同で推進する教職員の資質向上が組織的に求められる。

(1)平成 26 年度は、教職員の資質向上をはかるため全学的 FD・SD 研修会を計七回下記の通り実施した。

発表日時	発表部門または発表者	発表テーマ
第1回 平成26年5月7日	村田研究支援・共同研究推進機構副機構長	平成26年度地(知)の拠点整備事業(大学COC)申請概要
	澁谷ボランティア支援・社会サービスセンター長	センターと産学コーディネーターからの概要報告とお願い
第2回 平成26年6月4日	谷一入試広報部長	入試広報部の活動
第3回 平成26年7月2日	近藤生活心理学科長	事業実施評価(教育領域)
	班留学センター長	留学センターについて
	清水言語文化学科長	英語集中特別プログラムについて
第4回 平成26年8月27日	小野短大教務部長	事業実施評価(教育領域)
	村田研究支援・共同研究推進機構長	事業実施評価(研究領域)
	澁谷ボランティア支援・社会サービスセンター長	事業実施評価(社会貢献領域)
	樋本事務局長	事業実施評価(大学運営)
第5回 平成26年10月1日	實成学長	学校教育法改正および本学教授会規程等の改正に対応した今後の各種業務執行体制について
	平井学生課長	災害避難マニュアルと一斉送信メールシステムについて
第6回 平成26年12月24日	各学科、各部門(計13)	平成26年度PDCAの中間報告
第7回 平成27年3月24日	大学コンソーシアム岡山(各大学のテレビ会議システム設置教室)	双方向ライブ型オムニバス授業

(2)平成 29 年度の第三者評価の受審に向けて

平成 26 年度は、平成 29 年度の第三者評価受審に向けて、準備のため、自己評価報告書の項目にそって過去 3 年をまとめる計画を立てたが、学校教育法改正に伴う組織見直し作業もあり、計画は半分以上未実施のままであり、平成 27 年度の課題として残されている。

(3)「学生による授業評価」「教員相互の授業参観」は FD 小委員会を中心に年 2 回実施された。

「学生による授業評価」は、従来実施後回収して教員が教務課に届けていたが、今年後期からは学生代表が直接教務課に届けることになった。平成 27 年度からは「学生による授業評価」について教務委員中心に実施される予定である。

(4)平成 26 年度の「教員個人評価」は、平成 27 年 4 月末日締切で実施された。

研究機構

平成 25 年 11 月に設置された研究機構は、平成 26 年度は地域ニーズに基づく研究活動と、競争的外部資金獲得を中心的課題として活動した。

- ① 地域ニーズに基づく研究活動としては、岡山県における精神障害者の地域支援・権利擁護システムの開発に向けての基礎調査研究事業（地域支援に関する委員会）への参画を行い、平成 26 年度は当該研究事業の最終年度として研究データの分析評価と研究事業報告書の作成に参画した。
- ② 競争的外部資金獲得については、平成 26 年度の「私学総合改革支援事業」への公募（平成 26 年 9 月）を行うとともに、平成 27 年度の同事業への公募に向けて、教務部と連携しながら、教学事項の見直し〔短大に GPA 制度の導入、シラバスの充実（準備学習の項目の徹底、第三者による確認の導入）、オフィスアワーの拡充（非常勤講師も対象に）など〕や、学外関係団体との連携の強化に着手した。

平成 26 (2014) 年度活動実績報告

総括的報告事項 (2015. 04. 28 総務課提出 これを圧縮して理事会報告される)

3. 社会活動・地域貢献関連事項

1) ボランティア支援・社会サービスセンター関連

(1) 公開講座を実施した。

- 11 月 15 日：第 1 回：生涯現役社会を目指して～健やかな高齢期のために、認知症カフェの開き方を学ぶ～認知症を学び、1 日認知症カフェを企画しよう。
- 11 月 22 日：第 2 回：生涯現役社会を目指して～健やかな高齢期のために、認知症カフェの開き方を学ぶ～地域の人々と開店準備、1 日オレンジカフェ（認知症カフェの愛称）
- 11 月 29 日：第 3 回：生涯現役社会を目指して～健やかな高齢期のために、認知症カフェの開き方を学ぶ～開店します。1 日オレンジカフェ
- 12 月 6 日：特別会：尊い命を救おう。普通救命講習Ⅰ（講師：岡山市中消防署）

(2) 学部持ち回りの市民公開講演会を実施した。

- 11 月 2 日：公開講演会：指導とは共に夢を語り合う事なり：武富 豊講師（天満屋女子陸上部総監督）

(3) 「Sanyo 子育て愛ネット」事業を実施した。

本学幼児教育・食物栄養・看護の 3 学科と Sanyo 子育て愛ネット実行委員会が 3 回にわたり、親子交流会：おやこ交流広場を開催した。

- 7 月 6 日：親子交流会第 1 回おやこ交流広場：親子で楽しく作ろう！七夕飾り
- 9 月 28 日：親子交流会第 2 回おやこ交流広場：カプラの作品作りを親子で体験しよう！
- 11 月 15 日：親子交流会第 3 回おやこ交流広場：健康わくわくスタンプラリー

(4) 「大学コンソーシアム岡山」の積極的活用を図った。

- 教育：単位互換・双方向ライブ型遠距離科目・VOD 型遠距離科目
双方向オムニバス授業「地域貢献」「ボランティア論」本学・理科大・商大・中国学園大共同実施双方向オムニバス授業を後期開講
- 地域貢献：6 月 1 日：日曜日子ども大学、岡山県生涯学習センター、出展：生活心理学科「くらし安全安心教室」・幼児教育学科「たくさんのかみコップであそぼう」。7 月 6 日：七夕エコナイト岡山駅前広場会場 参加：学友会・うらじゃ陽輝。7 月：七夕エコナイト各大学 内容：学生寮ライトダウン、ゴーヤカーテン、省エネ活動。
- 吉備創生カレッジ：本学の教員が各専門分野に応じた内容を担当

(5) 地域と協働連携事業を推進した。

- 本学の協働連携事業の定期的なものは、Sanyo 子育て愛ねっと実行委員会と共に実施している「親子交流会：おやこ交流広場」である。
- 不定期ではあるがここ数年定着している事業としては、災害避難訓練である。今年度は平井学区防災キャンプ（東山公民館 5 月 25 日）への学生参加、平井学区危険箇所点検（6 月 8 日）への学生参加、平井学区栄町町内会消防訓練(10 月 12) 日への学生サークルペビウスの参加等があげられる。

(6)地域の教育機関等へ講師を派遣した。

- 教育機関である中学校・高等学校・大学への講師派遣、スクール館セラー派遣をおこなった。講演は看護分野が最も多く、カウンセリング分野がこれに続く。
- 教育機関以外を会場とする社会人講座・学校園保護者への講演・専門職研修講師や指導等を実施した。幼児教育・公衆衛生、看護・カウンセリング・文化系生涯学習が主要な内容である。

(7)行政機関等へ委員を派遣した。

- 自治体の審議会・委員会等への本学の教員派遣をおこなっている。食の安全・安心、食育、調理、公衆衛生、産業衛生、健康づくり、看護、カウンセリング、社会教育、まちづくり等の分野が主である。

(8)学内外のボランティア活動の実態を把握し、その連携と支援方策を検討した。

- 学生サークルのボランティア活動が報告されている。上演実演・留学生との交流・運営活動研修・医療防災・災害看護・公衆衛生・幼児教育が主な内容である。
- ボランティア支援方策の試みの一つとして「ボランティア支援・社会サービスセンターニュース」のボランティア募集情報を掲載した版を作成し学内に掲示（3 月）をおこなった。この試みは次年度も継続する。

(9)平井地区から岡山市、県、全国へと社会活動・地域貢献の輪を広げるための戦略を立て実践した。

- 平井学区の活動を広げる試みとして、表町商店街の中之町サンデーテントワーカーに、学生がカフェ・クラフト・福祉作業所の商品販売等の 1 日仮設ブースを出展した(9 月 28 日、10 月 5 日、11 月 9 日)。
- 笠岡市内の地区と連携する計画を進めている。

平成27年5月20日

平成26年度 会計課自己評価書

会計課

1) 財務に係る監査等について

会計基準に基づく会計処理が適切になされているかどうか、会計監査人及び監事監査人による定期的な監査が実施された。次年度以降も引き続き実施され、今後も適切な会計処理を行っていく。

【実績】

会計監査：4月、5月、6月、9月、11月、1月、3月

※4月、5月は平成25年度分

監事監査：5月、2月

※5月は平成25年度分

2) 財務情報の公開について

本学ホームページにて、以下の財務諸表（平成25年度実績）の情報公開を行った。

事業報告書、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録
監査報告書、グラフ、各科目の平易な説明、経年推移、主要な財務比率

3) 事務処理の簡素化・効率化について

1. 昨年度同様に現金取り扱いの軽減及び事務処理の簡素化に努めた。今後も簡素化できる部分については積極的に取り組んでいく。また総務課をはじめ各課との連携を深め、安全かつ適正な事務処理と効率化を更に図っていく。
2. 指定金融機関等の協力を得て、今後も迅速な支払いを図るとともに手数料等経費負担の軽減を図っていく。

4) 効率的・効果的な予算配分の実施

大学の教育目標を達成するために必要な経費が確保されているような予算配分であるかどうかの観点からも引き続き配分業務を行っていく。

5) 資金運用について

低金利の現状下ではあるが、安全かつ確実に有利な運用で利子収入が得られるよう、今後も努める。

以上

平成26年度キャリアセンター教育・事業報告書

キャリアセンターでは、学生一人ひとりが自信を持って就職活動を行い、納得のいく就職を決めることが出来るよう、1年次から卒業年次まで様々な角度から連続した支援を行った。また、専門職への就職率向上や就業後の離職率の低下を目指した指導を行った。

1 キャリアセンターの体制

部 長	1名（教員兼任）	次 長	1名
課長補佐	1名	主 任	1名
職 員	1名	臨時職員	1名

兼任1名、専任5名の6名体制で、そのうちキャリアカウンセラー（CDA：キャリアデベロップメントアドバイザー）の資格を持つ者が3名となっている。また内1名は、キャリアコンサルティング技能士2級（国家資格）を有している。

2 窓口での就職支援

キャリアセンターの窓口では、専任職員4名（うちキャリアカウンセラー3名）が大学・短大の学生一人ひとりに応じた個人相談や指導を行った。

求人票検索や企業情報の提供、履歴書作成のアドバイスなど応募書類を整えることから就職決定時まで、学生と一対一の面談を重ね、個々の学生に応じた内容で対応、指導を行った。

3 キャリアサポートシステムによる就職支援

平成21年度文部科学省GP採択により整備された「求人票、企業情報等の検索」や「就職ポートフォリオの作成」ができるキャリアサポートシステムの利用促進を図った。

1年次より学生全員をシステムに登録するとともに、20台の専用PCを配置したキャリアサポートラボを設置し、利用促進を図った。

また、本システムは、学内はもとより学外からもパソコンや携帯電話で求人票や企業情報が確認できるようになり利便性が向上した。

4 インターンシップへの協力

就職支援の一環として、総合人間学部の科目として単位化され、岡山県中小企業団体中央会の支援を受け実施している「インターンシップ」への協力を行った。キャリアセンターは事務的な関わりにとどまらず、企画・運営についても科目担当教員に対しての協力を行った。

学生時代に、実社会を体験することは、自信をもって社会に出ることへの有用な動機づけともなり、就職活動を学生自らが積極的に進めることに役立っている。

5 その他の就職支援

（1）学科の授業と連携した取り組み

看護を除く4学科で、キャリアセンターが主導して行う「社会人入門」という科目を設置し、学科別に社会人としての必要な知識を習得させた。

社会人入門では、キャリアセンターが作成した「キャリアガイドブック」を基に、一部

外部講師に依頼している部分はあるものの、キャリアセンター職員も企画・運営に関わり、自ら教材を作成して就職活動の要点を説明し、年々変化する就職活動に対して必要かつタイムリーな情報提供を心がけた。

(2) 就職支援行事

保護者や就職活動に臨む在学生を対象にした「就職懇談会」や「就職支援バス」、「実践！若者就職塾」、「卒業生による業界研究会」及び「就職セミナー」等を授業のない週末に企画、実施した。

その他、教員及びキャリアセンター次長による企業訪問を実施し、企業および本学卒業生との繋がりを大切にした。

(3) 各種検定や資格取得支援

学生の基礎学力向上と就職活動への動機づけを目的として、漢字検定・秘書検定・日商PC 検定等の資格取得を支援した。秘書検定は、検定試験直前に4回にわたる対策講座を主催することで学生の理解を深め、合格率の維持向上に努めている。

(4) 専門職学内企業説明会

各学科別に専門職就職を対象に、学内に企業、施設等をお呼びして行う学内説明会として「保育士合同面接会」(幼教)、「栄養士等業界研究会」(食栄)、「実習病院就職説明会」(看護)を、各学科の教員と協力して実施した。

6 キャリアセンターWG (キャリア運営委員) の開催

各学科2名の教員及びキャリアセンター役職員3名の計13名で構成されており、就職支援対策等を検討するために毎月1回開催した。

なお、平成26年10月にキャリアセンター運営委員会を廃止し、キャリアセンターWGに改組した。

7 就職率 (5月1日現在)

学 科			26年度	25年度
大学	看護学科		100.0	98.7
	総合人間	生活心理	100.0	92.9
		言語文化	95.0	100.0
短大	食物栄養		100.0	100.0
	幼児教育		100.0	100.0

8 今後の課題

- (1) 各学科の就職率水準を維持するとともに就職先の質と学生の就職満足度の向上を図る。
- (2) 参加者の少ない就職支援事業を検証する。
- (3) 新規求人先の開拓や過去に就職していたが最近求人がない企業など企業訪問先の拡大を図る。
- (4) 学生への就職支援の質を一層向上させるためにキャリアカウンセラーの養成を継続的に取り組む必要がある。

1. 学内禁煙

学内完全禁煙になってすでに 5 年が経過するが、正門入口付近に代表されるように、まだまだ一部の学生に喫煙が認められる。→ 平成 26 年度禁煙 100%を目指す。

＊大学全体として指導が必要。

＊平成 25 年 12 月健康・生活・安全機構会議において「ポイ捨て禁止」看板の設置が決定。

26 年度報告

「ポイ捨て禁止」の看板の設置や掲示を行うとともに、6 月から 12 月の間に全教職員で計 61 日間禁煙パトロールを実施した。正門外や西門外にごみは発見されたものの、喫煙者は 2 名のみであり、一定の抑制効果は見られた。

2. 違法駐車ゼロと交通マナー向上

平成 25 年度違法駐車 27 件（駐禁 2 回以上） → 平成 26 年度違法駐車ゼロを目指す。

＊学生部による駐車場チェック（基本は毎日実施）。

＊交通マナーについては、掲示の励行と交通安全講習会での指導を徹底する。

26 年度報告

駐車違反件数は 23 件に減ったものの、今後も駐車場チェックは継続する必要がある。

3. 学生向けアパートの新規開拓

学生寮満杯にともない、民間アパートの新規開拓が必要。現在、学生の需要に対して供給は十分と思われる。

→ さらに、従来から協力をいただいている 7 アパート、近隣不動産会社 8 社との協力関係を保ちながら新規の協力アパートと不動産会社の開拓を目指す。

26 年度報告

26 年度から学生寮にゆとりができたことから、現行の 7 アパートと 8 不動産会社で学生の需要には十分な対応が可能である。

4. 学友会役員数アップ

平成 24 年度 6 名、平成 25 年度 12 名のもの → 平成 26 年度新入生 15 名を目指す。

＊学友会が行う広報活動を全面的にサポート。

＊学生部窓口における適切な学生対応（相談と指導）。

26 年度報告

26 年度の学友会入会者は 10 名であった。依然として増員する努力が必要である。

5. 学生食堂利用者数アップ

平成 25 年度食堂利用率 37%（毎日利用～月数回を含む） → 平成 26 年度 60%を目指す。

＊平成 25 年 12 月キョートーフーズと協議し、メニューと金額について改善することが決定した。

平成 26 年 2 月中旬よりリニューアル予定。

＊学友会が行う広報活動を全面的にサポート。

26 年度報告

バイキング方式をメニューとして追加し改善を図ったが、学生アンケート調査では利用率は 38%（毎日利用～月数回を含む）であった。

4～7 月、10～1 月の 8 ヶ月の食数は 20,183 食。1 日平均 126 食（教職員含む）

6. 部活参加者数アップ

現在の部活参加率 44%（大学 41%・短大 48%）

→ 平成 26 年度 55%（大学 55%・短大 55%）を目指す。

＊学生部によるクラブ面談、クラブ訪問、説明会の実施。

＊学生部窓口における適切な学生対応（相談と指導）。

26 年度報告

26 年度の部活参加率は全体 56%（大学 60%、短大 48%）であり、全体及び大学は目標を達成したが、短大の参加率は昨年度と同じであった。

7. 学友会・部長会行事参加者数アップ

平成 25 年度実績

平成 26 年度目標

- ・春の祭り・・・32% (374 人) → 37% (430 人) ※教職員を含む
- ・平井の丘の祭・・・28% (300 人) → 35% (380 人)
- ・クリスマス会・・・17% (180 人) → 25% (270 人)
- ・部対抗・・・29% (100 人) → 50% (170 人) ※部活参加者からの算出

*リーダーズトレーニングによる指導、育成。(学生委員による)

*教授会、学科会議等での PR 依頼。

26 年度報告

春の祭は参加者数 430 人(教職員を含む)、平井の丘祭りは 370 人、クリスマス会については 250 人、部対抗については 6 月：164 人、12 月：109 人であり、前年度より参加者数は増加した。

8. 学生相談室

「身体相談」窓口の具体化

新年度が始まって 3~4 ヶ月は身体の不調から不適應が始まる学生が少なくない。

*平成 26 年 1 月健康・生活・安全機構会議において「健康相談室」立ち上げ。平成 26 年 2 月より、教員 2 名が学生と教職員の健康相談に応じる。

26 年度報告

健康相談室については、26 年度の利用実績はなかった。体制も含め再検討する必要がある。

9. 学生による自主的な活動

- ・平成 25 年 4 月「学さぽ」発足

SSS、学友会、大学祭実行委、部長会のメンバーが中心

平成 26 年度は 40 名体制、スタッフジャンパー着用で PR。

- ・*平成 25 年 11 月、自主防犯組織「さんぽと隊」発足

26 年度報告

「学さぽ～新入生お助け隊～」は、入学時のオリエンテーションや前期試験前の活動を通じて新入生の学生生活への不安解消に取り組んだ。

学生防犯ボランティア団体「さんぽと隊」は、地域のこどもたちへの見守り活動の推進、校内の自転車通学生への安全啓発活動。岡山県警と連携し、防犯イベントへの参加や各種犯罪抑止広報活動、パトロール活動など積極的に防犯活動を行った。

10. 防犯指導

平成 26 年 4 月オリエンテーション期間中に防犯講習会を開催予定

26 年度報告

4 月のオリエンテーションにおいて、岡山県消費生活センター、岡山中央警察署の講師により、1 年生全学科対象に半日間の防犯講習会を行った。

重点事業実績報告 平成 26 年度 共生グローバル

谷一 尚

「国際交流・留学生支援」

1) グローバル化に対応した、積極的な外国人留学生受入と支援の強化のため、共生・グローバル推進センターを、2014 年度中に準備し、2015 年 4 月 1 日から正式に設置

2) 国際交流事業のさらなる活性化

1. 短期交流受入 提携校湖西大学生との合同チームでうらじゃ祭参加、提携校中華大学生とは市長表敬訪問、一般財団法人日本国際協力センターの「JENESYS2.0」歴史文化第 9 陣フィリピン訪日団の本学受入

2. 短期交流研修派遣 韓国へ従来の言語文化学科学生だけでなく、本年度は生活心理学科、短大の食物栄養学科の学生も参加

3. インターン受入 従来の国際ホテルに加え、本年度は市役所にも派遣

4. 中期留学生受入 提携校中華大学・提携校湖西大学から

5. 中期留学生派遣 従来の韓国、ニュージーランドだけでなく、本年度は米国も

6. 文部科学省日本語・日本文化研修国費留学生 本学へ受入

平成 26 年度山陽学園大学図書館自己評価書

平成 26 年度の図書館活動状況について、以下の 3 つの視点で自己評価を行った。

1. 図書館の概要

(1) 施設・設備

第二書庫にある電動書庫が故障し、修理を依頼したが認められず、現在も職員の人力による開閉を行っている。この場所は看護学科の雑誌のバックナンバーが所蔵されているため、卒論の利用者が多い。一人での入庫は危険が伴い、学生のみ利用を禁止しているため、職員の負担は大きく、学生からは夜間の入庫ができず、不満がでている。

また第一書庫 4F のエアコンも未設置のままで、環境整備は最重点課題である。

(2) 開館日・開館時間

開館日・開館時間は昨年と同様である。平日は 8:30~19:30（後期は 19:00）、土曜日は 17:00 まで開館している。特に看護学科の学生より、開館時間の延長、日曜日の開館希望が出されているが、職員数、勤務時間等の関係もあり、今後の課題である。

(3) 入館者・貸出冊数

入館者数合計は 30,497 人で、昨年の 34,588 人から 4,000 人ほど減少している。ただ、大学の貸出冊数は 8,392 冊から 9,438 冊と 1,000 冊ほど伸びているため、減少したのは短大であろうと思われる。看護学科だけでなく、総合人間学部の利用も授業に関係ある分野で増加している。今後とも教員との連絡を密にして、この状態を維持していきたい。

(4) 資料

12 月 31 日現在の蔵書冊数は 145,658 冊で、内訳は大学が 42,490 冊（和書：34,968 冊、洋書：7,522 冊）、短大が 103,168 冊である。書庫スペースに余裕が無く、除籍を行っているため全体の蔵書冊数は増えない。

購入雑誌は大学が 171 種（和雑誌：123 種、洋雑誌：48 種）、短大は 67 種の計 238 種を購入している。雑誌は近年冊子体から電子ジャーナルへ形態が変化しており、特に大学の洋雑誌は半分が電子ジャーナルとなっている。電子ジャーナルは価格が高騰しており、何処の大学図書館も費用の捻出に頭を痛めている。

また電子ジャーナルとともに近年利用が広まっているのがデータベースである。卒論等で学生が気軽に論文を検索できるため、本学でも契約数が増加している。特に看護学部の利用が多く、初めて契約したメディカルオンラインはパッケージ契約であったため、すぐパンクしてしまう事態となった。このため、来年度は高額になるが、フリープランに契約の変更をする予定である。

2. 学生への教育支援

(1) 新入生オリエンテーションと文献ガイダンス

図書館では新入生全員に図書館のオリエンテーションを行っている。特に総合人間学部は、教員と連携して授業に組み込んでもらい、90分全てを図書館オリエンテーションに使わせてもらっている。

また卒論指導の一環として、ゼミ単位で文献ガイダンスも行っている。昨年は10回行った。看護学部の学生は文献複写依頼も多く、年を追うごとに本学からの文献複写依頼件数は伸びている。

しかしオリエンテーションや文献ガイダンスが、有効なものとしてまだ認識されていない部分もあり、参加のないゼミもある。今後は職員の技術を向上させ、より有益なものを作り上げ、学生の卒論を援助していきたい。

(2) ブックハンティング

学生の読みたい図書が少ないという意見を受け、ブックハンティングを実施している。学生と教職員の希望者が書店に出向き、図書館に置く図書を選定するシステムである。昨年5年目を迎えた。前期と後期に2回ずつ、同時期に二つのブックハンティングを行っている。

一つは希望者が書店に出向き選定する方法で、こちらは小説や新刊書等、学生の好みの図書の選定が多い。もう一つは看護学部の学生向けで、実習で参加できない学生のため、自由な時間に医学書専門の書店で選定するシステムである。学生が実習等で必要な図書を選ぶため、看護学部の学生の利用度はかなり高い。また例年楽しみしている学生もあり、今後も継続して行いたい。

(3) 読書感想文コンテスト

今年で3回目を迎えた。授業等で読書感想文を書く機会が少なくなった今、表現力を高めてもらい、且つ読書の楽しみを再確認してもらうことを期待して始めた。今年度は教員の協力もあり、45名もの応募者があった。1月22日に表彰式を行い、最優秀者の作品は図書館入口に展示している。来年度も多くの方が参加してくれることを期待している。

(4) シラバス参考図書と課題図書

例年通り、シラバスの参考図書は全て購入し、別置している。また課題を出された教員からレポート情報をもらい、受講者数等を鑑みながら、貸出期限や館内閲覧等の処理をしている。レポート情報の収集率が低いため、今後は回答率を高めるよう、教員へ働きかけたい。

3. 社会貢献

(1) 情報の公開

「山陽論叢」「山陽学園短期大学紀要」「山陽看護学研究会誌」を国立情報学研究所のCiNiiに登録し、一般に公開している。利用件数も増えてきており、有効に活用されているようである。

しかし平成28年度末をもって、CiNiiが「紀要」の公開事業から手を引き、機関リポジ

トリの公開に移行するため、本学でも今後は機関リポジトリの構築が課題となってくる。

(2) 図書館の開放

図書館の一般の方への開放は平成 21 年より行っている。当初は本学の卒業生がメインであったが、看護学部ができたことにより、近隣の看護師や看護学生がよく利用するようになった。来館者数も増加している。26 年度の登録者数は 55 名、来館者数は 88 名であった。

(3) 中学生職場体験の受け入れ

平成 14 年から職場体験の中学生を受け入れている。今年度も山陽女子中学校より依頼があり、3 名を受け入れた。本学図書館を知ってもらう良い機会なので、今後も引き受けていきたい。

(4) 図書館ホームページの更新

学外から図書館情報や蔵書検索ができるよう、ホームページを開設している。今後も使いやすさ、内容の充実、頻繁な更新を心掛けたい。

平成 26 年度山陽学園短期大学図書館自己評価書

平成 26 年度の図書館活動状況について、以下の 3 つの視点で自己評価を行った。

1. 図書館の概要

(1) 施設・設備

第二書庫にある電動書庫が故障し、修理を依頼したが認められず、現在も職員の人力による開閉を行っている。今後他の箇所も故障する予兆が出ており、早めの対応をお願いしたい。

また第一書庫 4F のエアコンも未設置のままで、環境整備は最重点課題である。

(2) 開館日・開館時間

開館日・開館時間は昨年と同様である。平日は 8:30~19:30（後期は 19:00）、土曜日は 17:00 まで開館している。学生からは開館時間の延長希望が出されているが、職員数、勤務時間等の関係もあり、今後の課題である。

(3) 入館者・貸出冊数

入館者数合計は 30,497 人で、昨年の 34,588 人から 4,000 人ほど減少している。短期大学学生の貸出冊数が昨年の 8,876 冊から 5,051 冊と大幅な減少となったことより、入館者の減少の原因は短大生の貸出が減ったことと思われる。貸出が減少した主な要因は、幼児教育学科の絵本の貸出が減ったためである。一人あたりの貸出冊数も一昨年の 22.7 冊から 13.4 冊へと 9 冊も落ち込んでいる。

今後は幼児教育学科の教員と連絡を取り合い、貸出冊数の回復を目指したい。

(4) 資料

12 月 31 日現在の蔵書冊数は 145,658 冊で、内訳は大学が 42,490 冊、短大が 103,168 冊（和書：92,952 冊、洋書：10,216 冊）である。書庫スペースに余裕が無いため、特に創設の古い短大の図書は除籍を行っているため、蔵書冊数は減少に向かっている。

購入雑誌は大学が 171 種、短大は 67 種（和雑誌：56 種、洋雑誌：11 種）の計 238 種を購入している。

今後も場所の確保は継続的に続くため、書庫の増設等、何らかの措置が必要である。

2. 学生への教育支援

(1) 新入生オリエンテーション

図書館では新入生に図書館のオリエンテーションを行っている。教員の協力もあり、授業時間内に行っているため、全員の参加が可能となっている。今後は図書館職員の技量を高め、より有益なものにしていきたい。

(2) ブックハンティング

学生の読みたい図書が少ないという意見を受け、ブックハンティングを実施している。学生と教職員の希望者が書店に出向き、図書館に置く図書を選定するシステムである。昨年4年目を迎えた。年2回、前期と後期に行っている。学生目線で選ぶ小説や新刊書、学科に関する図書等が多いため、コーナーを設置すると学生の利用度はかなり高い。また例年楽しみにしているリピーターも多く、今後も継続して行いたい。

(3) 読書感想文コンテスト

今年で3回目を迎えた。授業等で読書感想文を書く機会が少なくなった今、表現力を高めてもらい、且つ読書の楽しみを再確認してもらうことを期待して始めた。今年度は教員の協力もあり、45名もの応募者があった。1月22日に表彰式を行い、最優秀者の作品は図書館入口に展示している。来年度も多くの学生が参加してくれることを期待している。

(4) シラバス参考図書と課題図書

毎年、シラバスに掲載されている参考図書は全て購入し、別置している。また課題を出された教員からはレポート情報をもらい、受講者数等を鑑みながら、貸出期限や館内閲覧等の処理をしている。レポート情報の収集率が低いため、今後は回答率を高めるよう、教員へ働きかけたい。

3. 社会貢献

(1) 情報の公開

「山陽論叢」「山陽学園短期大学紀要」「山陽看護学研究会誌」を国立情報学研究所のCiNiiに登録し、一般に公開している。利用件数も増えてきており、有効に活用されているようである。

しかし平成28年度末をもって、CiNiiが「紀要」の公開事業から手を引き、機関リポジトリの公開に移行するため、本学でも今後は機関リポジトリの構築が課題となってくる。

(2) 図書館の開放

図書館の一般の方への開放は平成21年より行っている。当初は本学の卒業生がメインであったが、看護学部ができたことにより、近隣の看護師や看護学生がよく利用するようになった。来館者数も増加している。26年度の登録者数は55名、来館者数は88名であった。

(3) 中学生職場体験の受け入れ

平成14年から職場体験の中学生を受け入れている。今年度も山陽女子中学校より依頼があり、3名を受け入れた。本学図書館を知ってもらう良い機会なので、今後も引き受けていきたい。

(4) 図書館ホームページの更新

学外から図書館情報や蔵書検索ができるよう、ホームページを開設している。今後も使いやすさ、内容の充実、頻繁な更新を心掛けたい。

1. 全学広報の強化

大学・短期大学の知名度向上を目的とした TVCM 放映・新聞（山陽新聞「岡山の大学へ行こう」企画への参加等）の各種メディアを活用した受験生だけではなく幅広い年代をターゲットとした広報を行った。

2. 入試広報

各学科で策定したアクションプランを確実に実施し、その他の諸事業（大学案内・ホームページの改訂、広報戦略・広告媒体の見直し・強化、県外高校訪問の強化、オープンキャンパスの実施、オープンキャンパス参加者・受験者・入学者の動向調査解析に基づいた入試広報戦略の策定、社会人・シニア世代入学への PR の実施、総合人間学部の特化した募集広報戦略の実施等）も鋭意継続実施した。

高校訪問についても従来のやり方を変更し、訪問校に重点度（過去の志願者・入学者の実績を基準にランク別け）を設け、重点度に応じて訪問回数、時期を決定した。訪問者も限定（高校・地元との繋がりを構成要素に加えた布陣）して行った。その結果、オープンキャンパス参加者数は対前年 107%、推薦・AO 入試の志願者数は対前年 104%と増加した。

3. 入試制度の見直し

26 年度後期から「IELP 英語特別集中プログラム」を実施し、英語資格特待生制度や 30 歳以上の社会人を学費の面で優遇する特典を設け、各 1 名の入学者があったが、入学者の大幅な増加には結びつかなかった。英検 2 級有資格者が高校 3 年生全体の 2 %程度であること、どのような「学び」を経て成長に結びつくのか、という面で弱かったことが要因と考えられる。社会人・シニア世代入学へも学費優遇制度が十分浸透しなかった。

一般推薦Ⅰ期の幼児教育学科の選考方法を見直し「基礎学力検査」を導入した。従来の「自分アピール書」を用いた選考方法では評価が難しかった学力を測る目的で実施したが、学力試験を避け AO 入試に切り替えた志願者が増加した感がある。

また、出願期間を長くし、推薦志願者増を図る目的で一般推薦Ⅱ期の時期を従来の 11 月末から 12 月初旬に変更したが、期間後半に出願が集中する状況は変わらず、志願者増には至らなかった。

前年度から導入した「繰上合格制度」については、志願者数が大きく変動した看護学部の手続者（入学金納入者）の歩留まりを上げることに大いに役立ち、入学定員の確保に繋がった。

4. 平成27年度方針

①学生募集戦略の強化

26 年度に大学・短期大学の知名度向上を目的とし TV・新聞等の各種メディアを活用し、受験生だけでなく幅広い年代に向けた広報を行った。今年度も当該施策を継続実施する。

高校訪問・各種説明会・オープンキャンパスについては各学科と連携し、これまで積み上げてきた情報に基づき PDCA に則った取り組みを行う。

また、近年高校生の使用率が高まっているスマートフォンを活用した情報発信を積極的に行う必要がある。在学生を巻き込む形で実施したい。

②学部と連携した特別対策戦略の企画、対策実施

特に定員充足が未達の学部・学科に対し、在学生、高校、進学情報ベンダ等の多方面からの意見を踏まえ課題を明確化し有効策を講じる必要がある。在学生アンケートや山陽女子高校教員の協力を得ながら早々に現状把握を進めたい。同時に即効性のある施策を行い 28 年度入試に備えなければならないため、既存の募集戦略に加え高校、日本語学校のクラス単位での見学会招致を積極的に行い、本学の学びを直接体験することで理解を得たい。

また、留学生に対しては入学願書受付期間中に日本語学校に出向き手続方法や必要書類について直接指導を行い出願に結び付けたい。

③入試制度の見直し、確実な入試運営

センター試験利用 I 期の看護学部の志願者数が対前年 49%と大きく減少した。要因としては競合校の増加の他、全国私大の約 1/3 が web 出願を導入したことが考えられる。Web 出願に関しては、費用対効果の観点から導入を見送っていたが、受験生の利便性を考えると数年後には全大学に普及するものと予想する。28 年度入試からの導入に向け、システム開発に着手する。

入試運営においては、10 月～翌年の 3 月までに 12 回実施している。過年度入試における改善の反映、変更点や重点事項を分かり易く入試担当者に伝えトラブルやミスの防止に努める。

また、それらが発生した際のフォロー体制を盤石なものとすべくマニュアル等の整備を行う。

以上

平成 26 年度事業報告 谷一 尚 2015(H27).5.31

総合人間学部の学生充足率の向上は喫緊の最重要課題であり、これとともに各学科で策定したアクションプランを確実に実施し、その他の諸事業も鋭意実施した結果、平成 27 年 5 月 1 日現在の充足率順が、看護 112%、幼児教育 104%、食物栄養 84%、言語文化 61%、生活心理 55%となった。短大全体では 95%、大学全体では 79%であるので、やはり総合人間学部の動向が大学・短大全体の浮沈を握る重要な鍵となっている。

しかしながら、総合人間学部における日本人学生入学者が、生活心理は 19 人 (H24) → 30 人 (H25) → 31 人 (H26) → 32 人 (H27) と、ここ数年 30 人以上を維持しているのに対し、言語文化は 17 人 (H24) → 17 人 (H25) → 30 人 (H26) → 13 人 (H27) と減少、言語文化が留学生に頼る傾向は依然として変わっていないのが現状である。平成 26 年度後期から「IELP 英語特別集中プログラム」を実施し、英語資格特待生制度や 30 歳以上の社会人を学費の面で優遇する特典を設けたが、各 1 名の入学者はあったものの、入学者の大幅な増加には結びついていない。高校訪問時に要請のあった、4 月に入ってから（本年度は 4 月 11 日まで）の入学者受け入れも、利用者は 1 名という結果であった。来年度はこういった部分の強化が必須と考えられる。